

研究集録17集  
昭和55年度

# 豊かな人間性を育てる特別活動

—新教育課程に即した指導計画と  
その実践—

昭和56年3月5日

東京都小学校特別活動研究会

## 目 次

○ 第17集の発刊によせて 会長 久納六郎 .....	2
○ 研究の主題「豊かな人間性を育てる特別活動」 専門部長 比村康富 .....	3
○ 昭和56年度研究発表大会要項 .....	4
I 学級会活動「学級会活動の指導計画とその実践」 .....	5
II 児童会活動「豊かな人間性を育てる児童会活動の計画と実践」 .....	29
III クラブ活動「個性の伸長と連帯感の育成を図る指導のあり方」 .....	52
IV 学級指導「実践的態度を育てる学級指導の指導計画のあり方」 .....	77
○ 特別講演「ゆとりと特別活動」 青木孝頼先生 .....	99
○ 新春座談「世界に目をひろげた今後の特別活動」 .....	101
○ 役員・本部幹事・理事名簿 .....	103
○ 編集後記 専門部副部長 岩園敏明 .....	104

### — 今までの研究集録一覧 —

第1集(昭和39年度)	特別教育活動における指導計画作成上の諸問題
第2集(昭和40年度)	特別教育活動の本質をふまえた指導計画のあり方
第3集(昭和41年度)	特別教育活動の本質をふまえた望ましい指導計画と実施計画
第4集(昭和42年度)	望ましい指導計画による実践事例とその考察
第5集(昭和43年度)	望ましい指導計画による実践事例とその考察
第6集(昭和44年度)	改訂指導要領実施のための具体的方策と問題点
第7集(昭和45年度)	改訂指導要領実施のための具体的方策と問題点
第8集(昭和46年度)	新教育課程実践上の諸問題
第9集(昭和47年度)	教育課程実践上の諸問題
	— 各内容相互関連と他の領域等の関連 —
第10集(昭和48年度)	特別活動と他領域との関連
第11集(昭和49年度)	ひとりひとりを生かす特別活動の特質と指導のあり方
第12集(昭和50年度)	ひとりひとりを生かす特別活動の特質と指導のあり方
第13集(昭和51年度)	ひとりひとりを生かす特別活動の指導のあり方
第14集(昭和52年度)	楽しく充実した学校生活をめざす特別活動
	— 新教育課程をふまえて —
第15集(昭和53年度)	楽しく充実した学校生活をめざす特別活動
	— 新教育課程をふまえて —
第16集(昭和54年度)	楽しく充実した学校生活をめざす特別活動
	— 新教育課程をふまえて —
第17集(昭和55年度)	楽しく充実した学校生活をめざす特別活動
	— 新教育課程をふまえて —

## 第 17 集の発刊によせて

会 長 久 納 六 郎

昭和55年度は、新教育課程完全実施の年に当たります。自ら考え正しく判断できる力をもった、人間性豊かな児童生徒の育成を大眼目にした小学校教育のスタートが切られたわけであり、小学校教育の歴史からみた時、昭和55年度は正に画期的な年と、後世の人は位置づけるのではないのでしょうか。

ところが、この55年度に最も大きな社会問題となったのが、青少年の非行化であり、特に中学生の校内暴力であったというのは、まことに皮肉なことといわなければなりません。戦後もすでに35年を経過しました。戦後の教育で、戦前の教育に比べて特に強調されたのは、個性の伸長であり、自主自律の精神の涵養であったと思います。その35年間の教育の結末がこういう結果になって表われてきたことを、私たちはどう解釈したらよいのでしょうか。もちろん、これらの結末をすべて学校教育の責任と考えることはできませんが、少なくとも教育の道にたずさわる者としては大きな反省をする必要があるのではないかと思います。特に、特別活動を研究し推進する私たちは、改めて、健全な自主性とは何か、集団と個の関わりはどうあるべきか等を問い直し、真に人間性豊かな児童生徒の育成に力を注いでいかなければならないと思います。

さて、都特活は発足以来17年目を迎え、その研究集録も第17集を発刊する運びとなりました。今、既刊の16集全部を積み重ねてみますと、その高さが9センチメートルにもなりました。第1集は50頁、第8集は80頁、そして第16集は110頁の頁数です。研究集録が、年ごとに質、量共に着実に充実していることが分ります。今、9センチメートルの高さになった研究集録を眺めた時、都特活の歴史と伝統の重みをしみじみと感じます。都特活がこのように発展したのも、ひとえに先輩各位、そして会員各位の努力の賜であります。今度発刊される

第17集の作成に当って、北村専門部長を中心に、岩園、岩下副部長、4部門の各研究部長、そしてご協力くださった幹事各位に心から感謝を申し上げる次第です。

# 豊かな人間性を育てる特別活動

## — 新教育課程に即した指導計画とその実践 —

専門部長 比村 康富

### 1. 主題設定にあたって

時、まさに新教育課程の実施の年、「自ら考え、正しく判断する、人間性豊かな児童の育成」をめざし、特別活動が人格形成上、重要な役割りを果たすので、その期待も大きい。これを受けて、都特活では、「豊かな人間性を育てる」という大課題を真正面から取り組み、特別活動の本質と特質を究明、指導の充実を図ろうと考えた。

### 2 16年来の研究実績をふまえて

昭和39年度の第一集で、「特別教育活動における指導計画作成上の諸問題」をまとめて以来、40～43年度、「本質をふまえた指導計画、実践事例の考察」、53年に再び「特別活動の全体計画」、54年は「新教育課程をふまえた指導計画の作成と実践例」について研究した。

このように「指導計画」について都特活が全都の特別活動の推進にあたって、一つの試案を提起してきたことは高く評価されている。いまここに特別活動の基本的な性格を再吟味し、どの学校においても、また、誰れもが指導の手引きとして役立つ指導計画例として示すことを念願しながら、学級会活動、児童会活動、クラブ活動、学級指導の分野にわたって、三年次計画の完結をみた。

全体計画で領域としての目標を確かにおさえ、各分野の活動がどのように人間形成にせまるか、なすべき課題と指導のあり方を追求するために、「指導計画とその実践」が設けられて、都内の各学校での着実で、しかもユニークな実践事例を集録していった。

### 3. 21世紀を展望しながら

末業への衝撃から10年後、第三の波を発表したトラフーも、あるいは多くの未来学者が21世紀は想像を超えた時代の到来を語り、地球社会では、国家というものの存在も変わり人類として、まさに人間を問い直すことになるのではないのでしょうか。

この機にあたり、文部省の視学官、青木孝頼先生のご講演をいただきましたこと、あるいは久納会長さんの未来への展望、さらに、役員の方々の新春の国際人として座談会なども、この紀要に集録でき大きな示唆を受けました。ここに深甚なる感謝を申し上げます。

56年度に、豊かな人間性を育てる特別活動を継続して追求して参りますが、具体的な内容や指導、活動について、実践を持ち寄ろうではありませんか。

各 小 学 校 長 殿

昭和56年2月2日

東京都小学校特別活動研究会会長 久 納 六 郎

## 東京都小学校特別活動研究会

### 昭和55年度研究発表大会ご案内

年度末をひかえ校務ご多忙のことと存じます。

本研究会では、児童会・学級会・クラブ活動・学級指導の四部門別に研究を進めてまいりましたが、このたび下記のとおり研究会を開くことになりました。

ご多忙とは存じますが、貴校職員の参加につきまして、ご配慮くださいますようお願いいたします。

なお、各校一冊研究集録が配布されますので、ぜひ受け取り旁々ご参会をお待ちいたしております。

#### 記

1. 日 時 3月5日(木) 午後1:30～4:00
2. 会 場 千代田区立永田町小学校
3. 研究主題 「豊かな人間性を育てる特別活動」

— 新教育課程に即した指導計画とその実践 —

	学 級 会	児 童 会	ク ラ ブ	学 級 指 導
テ ー マ	学級会活動の指導計画とその作成	豊かな人間性を育てる児童会活動の計画と実践	個性の伸長と連帯感の育成を図る指導のあり方	実践的態度を育てる学級指導の指導計画のあり方
運 営 部 長	高見沢豊栄 (上高田小)	渡辺 寿 (開進三小)	大谷 徹夫 (神宮前小)	安岡 正凱 (光和小)
司 会	名取 幹夫 (葛西小) 飯田 晃 (上高田小)	宮下 花子 (西町小) 有村 久春 (東中野小)	小野 真澄 (金町小) 瀬崎 耕一 (南富士見小)	森山 裕夫 (井口小) 嵯峨 悦子 (錦糸小)
発 表 者	大谷 武夫 (青山小) 飯沼 宏 (立川二小) 藤田 裕子 (源氏前小)	米村 滋雄 (葛飾小) 味村美恵子 (源氏前小) 小川 進一 (西戸山小)	後藤 治司 (第七葛西小) 関口 照治 (菊川小)	鈴木 和子 (白金小) 重松 誠 (高輪台小)
記 録	野村みや子 (小平十二小) 山本 英一 (柳町小)	佐々木善光 (梅島一小) 吉仲ミチ子 (九段小)	権田 滋子 (桜小) 大立目恵子 (竹芝小)	鈴木 恭子 (上小岩小) 井上 芳子 (小平十一小)
助 言 者	荒川区立大門小学校 佐藤 弘 葛飾区立小谷野小学校 斉藤 斌 足立区立彌生小教頭 峰田 陟 文京区立林町小教頭 竹石 善一	多摩市立南貝取小校長 外村 近 墨田区立二葉小校長 大西 弘 町田市立本町田東小教頭 島田 泰介 板橋区立志村一小校長 松野 彰夫	江戸川区立第三松江小校長 小島 明 北区立滝野川四小校長 広瀬 英二 八王子市立橋原小教頭 岩園 敏明 港区立桜小教頭 小川 国寿	千代田区立永田町小校長 中田 英義 豊島区立朝日小校長 古橋 宏 文京区立大塚小教頭 石川 和男 世田谷区立桜小教頭 岩下 紀夫
※全体の助言者	元東京都小学校特別活動研究会会長 白 井 健 二 前東京都小学校特別活動研究会会長 小 谷 威			

# I 学級会活動

## テーマ 「学級会活動の指導計画とその実践」

1. まえがき	7
2. 指導計画の作成にあたって	7
3. 研究の内容	8
(1) 学級会活動のねらいについて	8
(2) 学級会活動の内容について	8
(3) 時間のとり方	8
(4) 組織・運営	9
(5) 評価	9
4. 学級会活動指導計画(例)	10
・第1学年	10
・第2学年	12
・第3学年	14
・第4学年	16
・第5学年	18
・第6学年	20
5. 実践例	22
・低学年	22
・中学年	24
・高学年	26
6. 研究の反省と今後の課題	28

### — < 学級会 コーナー > —

・議題案の出し方のくふう	11	・ポストの利用	13
・指導と助言を生かして	15	・議題を集める前に	17
・学級会黒板と学級会コーナーの活用	19		
・指導助言と先生の話、副議長の役割	21		

○ 研究の経過

- 5 5. 6. 1 0 総会、部会、組織づくり、研究の進め方について
- 5 5. 6. 2 4 研究テーマ、内容の検討 「学級会活動の指導計画とその実践」
- 5 5. 7. 1 5 「学級会活動の本質に迫る指導計画のあり方」について研究協議
- 5 5. 9. 1 1 指導計画試案作成・内容の検討
- 5 5. 9. 2 5 「指導計画とその実践」について研究協議、各区・学校の情報交換
- 5 5. 1 0. 2 8 望ましい指導計画の作成について。講師・講演・指導
- 5 5. 1 1. 1 3 授業研究・指導計画とその実践(授業の組み立て)
- 5 5. 1 1. 2 1 授業研究・指導計画とその実践(事前指導と話し合い活動)
- 5 5. 1 2. 1 1 指導計画の作成とその実践のまとめ。学級会コーナーの研究
- 5 5. 1. 1 5 研究のまとめ 講師・指導助言
- 5 6. 2. 2 6 研究発表事前準備

研究・執筆者名簿

部長	高見澤豊栄	中野・上高田小	宮内 紀子	東久留米・下里小
副部長 (発表者)	太谷 武夫	港 ・青山小	上床 美嗣	府中・府中7小
" (記録)	野村みや子	小平・小平12小	福元 弘和	府中・府中7小
" (司会)	飯田 晃	中野・上高田小	大数見 仁	中野・大和小
(発表者)	飯沼 宏	立川・立川2小	小野寺嘉雄	文京・千駄木小
(発表者)	藤田 祐子	品川・源氏前小	高倉 素子	荒川・大門小
(司会)	名取 幹夫	江戸川・葛西小	佐藤 恭子	荒川・大門小
(記録)	山本 英一	文京・柳町小	清水 裕子	東村山・化成小
	梅木 栄子	中野・上高田小	奈良 共康	武蔵野・武蔵野1小
	岡本ウメ子	調布・富士見台小	石鍋まり子	荒川・赤土小
	村上いと子	豊島・長崎小	山崎 玲子	北 ・桐ヶ丘小
	岡本 一江	杉並・高井戸4小	宝沢 政江	清瀬・清瀬6小
	青木佐久子	杉並・高井戸4小	永野 定子	荒川・第一日暮里小
	佐々木久子	文京・関口台小	大道 恵子	品川・大井第1小
	小師 光子	東久留米・下里小	土岐 光子	江東・越中島小
	中島貴志子	東久留米・下里小	広瀬 弘子	中野・上高田小
			藤原 弘子	中野・上高田小

## 1. まえがき

### (1) 研究課題について

教育課程で、児童が自らの手で「自治的な実践活動」を計画し実践できる教育活動は、特別活動、つまり、児童活動だけである。学級会活動は、この児童活動であり、「自治的」が特質であり、児童の活動として定着していくところに学級会活動の本質がある。

本年度より実施されている新教育課程は、「自ら考え、正しく判断し、進んで行動することができる人間性豊かな児童の育成」をめざしている。そのために、特別活動の分野からの教育上の役割が大きく期待されていることをまず受けとめる必要がある。

都特活は、「豊かな人間性を育てる特別活動」が本年度の研究主題である。したがって、教育課程を受け、学級会活動として、豊かな人間性を育てる教育実践は、どのようであるべきかを研究課題にしている。

そこで、本研究部は、学級会活動の基本的な性格とは何かを原点から問い直すとともに、今までの教育実践のひとつひとつを洗い直し、再検討を行い、更に、新しい教育課程に対し学級会活動でなければならない教育上の役割を生かす研究を進める。その結論を、学級会活動の流れとしてまとめ、児童の実践活動及び指導の充実を期す指導計画とその実践に集約する。以上を研究基調に、本研究部の主題に設定した。

### (2) 研究への取り組み

研究は、次のような考え方と手順で行った。

- ① 本年度の学級会活動の現状分析。(基本的性格の見直す視点、改善点の解明)
- ② 学級会活動の指導計画作成。(現行指導計画の問題点と、いつでも、だれでも使える指導計画のあり方)
- ③ 授業研究で検証。(事前の指導・事中の指導・事後の指導と児童の活動)
- ④ 学級会活動の本質をより高める手だて。(学級会コーナーと、学年・活動の特質)
- ⑤ 講師の指導助言をいただき、研究内容の充実と向上を図る。

## 2 指導計画の作成にあたって

指導計画の作成は、学習指導要領に示される通り、各学校の創意、児童の発達段階、児童活動の指導上の配慮、授業時数などをふまえ、各学校が作成するものである。

本研究部は、現在新教育課程の実施とともに、各区市町村・各学校が指導計画をもとにした授業を行っている現状をしっかりとみつけ、現行のものへの改善、今後作成されていくものへの生きた資料、直接の授業に、いつでも、だれでもが活用できる資料であり、指導の手引



き書でありといったものにするをめぐりて指導計画を作成することにした。見易く、使い易く、教師の指導助言の一助にとした見開き、項目、学級会コーナーに特徴を出した。

### 3. 研究の内容

#### (1) 学級会活動のねらいについて

学級会活動のねらいは、児童の発達、地域・学校・学級のちがいなどから、低学年、中学年、高学年とする区分が活動の特質を生かせると考えられてきたが、学級会活動の現状ではむしろ各学年の基本的な面を重視し、指導すべきこと、児童に任せるべきことを明確にすることが大切であると考え、各学年を研究の主体とした。

#### (2) 学級会活動の内容について

学級会活動は、話し合い活動、係活動、学級集会の活動が組織され、学級の全児童が参加し学級生活の諸問題に対し、みんなで解決していく活動である。そこで、もっとも基本的性格となるものは、児童自らが選択する自由と自主的な活動の展開であり、実践であることが生命となることである。役割を分担する、解決の可能なこと、自発的・自治的な実践活動、流動的な計画、認め合いの評価、満足感と充実感といった活動との関わりは、すべてが学級会活動でなくてはできない本質として生かしていくことからである。成功・失敗の結果論でなく、どんなに弱々しい進歩でも、それが大切な成長の芽であることに視点を置き、「なすことによって学び、伸びる力」にする活動となるものを究明し、平素に生かすことにした。

指導計画は、教育目標を達成する意図的計画的なものである。児童の活動をより効果的に進めさせていくために、常に確かな指導内容を持ち指導と助言に生きるものを作成する。

#### (3) 時間のとり方

各学級、週1単位時間が定められている。そこで、この時間を有効に活用する方法を工夫する必要がある。右図は、その例である。一定の型を作り、児童を主体にした実践活動の展開が全児童にわかり円滑に行われる試みである。

今週の学級会の議題は、児童のねがいや期待の強いうちに取り上げることが学級会活動の本質に立つ時間設定である。問題を全児童に共同のものとし、活動意欲をより高め、実践活動につないでいく指導が、児童を生き生きさせる過程として大切である。

	帰りの会、放課後等
土	議題ポスト投入・カード提出
月	議題整理・議題決定
火	計画委員会
水	事前予告・準備
木	学級会

学級会活動の時間は、児童に任せた活動で無限の可能性が生ずる。プラス〇分の時間こそゆとりの時間の生きた活用である。45分が60分、100分の展開にすることも可能である。

#### (4) 組織・運営

##### ① 話し合い活動

低学年の学級会活動は、どこにどんな問題があるか。議題としてどうすればよいか。どうなってほしいかを話し合うにも、その方法がわからないのが実態にある。この実態に、話し合い活動の指導をすることは、①基本となる物の考え方・見方を正しく指導する。②学級の問題として取り上げる手続き、③話し合いのルール、④具体的な活動のあり方、⑤みんなで結果を大切に（評価）、⑥今までの経験を応用しこの活動に生かすことをはっきり教えることである。その結果が、中高学年の児童自らが主体的に活動する質を高めるものになる。

##### ② 係活動

自らの学級生活に欠かすことのできない仕事をする。そのために、何をすべきかを自ら考え、自ら進んで解決処理する自覚が大切である。しかも、自らの主体的な実践活動に高まらない限り、児童が互いに協力したり、認め合い励まし合う活動にならない。要は、形式や技術的なことでなく、仕事の本質を正しく受けとめ、日々の積み重ねの実践力として育てていくことが大切な指導である。特に、マンネリ化したり停滞がちな活動には、創意と工夫をこらした活動の展開を図っていくことに効果がある。指導上の留意点として改善する点である。

##### ③ 学級集会の活動

学級会活動は集会活動であると考えられる教師と児童が多いのも、この活動の特徴である。これは、誤った考え方であるが、児童にとって大好きな活動であることは事実である。そこで、この活動を通して、話し合いの大切さ、係の仕事の責任の重さにもつながる認識と必要性に気付かせたい。この過程の指導を教師がしっかりおさえ、支えてやることで、児童の意欲と活動が高まり、人間関係をより望ましいものし、豊かな人間性が育つことになる。

##### ④ 評価

児童の発達段階は、学級会活動の本質に迫る核心を形成する基調である。そこで、評価は児童を理解し成長をとらえる手だてとなり到達度を見届ける大切な指導のめやすになる。児童一人ひとりを正しく理解することは容易なことではない。いわゆる全人的な角度から人を見るところに客観的な判定が必要になるからである。したがって、自己評価、相互評価など評価の工夫が必要である。学級会後の反省、作文、ノートの活用などの創意は一例である。

#### ※ 本研究のまとめについて

学級会活動の指導計画作成については、本研究のほか、なお究明する課題が残されるが、本年度は、上記の点にしぼった研究をきめ細かく追求し、主題に迫っていくことにした。

#### 4. 学級会活動指導計画(例)

第1学年 ねらい ○教師を中心に初歩的な話し合いができるようにし、友達どうし仲よく話し合い活動 くり交わり、楽しい学級生活がおくれるようにする。

	指導のめやす	指導上の留意点
事前の指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>○身のまわりの事に関心を持ち、問題に気づいたり、みんなでやりたいことなどを考えることができる。</li> <li>○気づいた事を議題カードに記入し、提出できる。</li> <li>○議題案を学級成員で選定し、決めることができる。</li> <li>○事前に議題、さす人、はる人を決めることができる。</li> <li>○進んで話し合おうとする気持ちを持つことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○身近で、自分たちでできること、やりたいことなどに目をむけさせる。</li> <li>○興味を持って書けるように、問題カードを出すようにさせる。〈学級会コーナー〉</li> <li>○教師も適切な議題を事前にいくつか用意し、学級で必要なものを選定させる。</li> <li>○司会、記録の手伝ができるようにさせる。</li> <li>○学級会カードを用意し、考えを書かせ、事前に教師が目を通し、良い考えには丸をつける等のくふうを通して学級会への参加意欲を高めさせる。</li> </ul>
話し合い	<ul style="list-style-type: none"> <li>○はじめのあいさつ</li> <li>○歌をうたう</li> <li>○議題の確認</li> <li>○提案理由</li> <li>○話し合い               <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の思っていることをはずかしがらずに言うことができる。</li> <li>・人の意見を最後まで聞ける。</li> <li>・挙手して、指名されてから発言することができる。</li> </ul> </li> <li>○決まった事の確認</li> <li>○反省・感想 (評価)</li> <li>○先生の話</li> <li>○おわりのあいさつ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○あいさつ・議長団の紹介のしかた等を明らかにして、教師の指導助言のもと、児童の手によってできるようにさせる。</li> <li>○何を話し合うかを教師が説明し、議題をみんなのものとして受けとめさせる。</li> <li>○議長は児童と教師が一語になって行う。</li> <li>○話をしやすい雰囲気をつくってやり、発言する機会を多くさせる。</li> <li>○人の話をだまって聞けるようにさせる。</li> <li>○話し合いのし方がよくわかるようにし、学級会の進め方に慣れさせる。</li> <li>○簡単で実行し易い事を決めるようにする</li> <li>○どんな小さな事でもほめてやり、実践への意欲を高めさせる。</li> </ul>

指導のめやす	指導上の留意点
<ul style="list-style-type: none"> <li>◦教師の手伝などから、自分たちでできる仕事をみつけ、係をつくっていくことができる。</li> <li>◦仕事の内容や順序、分担等を教師の助言で考えることができる。</li> <li>◦教師と相談しながら、友だちといっしょに楽しく仕事ができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦教師の手伝いをさせながら、自然に学級の仕事を知り、係の活動の芽を育てるようにさせる。</li> <li>◦助言にあたっては、単純で、毎日くりかえし、しかも、結果がはっきりするようなものを考えさせる。</li> <li>◦係の仕事を認めあい、ほめることによって実践意欲を高め、活動させる。</li> </ul>

集会活動

指導のめやす	指導上の留意点
<ul style="list-style-type: none"> <li>◦楽しい集会活動の計画を、教師と相談しながら、話し合いに基づいて立てることができる。</li> <li>◦会の運営についての簡単な係をつくり、教師の指導のもとで行うことができる。</li> <li>◦教師とともに楽しい会を進めることができる。</li> <li>◦終わったあと良い点を出すことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦見たり、聞いたりしたことを基に、自分たちで、出来るものを、みんなでやらせる。</li> <li>◦あまり負担にならないように、準備も手軽に簡単に行うようにさせる。</li> <li>◦教師が中心になって児童の意見を生かしながらプログラムをつくり、その順序で進めていくようにさせる。</li> </ul>

＜学級会コーナー＞

議題提出について1年生の場合、きちんとした形では抵抗があるので、ちょっとしたくふうをする必要がある。

例えば、色画用紙を用意し、黄色は「先生に話したいこと」、水色は「みんなに話したいこと」と決め、ポストのそばに置き、自由に書かせポストに入れさせる。その中から教師がよりわけ、議題選定へともっていくようにする。あるいは、模造紙を用意し、「おしゃべりコーナー」を設け、そこに模造紙をはり、自由にかかせるようにし、その中から議題を選んでいくようにする。

このようにくふうしていくと、自然に議題が集まり、子どもたちにとって学級会が、かた苦しくなく、楽しいものとして感じられるようになるであろう。

4 学級会活動指導計画（例）

第2学年 ねらい ○学級集団の一員としての意識を高める。

話し合い活動 ○問題点に気づき、教師と協力して問題解決ができる。

	指導のめやす	指導上の留意点
事前	<ul style="list-style-type: none"> <li>○困ったことや、気づいたこと、やりた いことを発表したり、投書したりする ことができる。</li> <li>○みんなの発言や投書から議題になりそ うなものを拾い出すことができる。</li> <li>○次回の議題にふさわしそうな議題を選 ぶことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○朝の会・帰りの会・係・班・個人などの 発言や意見などを集めやすくするために、 手紙やポストなどを作らせる。</li> <li>○お手紙係（郵便屋さん）に投書を分類、 掲示させたり、発表させる。 （諸係にも議題作り競走などをさせる）</li> <li>○選定日を、時間表に明示しておき、着実 に事を運ばせる。</li> </ul>
指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>○議長団で相談して、学級会記録ノート に係分担や、話し合いの順序などの準備 を決めて記録できる。</li> <li>○学級会コーナーに、議題や話合う順序 などを書くことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○議題案投書者も交じえて行い、提案理由が 素朴でも十分に発表させる。 （話し合いの順序は、納得いくまで指導）</li> <li>○たのしいという係にも、歌の決定通知や伴 奏・指揮練習ができるようにさせる。</li> </ul>
話し合い	<ul style="list-style-type: none"> <li>○はじめのことば</li> <li>○たのしいうた</li> <li>○議長団紹介と議題の確認</li> <li>○提案理由の説明</li> <li>○提案理由の質問</li> <li>○先生のお話</li> <li>○話し合い <ul style="list-style-type: none"> <li>・意見を最後まで聞くことができる』</li> <li>・自分の考えをはっきり話す』</li> </ul> </li> <li>○きまったことの発表</li> <li>○先生のお話</li> <li>○たのしいうた</li> <li>○おわりのことば</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教師の指導助言で簡単な司会をさせる。 そのための配慮として、</li> <li>①話し合いの順序に従って司会をさせる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・話し方のきまり</li> <li>・話し合いの進め方</li> </ul> </li> <li>②声の小さい子には、マイクを使用させ、 自信を持たせて、楽しくさせる。</li> <li>○相手の立場に立って話を聞かせる。</li> <li>○みんなの前で、はずかしがらずに、自分 の考えや意見を出させる。</li> <li>○よかったところをほめてやる。</li> <li>○実践への配慮。決まった事は、わかり易 く書き出す。</li> </ul>

指導のめやす	指導上の留意点
<ul style="list-style-type: none"> <li>○身近でわかりやすい仕事を学級内でみつけ、学級会で決めることができる。</li> <li>○当番活動と係活動の区別が、少しずつわかる。</li> <li>○数人のグループで仕事のやりかたを話し合い、計画表を書くことができる。</li> <li>○交代でリーダーをつとめ、反省や、新しい仕事をみつけることなどを通して、みんなの役に立っていることに気づく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○一年生時代に経験した、一人一役的な単純な係の仕事内容を、少しずつ内容面から統合化させ、グループで協力して、仕事をさせる。</li> <li>○いつ、だれが、どんな仕事をするのか、くふうして表にさせる。</li> <li>○時間表に係活動としての話し合いの日を位置づけて、十分に教師の指導が加えられるようにし、係児童に充実した気持ちを持たせる。</li> </ul>

集会活動

指導のめやす	指導上の留意点
<ul style="list-style-type: none"> <li>○月に一回くらいの、みんなが楽しめる集会活動の計画をたてることことができる。</li> <li>○みんなで、やさしい係を分担しながら、集会を運営することができる。</li> <li>○会の約束を決めて、終わってから簡単な反省をすることができる。</li> <li>○みんなで係を引き受け、教師の指導を受けながらも、自分たちの力だけで楽しい集会にするよう努力することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○一回の集会活動には最低一回の話し合い活動が必要になるので、これ以上集会をふやさずに、他の議題も話し合わせる。</li> <li>○プログラムの横に反省を書き加えて、次回の質の向上を図らせる。</li> <li>○歌の子は歌係、手品をやる子は手品係などとして、全員が係としての意識を持って集会に参加させる。</li> </ul>

＜学級会コーナー＞ ポストの利用

<p>○投書を議題化するためには、投書の中味を分類して、みんなによく知ってもらうことが大事になる。それには、ベニア板などに分類した投書を掲示し、議題となったもの、次の議題にまわすもの、朝や帰りの会などの話題にまわすものを識別する方法がある。</p>	<p>お手紙の中から</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ぎだいに なったもの ○次のぎだい</li> <li>○ぎだいに なりそうなもの</li> <li>○朝やかえりの会で話し合えそうなもの</li> <li>○先生へのお手がみ</li> <li>○ともだちへ</li> </ul>

第3学年 ねらい ○学級生活への関心を高め、自分たちの問題に気づき、協力して解

話し合い活動		決ができる。
	指導のめやす	指導上の留意点
事前	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学級内の問題に目を向けることができる。</li> <li>○教師の指導のもとに議題案を整理することができる。</li> <li>○学級全員で議題を決めることができる。</li> <li>○教師の指導助言のもとに実施計画を立てることができる。</li> <li>○話し合いの順序を事前に学級全員に提示することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○個人的な問題でなく学級全体を考えた問題を見つけさせる。</li> <li>○整理した議題案を学級全員に図って、実践可能なものからできるようにさせる。</li> <li>○教師、議長団、提案者が集まって事前に話し合いの計画を立てさせる。</li> <li>○学級全員が前もって、自分の意見が持てるようにさせる。</li> </ul>
導	<ul style="list-style-type: none"> <li>○司会や書記は輪番制でできる。</li> <li>○司会の仕事を少しずつできる。</li> <li>○記録のしかたが少しずつできる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学級全員に役割分担をさせる。</li> <li>○司会の仕事に慣れさせる。</li> <li>○簡単な板書ができるようにさせる。</li> </ul>
話し合い	<ul style="list-style-type: none"> <li>○開会</li> <li>○先生の話</li> <li>○議題の確認</li> <li>○提案理由の説明と質問</li> <li>○話し合い                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・学級全体のことを考えて発言することができる。</li> <li>・人にわかるように、自分の考えを述べることができる。</li> <li>・人の話をよく聞いて、自分の考えとくらべるができる。</li> <li>○決まったことの確認</li> <li>○先生の話</li> <li>○閉会</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○できるだけみんなが話せるようにする。</li> <li>○議題に対する関心を持たせる。</li> <li>○提案理由を児童にはっきりつかませる。</li> <li>○よくわからないことは質問させる。</li> <li>○個人的な問題でなく、学級全員のこととしての話し合いをさせる。</li> <li>○最後まではっきり意見を述べさせる。</li> <li>○同じ考えであるときもはっきりさせる。</li> <li>○わからない点は質問できるようにさせる。</li> <li>○次回への活動の意欲をはかる。</li> <li>○良かった点をほめる。</li> </ul>

指導のめやす	指導上の留意点
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学級生活に必要な係をつくることができる。</li> <li>○ 各係の中にリーダーをつくることができる。</li> <li>○ 各係の仕事を係の中で話合って決める。</li> <li>○ 係活動と当番活動を分けることができる。</li> <li>○ 全員が協力して活動する。</li> <li>○ 各係の活動は常時活動とする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 児童が必要とする係を取り上げ、できるだけグループの活動に広げていかせる。</li> <li>○ 役割分担は話合いで決めるようにさせる。</li> <li>○ 係の中で協力できるようにさせる。</li> <li>○ 係の統廃合ができるようにさせる。</li> <li>○ 役割分担をして責任をもって活動ができるようにさせる。</li> <li>○ 学級会以外でも活動できるようにさせる。</li> </ul>

集会活動

指導のめやす	指導上の留意点
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教師の指導をえて、学級会で集会の計画を立てることができる。</li> <li>○ 教師の助言でプログラムをくむことができる。</li> <li>○ 自分たちで積極的に練習に参加することができる。</li> <li>○ 準備、あとかたづけをできるだけ自分たちでやることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 全員が進んで参加し集会の楽しさを味わうようにさせる。</li> <li>○ 種目を考えながらくめるようにさせる。</li> <li>○ 児童同士がお互いに励まし協力しあって練習するようにさせる。</li> <li>○ 教師の指導をえて、自分たちでできるようにさせる。</li> </ul>

＜学級会コーナー＞

指導と助言を生かして

学級会活動は、「児童の自主性」を尊重するという立場から、児童にまかせっきりで一切教師がタッチをしないで、一時間何をやったのかわからないで終わってしまうということがひと昔前には多々あったように思われます。現在では、それ程のことはないにしてもまだまだ児童まかせが多いようです。各教科では指導すればするほど、児童の変容が手に取るように目に見えてきます。学級会活動でも指導すればするほど、児童の自主性があらわれてきます。指導といっても「～ 下さい」「～ です」というのでなく、「この時はこうやった方がいいんだよ、君たちで考えてやっごらん」というようなサジェッション的な指導・助言が大切だと思います。とにかく何でもつまかさねが児童の活動を高めていきます。



第4学年 ねらい ○学級生活について関心を高め、学級の問題を自分たちで解決し協

話合い活動 力し合って生活できるようにする。

	指導のめやす	指導上の留意点
事前の指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学級生活の中から問題を自分たちで見える。</li> <li>○議題を選ぶ条件を考えることができる。</li> <li>○学級全員で議題を決めることができる。</li> <li>○教師の助言のもとに計画委員会を開くことができる。</li> <li>○議長団は輪番制であることができる。</li> <li>○司会・記録ができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○議題箱、朝の会、帰りの会、日記などから学級会にふさわしい議題を選ぶようにさせる。</li> <li>○学級会で話し合う議題であるかどうか区別できるようにさせる。</li> <li>○議題が実践可能なものであるかどうか考えられるようにさせる。</li> <li>○教師の助言のもとに、計画委員会を開き議題を整理して議事の進行についての計画をたてさせる。</li> <li>○学級全員で役割・分担をさせる。</li> <li>○議題からはずれないで議事を進める準備をさせる。</li> </ul>
話し合い	<ul style="list-style-type: none"> <li>○開会</li> <li>○学級会の歌</li> <li>○先生の話</li> <li>○議題の確認</li> <li>○提案理由の説明と質問</li> <li>○話し合い                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・人の発言をじょうずに聞いて自分の考えをはっきり述べることができる。</li> <li>・賛成、反対の意志表示ができる。</li> <li>・話し合いからそれないで話せる。</li> <li>・実践できるような話し合いができる。</li> </ul> </li> <li>○決ったことの確認</li> <li>○先生の話</li> <li>○閉会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○雰囲気をもりあげさせる。</li> <li>○できるだけみんなで話し合いができるようにさせる。</li> <li>○提案理由をはっきりつかませる。</li> <li>○形式から内容に深めさせる。</li> <li>○人の意見をよく聞いて、自分の意見をまとめて発表できるようにさせる。</li> <li>○賛成、反対の理由をつけたり、質問したりすることができるようにさせる。</li> <li>○前もって話し合いの内容について考えてくるようにさせる。</li> <li>○次回への活動の意欲をはかる。</li> </ul>

指導のめやす	指導上の留意点
<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分たちに必要な仕事を考えて組織することができる。</li> <li>○自分たちで役割分担をして、実践可能な計画を立てることができる。</li> <li>○常時活動として継続的な活動ができる。</li> <li>○自主的に係の仕事を改善し、積極的に活動ができる。</li> <li>○係活動の評価をすることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学級生活の中で欠かせない係について考えるようにさせる。</li> <li>○自分たちの手で常時活動ができるような計画を立てさせる。</li> <li>○朝や帰りの会で係の発表させる。</li> <li>○自分たちの手で係の仕事をみなおして、よりよい活動ができるようにさせる。</li> <li>○係ごとに活動の反省をさせる。</li> </ul>

集会活動

指導のめやす	指導上の留意点
<ul style="list-style-type: none"> <li>○教師の助言をえて、自分たちで集会の計画を立てることができる。</li> <li>○係を中心に自分たちで会を進めることができる。</li> <li>○仕事の分担をはっきりつかみ、協力して運営できる。</li> <li>○内容や参加のしかた運営などについて反省することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○同じような形式にならないようにさせる。</li> <li>○係に協力して全員で会が進められるようにさせる。</li> <li>○計画通りにスムーズに会が進行できるようにさせる。</li> <li>○次回の集会に役立てるようにさせる。</li> </ul>

<学級会コーナー>

議題を集めるまえに

4年生になっていざ学級会を始める段になって、児童に議題を出すよう指導してもなかなか議題が集まらない。出ても、集会に関する議題が多くでます。そこで教師が「今日の学級会は〇〇について話合う」ということになると、児童は何をどんな順序で話合ったらよいのか分らず十分な話し合いが出来ないまま終わってしまっていて実践に結びつかない場合が多いようです。そこで、4年生になった当初、児童に「学級会というのは、みんなの時間だよ。そして、みんなのことを、みんなで話し合って決める時間なんだよ」ということを繰り返し児童に投げかけ、助言、出来るだけ児童から議題を出させるようにし向けていくことが大切です。

第5学年 ねらい ○学級内の諸問題に積極的に取組み、自発的自治的な実践活動とし

話し合い活動 での意識を高め、組織的計画的に解決するようにする。

	指導のめやす	指導上の留意点
事前	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学級の児童全員に共通で、自治範囲内のものに着目できる。</li> <li>○決められた日まで、全員が考えておくことができる。</li> <li>○議題会議（朝や帰りの会）で相互に発表し合い、最も必要性のあるものを、全員で選ぶようにすることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○朝・帰りの会・遊び・全校児童会・学校行事、係や集会活動をヒントにさせる。</li> <li>○ノートに記録しておく。班を単位にして相談させる。</li> <li>○短時間に分類するようにさせる。児童相互の意向を汲むようにさせる。学年後半からは、あらかじめ、提出しておいて、種類別に分類するようにさせる。</li> </ul>
指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>○輪番制の議長団が計画委員会で運営の方法を話し合う事ができる。</li> <li>○計画委員会で話し合った要点を学級会黒板に表すことができる。</li> <li>○必要な資料が準備できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○役割分担・めあて・会の流れ・予想される発言を話し合うようにさせる。</li> <li>○議題、提案理由、主に話し合う項目、議長団の役割分担を学級会黒板に書く。</li> <li>○資料を集め、準備させる。</li> </ul>
話し	<ul style="list-style-type: none"> <li>○開会</li> <li>○学級の歌（あるいはゲーム）</li> <li>○議題の確認</li> <li>○提案理由の説明</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学級づくりの段階で、学級全員で作った学級の歌を歌い、楽しく打ちとけた雰囲気させる。</li> </ul>
合い	<ul style="list-style-type: none"> <li>○話し合い                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の発言に責任を持つことができる。</li> <li>・他人の意見にとらわれなくて、自分の意見を出すことができる。</li> </ul> </li> <li>○話題にそれない話し合いができる。</li> <li>○決定されたことが確認できる。</li> <li>○反省・感想</li> <li>○先生の話</li> <li>○閉会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○提案理由を全員に明らかにさせる。</li> <li>○発言内容では、事実・論拠がはっきりした発言をさせる。</li> <li>○自分の考えをしっかりとらせる。</li> <li>○話題の焦点をはっきりさせる。</li> <li>○自己反省・互いに良い面を賞賛させる。</li> <li>○特によかった点、工夫された面などに目を向け、次への期待を持たせる。</li> </ul>

指導のめやす	指導上の留意点
<ul style="list-style-type: none"> <li>○係の種類や内容について話し合い、学級生活に必要な係を作り、個人の特性を生かして、分担を決定できる。</li> <li>○高学年という立場から、無理の無い計画をたてることができる。</li> <li>○計画に基づいて活動する。協力を依頼したり、意見を聞く。定期的な係会議をもつようにできる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○仕事内容により次第に整理統合させる。</li> <li>○個人の興味や希望を生かし、強制割当ては避けるようにさせる。</li> <li>○係活動内容の発表会を開き他の係児童からも意見をもらえるようにさせる。</li> <li>○係の固定化、停滞を防ぐ指導助言をする。活動内容を明らかにし、反省する機会をもつようにさせる。</li> </ul>

集会活動

指導のめやす	指導上の留意点
<ul style="list-style-type: none"> <li>○年間の見通しをたてて、自主的に運営できる。</li> <li>○グループの役割分担を明確にし、準備をていねいに行うことができる。</li> <li>○お互いの力を出し合って認め合って楽しくできる。</li> <li>○集会の目的にそって運営できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○目的にあっためあてをたてて、それに基づいて内容を決定するようにさせる。</li> <li>○協力して準備をていねいに行って自分たちで成し遂げさせるようにさせる。</li> <li>○係やリーダーをできるだけ多くの児童に経験させる。</li> <li>○実施したことを反省し、成果を出し合い成就感を味あわせる。</li> </ul>

<学級会コーナー>

学級会黒板とコーナーの活用

※学級会の時間を有効に

学級会黒板

第8回 学級会


議題 ○○○をしよう。

提案理由 ○○○---


話合ってほしいこと

- ・ △△の問題を出す
- ・ ××を決める


議長 〇。議長 〇。副議長 〇。書記 〇




議題集会の入れカード



議題集会 記入用紙



自分に関する議題



クラスの議題

活用するために、左のような黒板を準備し、計画委員会で決まった事を提示する。

特に話合ってほしいことの欄を明確に提示し、話し合いを焦点化させる方法がある。

第6学年 ねらい ○学級内の諸問題に積極的に取組み、自発的自治的な実践活動とし

話し合い活動 での意識を高め、より組織的計画的に解決するようにする。

	指導のめやす	指導上の留意点
事前	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学級の児童全員に共通で、自治範囲内のものに着目できる。</li> <li>○決められた日までに、用紙に記入して提出できる。</li> <li>○議題選定日に、いくつかの案をもとに、全員で決定できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○全校児童会、学校行事に関する議題が増える中で、学級内に目を向けさせる。</li> <li>○クラス全体を考えて必要性の大きい議題を出させる。</li> <li>○計画委員があらかじめ出されたものを検討し、傾向別に分類しまとめたものを出させる。</li> </ul>
指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>○輪番制の議長団当番が、計画案をたてることができる。</li> <li>○計画委員会で話合った要点を学級会黒板に表すことができる。</li> <li>○必要な資料が準備できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○役割分担、めあて、会の流れ、予想される意見、原案を話合って、用紙に記入させる。</li> <li>○議題・提案理由・主に話合う項目・議長団の役割分担を学級会黒板に書く。</li> <li>○資料を集め、準備させる。</li> </ul>
話し合い	<ul style="list-style-type: none"> <li>○開会</li> <li>○学級の歌</li> <li>○議題の確認</li> <li>○提案理由の理由</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学級づくりの段階で、学級全員で作った学級の歌を歌い、楽しく打ちとけた雰囲気させる。</li> </ul>
話し合い	<ul style="list-style-type: none"> <li>○話し合い                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・意見を公平に取りあげることができる。</li> <li>・建設的な話し合いができる。</li> <li>・能率的な話し合いができる。</li> <li>・自らが可能な範囲で決定できる。</li> </ul> </li> <li>○今日、決まったことの確認</li> <li>○反省・感想</li> <li>○先生の話</li> <li>○閉会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○相手にわかる話し方を工夫させる。</li> <li>○力の強いリーダー、発言力のある児童に片寄らない公平な話し合いをさせる。</li> <li>○お互いの意見を尊重させる。</li> <li>○少数意見を尊重し、極力、多数決をしないで決定させる。</li> <li>○自治的な範囲で決定させる。</li> <li>○教師の助言は、この場面で行い、実践活動への意欲を高める。</li> </ul>

係活動

指導のめやす	指導上の留意点
<ul style="list-style-type: none"> <li>○実態や活動の状況を考えて係の改廃整理統合をし、係の分担に当たっては、個々の特性を生かせる。</li> <li>○学期または月ごとに計画を立て、全体の希望を取入れることができる。</li> <li>○計画にしたがって自主的に活動できる。活動の改善を図り、創意工夫できる。実践記録を書くことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○創造的な態度で新しい係を決めたり、統合できる係は整理させる。</li> <li>○実践可能な具体的な計画を立てるようにし、常に反省しながらさせる。</li> <li>○黒板の利用や掲示、朝の会、学級の時間などで係と全員との交流を図るようにして、活動の時間を保障するようにさせる。</li> </ul>

集会活動

指導のめやす	指導上の留意点
<ul style="list-style-type: none"> <li>○年間の計画を自主的に立てることができる。決定事項にしたがって計画をたてることができる。創意工夫のある集会にすることができる。</li> <li>○計画にしたがって、能率的、効果的に会を進めることができる。</li> <li>○分担した役割を責任をもって果すことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○全児童が役割を自覚し、学級集会の目的にふさわしい内容を工夫できるようにさせる。</li> <li>○児童自身の力で計画するようにさせる。</li> <li>○児童ひとりひとりの特技や能力が生かせるようにさせる。</li> <li>○いろいろな児童が、交代でリーダーになるようさせる。</li> </ul>

—〈学級会コーナー〉 指導助言と先生の話—

学級会の中で、つい途中で教師が口をはさみたくなるものだが、最高学年では、最後の“先生の話”の時にすることが、児童の自発的自治的な活動を高める。第一に賞め、めったに発言をしない児童の発言や、自分の考えを途中で改めた児童や全体を見通しての発言を大いに賞めてあげる。第二に、学級会の方法等で新たに指導したい点や、絶対するべきではない態度があった場合、指導をする。以上2点であるが、学級会では、発言の記録を確実にとり、冷静に評価してあげる。最後の先生のこうしたことばを、児童は非常に期待して待っている。

〈副議長の役割〉 ①意見の整理の補佐 ②採決時の項目の確認 ③発言者のチェック ④議事の進行と記録のテンポの調整 ⑤時間経過を議長に知らせる ⑥話合いのルールを守るような指示をする。 ⑦教師との連絡などをしっかり身につけさせる。

5. 実践例(1) 1年 だれでもが安心して議長になれるくふう

1. 議長さんの下地づくり

(1) ごうれいがかり(一日のベース・メーカー)※係活動

活動例 イ「日直さん、きょう一日を始めさせてください。」

ロ「日直さん、○時間目の○○を始めさせてください。」

ハ「日直さん、○時間目の○○を終わらせてください。」

ニ「給食係さん、給食の準備を始めさせてください。」

ホ「給食係さん、給食を終わらせてください。」

ヘ「日直さん、きょう一日を終わらせてください。」

※希望制なので  
学期により数  
名が一日ずつ  
交代で活動

(2) 日直さん(全員が2名ずつで交代制・学級会の日には議長さんになる)

活動例 イ「これから、きょう一日を始めます。気をつけ、礼。はじめに欠席しらべ係さん、欠席しらべをしてください。」

ロ「欠席しらべ係さん、ありがとうございました。」

ハ「これから○時間目の○○を始めます。」

ニ「これで○時間目の○○を終わります。」

ホ「これで、きょう一日を終わります。あしたの日直は、○○さんと、○○くんです。よろしくおねがいします。きをつけ、礼。」(明日の日直は黙礼を返す)

2. 議長さんの見やすい教室の後壁に、司会のことばを明示してあげる。(日直 A.B.)

司会のことば(パターン化して、授業中でも時々みんなで読み上げて練習する)

(1)A「これから5時間目の学級会を始めます。きをつけ、礼。」

B「始めに楽しい歌です。きょうの歌は○○です。二回くり返してください。」

A・B「サン・ハイ」と指揮をとる。

(2)A「きょうのぎちょうは○○と」B「○○です。」A・B「よろしくおねがいします。」

B「きょう話し合うことは、○○○○○○です。」

(3)A「では、さっそく○○さんに話し合うわけを発表してもらいます。○○さん、おねがいします。」

B「○○さん、ありがとうございました。話し合うわけに質問のある人は、手をあげてください。」

(4)A「次は、先生のお話です。先生おねがいします。」

B「先生ありがとうございました。では始めに、1の○○について話し合います。発表す

る人は、手をあげて言ってください。」

(5) A 「では〇〇〇〇〇〇ということにします。みなさん、いいですか。」 「ハイ。」

B 「次に、2の〇〇〇〇について話し合います。手をあげて言ってください。」

(6) A 「では〇〇〇〇〇〇ということにきめます。それでいいですか。」 「いいです。」

B 「きょう、きまったことは、1. 〇〇〇〇〇〇 と 2. 〇〇〇〇〇〇 ということです。」

(7) A 「つづいて先生のお話です。先生おねがいします。」 (はげましのことばとごほうび)

B 「先生、ありがとうございました。では、さいごに楽しい歌です。〇〇を二回くり返し

てください。」 A・B 「用意、サン・ハイ。」

(8) A 「では、これで、きょうのがっきゅう会を終わります。」

3. 声の小さい児童には、マイクを用意して、安心させる。

※ (1) ~ (8) は  
後壁の司会ことばの  
用紙の番号。

(1) 用意するもの

イ. FM放送つきの一万円前後の安いカセットラジオ。(大安売では、ずい分安く買える)

ロ. ワイヤレスマイク、2~3本 (これも、かなり安く入手できる)

(2) 使用法 イ. マイクの規定の周波数に、カセットラジオのFM放送ダイヤルを合わせる。

ロ. マイクのスイッチを入れて、ラジオに近づけるとビーと鳴り出す。そのまま必要な距離まではなれ、ボリュームを適量にする。

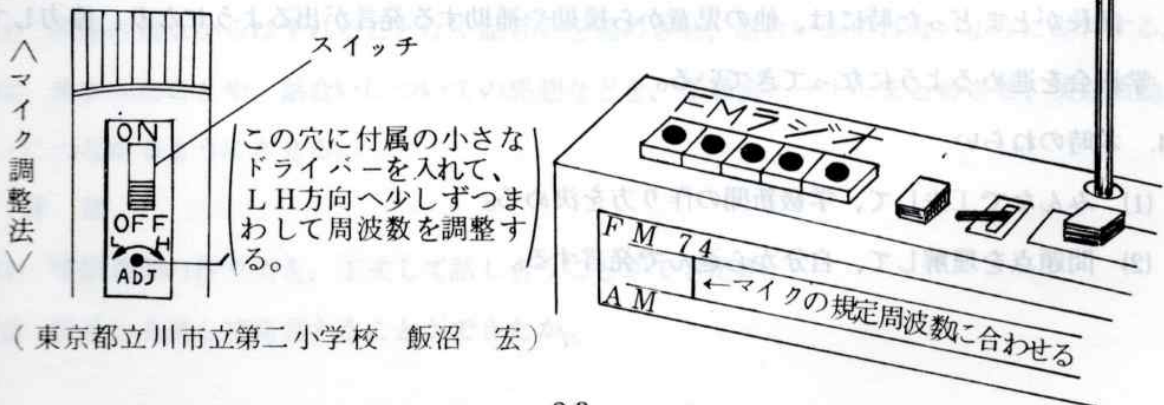
ハ. 他のワイヤレスマイクも試験する。多少ずつ周波数がずれているので、始めのワイヤレスマイクの性能と同様にするために、説明書をよく読んで、マイクの調整をする。(※ラジオのアンテナを伸ばしておくこと)

ニ. このようにすれば、何本のワイヤレスマイクでも使えるようになる。

(3) 効果 イ. ラジオから出てくる自分の声にはげまされて、知らぬ間に声が大きくなる子が、かなり出てくる。

ロ. 声を通れば、学級会は、ガヤガヤしないで進めていくことができる。

ハ. みんな、マイクを使って楽しく司会をしたがる。



(東京都立川市立第二小学校 飯沼 宏)



## 実践例(2) 4年

### 1. 議題名 「学級新聞を作ろう」

### 2. 議題設定の理由と経過

#### (1) 議題設定の理由

4年生になり、学級内におけるいろいろな問題に対しては、学級生活をよりよくしようと努力する様子が、児童たちに見られる。しかし、自分たちの生活をより豊かで楽しいものにしようということでは、なかなか行動になって現れないことがある。学級生活を、更に楽しく充実したいとの願いから、本議題が設定された。

#### (2) 議題が決まるまでの経過

一学期には、班ごとに学級新聞を作っていたが、二学期に新しい班編成になってからは、児童の新聞作りの活動が見られなくなった。他の学級で学級新聞を見てきた児童が、「自分たちも前のように学級新聞を作りたい」という気持ちから本議題を提出したところ、選ばれ、議題として取りあげられることになった。

#### (3) 事前指導の工夫

- ・提案者は“何を話し合うのか”をはっきりさせ、問題の焦点化を図り、全員に議題が正しく理解されるよう努めた。
- ・計画委員会は、話し合いの手順や手立てをはっきりさせ、効率的な話し合い活動ができるように実施計画を立てた。
- ・学級会ノートに自分の考えや意見をまとめ、意欲的に取り組むようにさせた。

### 3. 学級の実態

友達の意見に対し自分の考えを述べられる児童がおり、その児童たちの様子を見て、他の児童も発言のしかたが上手になってきた。最近では、意見を自由にのびのびと述べられる児童が増えている。

議長がとまどった時には、他の児童から援助や補助する発言が出るようになり、協力して学級会を進めるようになってきている。

### 4. 本時のねらい

- (1) みんなで工夫して、学級新聞の作り方を決める。
- (2) 問題点を理解して、自分から進んで発言する。

第19回 学級会活動の計画		11月21日(金)	
議 題	学級新聞を作ろう		
議 長	筒井大輔	副議長	佐藤良美・小島範子
ノート書記	山下香奈子	黒板書記	北島浩二・中村弘江
提案理由	学級新聞を作るには、どうしたらいいか みんなで話し合ってもらいたい。		提 案 者 岡田・川野辺
めあて	学級新聞を作るための話し合いをする。		
話 合 い の 順 序		気を付けること・準備する物	
1. 開会の言葉			
2. 提案理由の説明		・話し合うことは何かをはっきりする。	
3. 提案についての質問			
4. 話し合い		・みんなに聞こえる声で発言する。	
(1) だれが作るか			
(2) 作る順番は、どうするか。		・時間内で終わるようにする。	
(3) 月何回、出すか。			
(4) 用紙の大きさは、どうするか。		・黒板用カード	
(5) どんな記事をのせるか。			
5. 決まったことの発表		・学級会ノート	
6. 話し合いについての感想		(学級用・個人用)	
7. 先生の話			
8. 閉会の言葉			

## 6. 指導上の留意点

- (1) 問題の焦点からはずれることなく話し合いを進めさせ、話し合いがそれないように助言する。
- (2) 決まったことや、話し合いについての感想などを、学級会ノートにまとめさせ、実践活動につながるようにさせる。

## 7. 評 価

- (1) 学級新聞の作り方を、工夫して話し合うことができたか。
- (2) 自分から進んで発言することができたか。

実践例(3) 6年

(梅木 栄子)

1. 議題名	「タイム・カプセルづくりの計画をたてよう。」
2. 議題設定の理由と経過	
(1) 議題設定の理由	<p>10月に入って卒業文集作りや運動会が実施された。それらの活動を通して“卒業間近”という意識を強くしている。残り少ない小学校生活を有意義に過ごそうという気持ちと、級友とのつながりをいつまでも大切にしたいと願う児童が多い。卒業後も思い出となるタイム・カプセルをみんなで力を合わせてつくり、残していきたいという意欲が高まったので、本議題を設定した。</p>
(2) 議題が決まるまでの経過	<p>卒業するにあたっての心構えについて、学級指導をしたところ、児童から自分達の思い出となるものを残したいという話がでてきた。そこで、学級会を開き、話し合ったところ、①小さな池をつくり、石を置く。②記念樹を植える。③タイム・カプセルを作る。などがでた。この3つの案は議題として取りあげられ、前時までに①②を解決し、本時は、タイム・カプセルについて話し合うことになった。</p>
(3) 事前指導の工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>○計画委員会で話合いの順序・提案理由を印刷し、全児童に配布させた。</li> <li>○議題について、各自学級会ノートに考えをまとめさせた。</li> <li>○各自でまとめたものを、班ごとに話し合い、班としての計画をまとめさせた。</li> <li>○話し合いを深まらせるために、提案者に資料を集めさせ、準備させた。</li> </ul>
3. 学級の実態	<p>男子の中には、論理的に考えながら発言できる児童がいる。女子の児童については、意欲はあるにもかかわらず、積極的に発言をしない。しかし、決定事項には従い、よく活動する面がある。</p>
4. 本時のねらい	
(1)	思い出になる、タイム・カプセルづくりの計画をたてる。
(2)	友達の意見を聞き、よく考えて、自分の意見を発表できるようにさせる。

5. 実施計画

第20回 学級会活動の計画		11月21日(金)	
議 題	タイム・カプセルづくりの計画をたてよう。		
議 長	大 場 繁	副 議 長	田 内 ひろみ
黒板書記	呉 明 三	ノート書記	幡 場 夕夏子
提案理由	何年か後、みんなで会った時、タイム・カプセルで、小	提案者	根本徳人
	学校生活を思い出し、語り合い、なつかしみたい。		
めあて	卒業後の思い出となる、タイム・カプセルづくりの計画をたてる。		
話 合 い の 順 序		気をつけること・準備するもの	
1. 開会のことば			
2. 提案理由の説明		・計画委員会は、話合いの順序を掲示する。	
3. 提案についての質問		・提案について、わからないところを、質問する。	
4. 話合い		・カプセルを開ける時のことを、想定して、具体的に話し合う。	
(1) カプセルの容器は、何にするか。		・班の発表	
(2) どのような物を入れるのか。		・できるだけ多数決によらずに、話合いを	
(3) どこへしまっておくか。		する。	
(4) 何年後に、あけるのか。			
(5) 誰が、中心になるのか。		・認め合い、励まし合うような、意見を述べる。	
5. 決まったことの発表			
6. 話合いについての感想			
7. 先生の話			
8. 閉会のことば			

6. 指導上の留意点

- (1) カプセルに納める物については、十分意見を出しあわせ、適切なものを決めさせる。
- (2) タイム・カプセルを開いた時に、なつかしい思い出がよみがえるように、考えさせる。

7. 評 価

- (1) 卒業後のことを考え、また、実践可能な計画がたてられたか。
- (2) 自分の考えを持って、話合いに参加し、全員の考え方が集約されたか。

## 6. 研究の反省と今後の課題

本年度の研究は、「豊かな人間性を育てる特別活動」に迫る学級会活動の本質の追求であった。しかし、研究のまとめにあたっては、指導計画の作成（※学習指導要領参照・指導例・資料例）に紙面の大半のスペースを使う結果となったが、この研究を通して、学級会活動の現状から一步も二歩も前進していく児童の活動と教師の指導のあり方を明らかにした。同時に、学級会活動の特質や本質を、どのように考え、生かしていくかの基本となるものが、われわれの平素の指導、児童の活動の中に見過されていることにも気付くことができた。

特に、学級会活動の果たす今日的役割は、児童が所属する学級の集団活動を通して、児童一人ひとりの自主的・自律的な活動及び心の豊かさをもたらすことである。「赤信号、みんなで渡れば、こわくない」とした巷の流行語がとび出す世相である。児童に「自ら考え、正しく判断し、進んで行動する実践力」を更に高め、身につけさせていく必要と期待は大きい。

学級会活動の基本的性格は、決して奇抜な発想に立つことでなく、平素の実践活動を深く掘り下げながら、児童一人ひとりの個性、能力を見出し、生かすことにある。特別活動の目標である、望ましい集団活動を通して、児童の主体性を育てていく基盤を、学級会活動における児童の活動のひとつひとつにおさえ、日々の実践・授業とするところに意義がある。

この結論の過程を、いつでも、だれでもが使える指導計画例として集約し、まとめてみた。学年の特質を生かしたことや教師が指導の際、自ら新たな発想や創意工夫を導き出せる研修の余地を十分に残した。したがって、この研究は完成されたものでなく、ひとつの試案を提示したものと考えている。

学級会活動は、熱心に研究し、すればするほど難しくなってくるとした授業の検証が研究に取り組んだ同士によって報告されている。しかし、回を重ねるごとに、児童の変容が口にされる。児童が、「なすことによって学ぶ」活動であるように、教師にとっても、「取り組むことによって、児童をより理解し、指導力が高まる」理論と実践は、更に高まっている。

本年度の研究は、いわば、学級会活動の本質のさわりに過ぎないと考えている。この中味は、これからの研究によって、更に検証に検証を重ね、修正に修正を加え、改善していくものであり、現場に生きたものとなったときが完成である。朱筆の記入で、内容が様変わりすることを期待している。研究日程が十分に取れなかったり、校務多忙な中をやりくりしたりして研究会場に集まり、熱心に研究された同士の先生に敬意を表します。また、本研究のために、ご指導いただいた講師の先生、研究派遣にご協力をいただいた各学校の校長先生に深く感謝の意を表します。

## Ⅱ 児童会活動

### テーマ 「豊かな人間性を育てる児童会活動の計画と実践」

Ⅰ	まえがき .....	3 1
1.	研究のテーマについて .....	3 1
2.	研究への取り組み .....	3 1
Ⅱ	研究の仮説 .....	3 2
Ⅲ	研究の実際 .....	3 3
1.	指導計画 .....	3 3
(1)	児童会活動の全体計画 .....	3 3
	(指導計画作成上の基本的な考え。指導計画作成の内容例。作成上の留意点)	
(2)	各委員会の指導計画 .....	3 5
	(予想される活動内容。指導上の留意点。指導上のポイント)	
①	代表委員会    ア. 計画委員会    イ. 代表委員会 .....	3 5
②	放送委員会 .....	3 7
③	集会委員会 .....	3 8
④	保健委員会 .....	3 9
⑤	図書委員会 .....	4 0
⑥	新聞委員会 .....	4 1
⑦	栽培委員会 .....	4 2
⑧	掲示委員会 .....	4 3
⑨	遊び委員会 .....	4 4
2.	授業研究 .....	4 5
☆	実践事例 (1) 代表委員会の呼びかけで全校児童が取り組んだ美化活動…	4 5
	「校舎のまわりをきれいにしよう」 (S区N校)	
	(2) 豊かな児童を育てる集会の計画と実践 .....	4 7
	「勤労感謝の集い」 (S区G校)	
Ⅳ	研究の成果と今後の課題 .....	5 1
< 児童会コーナー >		
1.	教師の時間も不足です。……………(46)	2. とんでもない先生！……………(50)
3.	集会への忠告よりも見守りを！…(51)	4. 代表委員会、集会を育てるコツは？…(52)

○研究の経過

- 5 5. 6. 10. (火) 定期総会、分科会、組織づくり、研究主題の話し合い。
- 7. 1. (火) 各校の指導計画と問題点を検討、研究テーマの決定。
- 9. 12. (金) 指導計画の第2回検討と問題点の整理、研究仮説の設定。
- 10. 21. (火) 代表委員会の問題点と生かし方について協議。
- 11. 20. (木) 授業研究(実践事例:2)

「勤労感謝の集い」(品川区立源氏前小学校)

講師、指導助言

- 12. 4. (木) 授業研究(実践事例:1)

「校舎のまわりをきれいにしよう」(新宿区立西戸山小学校)

講師、指導助言

- 5 6. 1. 13. (火) 授業研究、指導計画の検討。執筆者、発表者の決定。
- 1. 17. (土) 執筆内容の再検討。
- 1. 26. (月) 研究集録のまとめ。 1. 27 (火) 集録最終検討
- 2. 21. (土) 研究発表会の準備、打ち合わせ 2. 原稿校正
- 3. 5. (木) 研究発表会

—研究・執筆者名簿—

部長	渡辺 寿	練 馬・開進三小	中川 秀男	港 ・青南小
副部長	星野 隆治	中 野・桃園三小	阿部 靖子	豊 島・時習小
(発表者)	米本 滋雄	葛 飾・葛飾小	藤田 俊範	豊 島・千早小
(発表者)	小川 進一	新 宿・西戸山小	三上 幸雄	北 ・梅木小
"	嶋根 弘子	板 橋・高島五小	銀杏 陽子	板 橋・舟渡小
(記録)	吉仲ミチ子	千代田・九段小	門馬 茂	板 橋・志村三小
	斉藤 晴光	港 ・高輪台小	橋本 邦子	練 馬・富士見台小
	河野 紀之	新 宿・落合四小	大橋 正則	練 馬・下石神井小
	池田 令子	文 京・千駄木小	宮内 充恵	練 馬・北町西小
(司会)	宮下 花子	台 東・西町小	(記録) 佐々木善光	足 立・梅島一小
	田中 千恵	江 東・四大島小	佐藤 治子	三 鷹・大沢台小
(発表者)	味村美恵子	品 川・源氏前小	水上 洋	小 平・小平三小
	鳥海 恵子	品 川・後地小	山住 寛	東村山・久米川小
	伴 淑枝	大 田・池雪小	矢野 裕一	保 谷・碧山小
(司会)	有村 久春	中 野・東中野小	鹿海 治	狛 江・狛江六小
	持丸 義範	中 野・鷺宮小	多賀 玲子	狛 江・狛江六小
	鈴木日出子	中 野・桃園二小	畑中 隆宏	日 野・平山台小
			安田 康隆	東久留米・小山小

## Ⅰ まえがき

### 1. 研究主題について

新教育課程実施第1年目、都特活テーマ「豊かな人間性を育てる特別活動」——新教育課程に即した指導計画とその実践——を受け、児童会活動部は「豊かな人間性を育てる児童会活動の実践と計画」（児童会活動でになる人間形成）を研究テーマとした。テーマを設定した理由は、次の3点である。

#### (1) 児童会活動で育つ「人間性の資質」を究明すること

児童会活動は、代表委員会、委員会活動、集会活動いずれの場合も、全校的視野に立って考え、全校児童のために行う活動である。楽しく充実した学校生活を築くという大きな目標に向かって計画を立て、実践していく過程で自己と葛藤することが多くなり、自主性や社会性が育つ可能性が非常に大きい。そこで、児童会活動の特質を究明することによって人間性の資質（人につくす心、思いやりの心、乗り越える心等）を解明し、人間性をより高めたいと考えた。

#### (2) 現場の実態から指導計画の作成が急務であること

新教育課程が実施される今年を目ざして、各校にあっては指導計画の検討を行ったであろうか。児童会活動部に名を連ねる各校にあっては、実態はさまざまである。今なお、代表委員会で生活目標の徹底のための話し合いが行われ、委員会活動で学校の管理的仕事・教師の補助的仕事がとり上げられている。また、集会も、内容については吟味されないまま、目先きの変ったもの、楽しいものなどを追いつぎている。今こそ、自発的・自治的活動のできる、教育的価値のある児童会活動の真の姿に立ちかえらせたい。その意味で、特別活動の本質をふまえた指導計画（各委員会にあっては、その委員会の独自性を生かしたもの）を作成したいと考えた。

#### (3) 人間性の育成に視点を当てながら指導計画の検証をすすめること

昨年は「望ましい代表委員会を育てる指導のあり方」の研究主題のもとに、主として組織・運営面の研究を進めた。その前は、児童側に立って委員会活動の見直しを図り、研究を深めてきた。これらの積み上げてきた研究を生かし、人間的な面、内面的な面に焦点を合わせた指導計画を立案し、実践したいと考えた。

### 2. 研究への取り組み

(1) 自校で実践してきた指導計画を持ち寄り、検討を加えた上で、「だれでも、どこでも活用できる指導計画」を作成する。

(2) 作成された指導計画によって研究授業を行い、望ましい人間形成という観点から検討を



行う。

・代表委員会授業「情操を高める代表委員会の計画と実践」(西戸山小学校)

・集会活動授業「豊かな児童を育てる集会の計画と実践」(源氏前小学校)

(3) 本年度の主たる研究課題に焦点を当てながらも、参加メンバー一人一人、一枚一枚における悩み、問題点を解決しあいながら会合を進めていく。

(4) 自校の実践を持ち寄るだけでなく、研究物・出版物の中からも参考資料を持ちより、研究を深める。

(5) 昨年に続き、代表委員会を窓口にして研究を進める。そして、昨年残された次の課題も究明しよう。

① 代表委員会の望ましい議題の分析

② ゆとりの問題と代表委員会のかかわりの実践例とその検証

③ 他の教育活動(朝の会を含む)との関連についての研究

## II 研究の仮説

1. 豊かな人間性を育てる指導計画を立案する過程において「豊かな人間性」の「豊かさ」とは何か「人間性」とは何か、つかめるのではないかな。

2. 指導計画を検討し、作成していく過程で、われわれが現場で実際に指導していく際に特に留意しなければいけないこと、自発的・自治的活動など児童会活動の基本を再確認できるのではないかな。

3. 各委員会の指導計画作成の際、それぞれの委員会の独自性を考慮し、指導計画の重点化を図ることによってその委員会の本来的役わり(例えば新聞委員会は、全校児童に学校生活を豊かにするための広報活動を行う委員会であり、新聞の発行を通してのみ、意図するところが伝わり、自分たちの実践もそこにあるということ)や特色が浮きぼりにされてくるのではなかろうか。

4. 教育的に価値のある代表委員会や集会活動を行う際、特に、子どもの発想をだいにし、計画から実践・反省までの過程で適切な励ましと助言を与えることによって、子どもに成功感や成就感を味わわせることができるのではないかな。とくに、その実践の過程において、人間としての基本的なもの、すなわち「やさしさ」、「思いやり」、「敬意の念」を持った豊かな人間が育つのではなかろうか。

## Ⅱ 研究の実際

研究の実際	指導計画・内容	指導計画
1. 指導計画		
(1) 児童会活動の全体計画		
① 指導計画作成上の基本的な考え		
<p>児童の自発的・自治的な集団活動を基本とするものであるから、その計画は固定的なものではなく、児童と共に一層具体的な実施計画ができるような弾力性、融通性に富むものではないと。特に児童の自発的・自治的な実践活動を促すことができるように、次のことを考慮しなければならない。</p>		
ア. 指導のねらいを明確にすること		
<p>児童の実践的な活動を通し達せられるそれらのねらいは、児童活動の目標と自校の教育目標や重点目標との関連をみながら、具体的な行動目標として設定しておく。</p>		
イ. 児童の実態や発達段階に即すること		
<p>児童の自発的・自治的な活動を促進するために、児童の発達段階をとらえ、彼らがどのような要求や関心を持っているかを知り、それに応じた指導ができるような計画を作る。</p>		
ウ. 他の教育活動との相互の密接な関連に配慮すること		
<p>特に学校行事・学級指導等と相互に関連し合う面が多い。指導計画作成にあたり、内容的、方法的、時間的な関連をおさえておきたい。</p>		
エ. 学校や地域の実態に即すること		
<p>学校の規模・教職員の組織・施設・設備などの諸要件や地域社会の実態と特性を考慮しながら作成しなければならない。</p>		
オ. 全校教師により指導計画が作成されること		
<p>児童会活動は全校的な活動で、特に全指導者の活動に対する共通理解と協力が基盤となって行われる活動である。指導計画の作成や改善に当たっては、全教師の参加、協力が必要である。</p>		
② 指導計画作成の内容例		
ア. 児童会活動のねらい		
<p>児童が自分たちの学校生活を向上させようとする意図の下に、自発的・自治的に学校生活に関する諸問題を取りあげ、話合って解決し、さらに学校内の自分たちの仕事を分担処理する活動を行い、楽しく充実した学校生活を送れるようにする。</p>		

### イ. 活動内容・組織と運営

活動の形態	主な活動内容	組織と運営上の配慮
代表委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分たちの学校生活を向上発展させようとする意図のもとに学校生活に関する諸問題を話し合い、解決する活動を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>高学年の学級代表及び各委員会代表で構成。議長団を中心に運営委員会を組織し、代表委員会の企画運営にあたる。</li> <li>代表委員会は毎月1～2回程度</li> </ul>
各種委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>高学年の全児童がいくつかの委員会に分かれて、自分たちの学校生活の向上発展を図り、より豊かにしていくために、学校内の仕事を分担処理する活動。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>5・6年生全員で分担構成する。</li> <li>設置する委員会は児童の自発的・自治的な実践活動が期待できるもの</li> <li>毎月1～2回を定例活動時間とし他に必要に応じ随時活動できるようにする。</li> </ul>
児童集会	<ul style="list-style-type: none"> <li>全校または学年の全児童が会合して、児童活動についての協議、活動状況の報告や連絡、楽しみや相互の交流を深め合う集会を行い、学校生活をより豊かにする活動。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1単位時間の集会は学期に1～2回短時間集会(15～20分)は毎週1回程度が望ましい。</li> <li>企画運営は集会委員会が中心となって行う。</li> <li>参加児童の一体感を高めること。</li> </ul>

### ③ 指導計画作成上の留意点

ア. 前年度の計画や実施記録を資料として生かす。

児童の活動を見通し、その自発的・自治的な実践活動を促進させ、助長する資料として生かすようにしたい。

イ. 全校的視野に立った活動計画をもちこむようにする。

児童会活動の企画運営は、高学年があたる。このため、ややもするとその実施計画の内容は、高学年児童を対象としたものになるおそれがある。常に、全校的な視野に立って活動できる計画でなければならない。

ウ. 自治活動の限界を明確にしておく。

児童会活動の生命は、児童の自発的・自治的な実践活動にある。

エ. 指導計画は児童の手による実施計画が立てやすいように作成しておく。

## (2) 各委員会の指導計画

### ① 代表委員会の指導計画

児童が自発的・自治的に実践活動をすすめていくのを援助するための指導者側の計画でありたい。代表委員会の企画運営面で特色を持つ計画委員会については独立させて言及してみた。

#### (ア) 計画委員会(又は運営委員会)

▶ねらい……代表委員会の活動がスムーズに運営されるために、代表委員会の計画をしっかり立てて準備し、代表委員会の決定事項が実施できるように努力する。

予想される活動	指導上の留意点
① 議題案の収集	A 議題案がたくさん集まるように広報の工夫をし、全校児童の関心を高める。
② 議題案の整理と議題の決定	B 計画委員会のメンバーに、議題選定の基準をよくつかませておく。 C 取り上げられなかった議題案は、どう処理したか回答用紙などを使って、必らず返事を出させる。
③ 実施計画案の作成	D 提案理由に沿って、無理のない活動内容を考え、実践のための具体的な計画を立てさせる。
④ 議題のPR	E 予告の時期・内容・対象・方法等を考え、工夫した広報活動をし、興味と関心を持たせる。
⑤ 準備	F 会議の参加者に、提案の内容をよく理解してもらうために、視覚に訴える資料等を用意させる。 H 会場の設営の仕方も検討しておき、話し合いを活発にするための環境づくりを考えておく。
代表委員会の決定事項を全校に伝達し、理解と協力を得る。	I 決定事項が徹底するように広報活動を工夫し、取り組みへの意欲を高め、実践できるようにする。 G 活動の記録を残し、今後役に立てる。

#### ▶指導上のポイント

代表委員会の活動を活発にするかどうかの鍵は、議題にかかっているといわれる。学校生活をより楽しく豊かにし、児童の自発的・自主的活動を助長するにふさわしい議題を選択するように努めたい。なお、計画委員会の時間の取り方は、各学でいろいろ工夫して取っているが、児童の過重な負担にならないように配慮したい。

(イ) 代表委員会 ▶ねらい……全校の代表者としての自覚をもって、自分たちの力で学校生活の問題を話し合い、解決していく活動をしていこう。

学期	予想される活動内容	指導上の留意点
1 学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>代表委員会の組織作り ・ 議長団の選出</li> <li>・ 計画委員会の構成 ・ 議題の集め方</li> <li>児童集会の年間計画を話し合おう。</li> <li>1年生を迎える会の計画を立てよう。</li> <li>校庭の遊び場をみんなで工夫して決めよう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>年間を通して、主体的な活動を促すために代表者同士の人間関係に十分留意し、民主的な組織づくりをしたい。</li> <li>計画委員会の原案を代表委員会でどのように解決していくかを理解させる。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>七夕集会の計画と役割分担を話し合おう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>計画立案や実践への手だての場面で、一部の児童に活動が片寄らないようにする。</li> </ul>
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>運動会のスローガンを募集しよう。</li> <li>学芸会を盛り上げる方法をみんなで考えよう。</li> <li>勤労感謝の集会の計画を立てよう。</li> <li>学級・学年のなやみを出し合おう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>代表委員会での話し合いの手順を確認し合う。4年生や5年生に活動な意見が出るようにわかりやすい手順とする。</li> <li>特に、集会の実施にあたっては、各学級や各委員会に役割分担をし、代表委員会での話し合い内容を実践に生かせるように工夫させる。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>全校でたてわり遊びの方法を考えよう。</li> <li>豆まき集会の計画を立てよう。</li> <li>クラブ発表会への協力について話し合おう。</li> <li>卒業生を送る会の計画を立てよう。</li> <li>代表委員会の引きつぎ。(次年度の活動を予想し、今年度のまとめとする)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>低学年に十分分かる広報活動をさせる。</li> <li>活動に意欲を持たせるために、事実を認め、はげます助言を工夫する。</li> </ul>

▶指導上のポイント

- ①年間の指導計画作成にあたっては、児童の自発的・自治的な活動を大切にしながら、弾力性をもちしかも、融通性に富んだものにする。
- ②組織運営上の問題点として、代表委員の各成員が民主的に役割を分担できるようにし、全校の諸問題を話し合い、解決する具体的な方法(議題集め→計画委員会→広報活動→代表委員会→広報活動)を理解させておく。
- ③全校のみんなにどのようにPRするか。これは「代表委員会だより」という形でもよいが、校内放送や新聞委員会の記事として取り扱うようにすると、各委員会との密なる連絡も考えられ、有効な広報活動が期待できる。
- ④代表委員会を開くまでに、代表者にそれぞれの学級や委員会の意見をまとめさせておく。

② 放送委員会 ▶ねらい 放送番組の計画と実践により、学校にうるおいをあたえる。

予想される活動内容	指導上の留意点
<p>◎組織作り（正・副委員長・書記の選出、グループ作り）</p> <p>◎年間の活動計画をたてる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○アナウンス等の放送技術や放送機器の操作の練習</li> <li>○校内放送番組表の作成（学期）</li> </ul> <p>番組例 { 各委員会のお知らせコーナー、委員会アワー、季節の話題、校内での話題・出来事等の校内ニュース クラス訪問、クラブ訪問、先生へのインタビュー }</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○放送を担当するグループのテーマソング、名前をつける。</li> <li>○放送委員会の番組（ドラマ等）の台本選び、練習</li> <li>○同番組の放送</li> </ul> <p>◎一学期の活動（放送内容）に対する、アンケート調査を行なう。</p> <p>◎アンケート・放送記録等を参考資料として、活動の検討を行なう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○組織作りの時には、委員会活動の意義を理解させ、望ましい委員会活動ができるように意義づけをする。</li> <li>○全員が、アナウンス及び機器の操作を確実にできるようにする。</li> <li>○番組は、曜日ごとの担当グループによって話し合わせ、原案を作成させる。各グループが、特色を持った番組を作れるようにする。</li> <li>○番組を、掲示、新聞等を利用することにより、全体に知らせるようにする。</li> <li>○ドラマ等は、第一段階として、学校図書等の既成の台本を利用するように指導、助言をする。</li> <li>○取材の時間・インタビュー時の言葉使い、内容等について教育的配慮をしながら、指導、助言をする。</li> <li>○無理のない計画をたてさせる。</li> <li>○放送番組・常時活動の検討をさせ、工夫する余地等を考えさせ、よりよい活動ができるように話し合わせる。</li> </ul>
<p>◎年間活動計画の修正</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○校内放送番組表の作成（前学期を参考にする）</li> <li>○運動会・学芸会等の行事の録画・放送</li> <li>○放送委員会の番組（ドラマ等）の台本作り、練習</li> <li>○同番組の放送</li> </ul> <p>◎一学期と同様、アンケート調査と検討を行なう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○一学期の活動を土台として、番組を考えさせる。</li> <li>○他の委員会が、自由に使える時間、番組を確保させる。</li> <li>○ドラマ等の台本作り、練習の指導、助言をする。</li> </ul>
<p>◎年間活動計画の修正</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○校内放送番組の作成（学期の特色も生かす）</li> </ul> <p>番組例 { クラブ・委員会の活動紹介 僕の先生・私の先生 }</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○放送委員会の番組の台本募集・選定・練習</li> <li>○同番組の放送</li> </ul> <p>◎一年間の活動を検討する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○活動の中心を5年生に移してゆく。</li> <li>○来年度の学校生活の参考になるような番組を検討させる。</li> <li>○台本の募集方法・選び方・練習の指導・助言をする。</li> <li>○来年度の活動の資料となるような検討をさせる。</li> </ul>

〔指導上のポイント〕◎給食時の放送が、一般的だが、全校的放送という点から集会等を利用して、放送時間を短時間に設定することも考えられる。◎放送が、一方通行でなく、全児童が、期待を持てるように工夫させたい。そのために、アンケート等で、反応を確認させることは、必要である。◎教師の補助的活動（朝会の準備、下校放送等）も必要な活動であるが本来の委員会活動とは、明確に区別する必要がある。

③ 集会委員会 ▶ねらい 集会の内容や運営を工夫し楽しい集会ができるようにさせる。

(ロング) 予想される活動内容 (ショート)		指導上の留意点																																									
4	一年生を迎える会	<p>○年間の指導計画の立案にあたっては前年度の活動計画を参考に計画させ児童が見通しをもって活動できるようにする。</p> <p>○ロングの計画にあたっては、学期1～2回をとりあげることが望ましい。</p> <p>○年間計画は児童の発想を大事に生かせるようにすることが望ましいが、さらに学校の規模、季節、実施場所などを考慮し、変化をつけることが大切である。</p> <p>○ショートについては、左記にあげたような3つの形式がある。</p> <p>&lt;その1&gt;は月の週による活動計画例</p> <p>&lt;その2&gt;は年間を通しての活動計画例(お楽しみ会)</p> <p>&lt;その3&gt;は季節を考慮して集中的に行う例</p> <p>各学校の現状によって、取捨選択し学校の創意を生かして立案することが望ましい。</p>																																									
5																																											
6																																											
7	七夕集会																																										
9	(夏休み作品発表会)																																										
10																																											
11	勤労感謝の日																																										
12	年忘れ子ども会																																										
1																																											
2	豆まき集会																																										
3	ひな祭り集会																																										
	<p>例&lt;その1&gt;月間活動例</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>活動内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1 週</td> <td>お楽しみ会</td> </tr> <tr> <td>2 週</td> <td>委員会 クラブ } だより</td> </tr> <tr> <td>3 週</td> <td>学級発表</td> </tr> <tr> <td>4 週</td> <td>お楽しみ会</td> </tr> </tbody> </table> <p>例&lt;その2&gt;年間活動例</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>活動内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4月</td> <td>みんなで歌おう</td> </tr> <tr> <td>5月</td> <td>全校ダンス</td> </tr> <tr> <td>6月</td> <td>紙芝居</td> </tr> <tr> <td>7月</td> <td>クイズ・ゲーム</td> </tr> <tr> <td>9月</td> <td>大玉送り</td> </tr> <tr> <td>10月</td> <td>楽しいお話</td> </tr> <tr> <td>11月</td> <td>マラソン</td> </tr> <tr> <td>12月</td> <td>ゲーム・クイズ</td> </tr> <tr> <td>1月</td> <td>寸劇・なわとび</td> </tr> <tr> <td>2月</td> <td>元気に体操</td> </tr> <tr> <td>3月</td> <td>全校ダンス</td> </tr> </tbody> </table> <p>例&lt;その3&gt;季節による活動例</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>活動内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4～5月</td> <td>委員会だより</td> </tr> <tr> <td>11～2月</td> <td>体育的集会</td> </tr> <tr> <td>1～3月</td> <td>クラブの紹介</td> </tr> </tbody> </table>			活動内容	1 週	お楽しみ会	2 週	委員会 クラブ } だより	3 週	学級発表	4 週	お楽しみ会		活動内容	4月	みんなで歌おう	5月	全校ダンス	6月	紙芝居	7月	クイズ・ゲーム	9月	大玉送り	10月	楽しいお話	11月	マラソン	12月	ゲーム・クイズ	1月	寸劇・なわとび	2月	元気に体操	3月	全校ダンス		活動内容	4～5月	委員会だより	11～2月	体育的集会	1～3月
	活動内容																																										
1 週	お楽しみ会																																										
2 週	委員会 クラブ } だより																																										
3 週	学級発表																																										
4 週	お楽しみ会																																										
	活動内容																																										
4月	みんなで歌おう																																										
5月	全校ダンス																																										
6月	紙芝居																																										
7月	クイズ・ゲーム																																										
9月	大玉送り																																										
10月	楽しいお話																																										
11月	マラソン																																										
12月	ゲーム・クイズ																																										
1月	寸劇・なわとび																																										
2月	元気に体操																																										
3月	全校ダンス																																										
	活動内容																																										
4～5月	委員会だより																																										
11～2月	体育的集会																																										
1～3月	クラブの紹介																																										

指導上のポイント

- ・全職員の共通理解が特に大切な委員会なので、計画については前もってプリントで知らせる。
- ・全児童に興味、関心をもたせるために、各教室に計画のプリントを配布したり、学校掲示板に計画表を掲示させたりする。
- ・司会、進行などは当番を決め、委員全員があたるようにさせ、意欲をもりあげさせる。
- ・活動実施に使用した資料は大事に保管させ、活用させる。

④ 保健委員会 ▶ねらい・全校児童が健康で安全な生活をし気持ちよい環境をつくる。

月	予想される活動内容	指導上の留意点
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>委員会の編成</li> <li>前期活動計画を立てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>できるだけ子どもたちの手で運営されるように、計画の段階で配慮する。</li> </ul>
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>病気やけがの記録を、ノートにつける。</li> <li>手洗い場所の上手な使い方をよびかける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全校への呼びかけ（集会・放送など）を通して、活動への意欲を高める。</li> </ul>
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>歯みがき体操を、児童集会でする。</li> <li>歯みがきのポスターを書き、掲示する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>虫歯予防への関心を高めるような工夫をするよう助言する。</li> </ul>
7	<ul style="list-style-type: none"> <li>清掃用具などの点検・補充をする。</li> <li>一学期の活動内容を反省する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>反省が、次への工夫に役立ち生かせるように話し合わせる。</li> </ul>
9	<ul style="list-style-type: none"> <li>夏休み中のけがや病気について調べる。</li> <li>簡単な応急処置のしかたを覚える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>けがや病気の種類・原因などの調査結果を発表し、健康安全への意識を高める。</li> </ul>
10	<ul style="list-style-type: none"> <li>目に関するポスターを書き、掲示する。</li> <li>後期委員会編成と活動計画を立てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>後期委員会の活動計画のため引きつぎをしっかりとさせ、活動記録をまとめさせる。</li> </ul>
11	<ul style="list-style-type: none"> <li>乾布まさつの集会計画を立て、実施する。</li> <li>かぜ予防運動のポスターを作成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>集会は、計画・実施ともに全校児童が楽しみながらできるように工夫させる。</li> </ul>
12	<ul style="list-style-type: none"> <li>二学期の活動内容について反省する。</li> <li>冬休みの健康安全について放送発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>前期の活動内容も記録を見ながら反省させ、三学期への意欲を高める。</li> </ul>
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>冬休み中の健康安全について調べる。</li> <li>三学期の活動計画を立てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>調査したものをどのように発表したらよいか、新しい方法を工夫させる。</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>手洗い場をきれいにしようという運動を全校に呼びかけ、実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>冷たい水を嫌がらずに、手洗い場をきれいにする運動を活発にさせる。</li> </ul>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>後期委員会活動の反省をする。</li> <li>来年度への希望などをまとめ記録する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>来年度に向けて、活動内容の改善すべき点などをまとめ記録させる。</li> </ul>

▶ 指導のポイント

他の委員会の活動にくらべ、ともすれば地味で単調な活動になりがちである。単に教師の補助的な活動に終始することが多い。そこで学期に1回程度上記のような集会を保健委員会の手で計画・実施するとよい。活動意欲も高まり、楽しい発想やおもしろい工夫が多く見られる。

保健は、健康安全が第一であり、特に生命に関することが中心である。保健指導との関連もふまえて、自発的・自治的活動として許容できる範囲を明確にして指導助言していきたい。

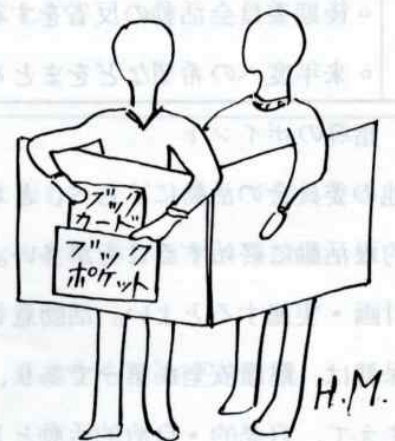


⑤ 図書委員会 ▶読書をすすめるための指導的役割と、世話やき活動

月	予想される活動内容	指導上の留意点
4	図書館の運営について理解する。 図書館の当番活動の班わけをする。	<日直の仕事> ○貸出・返却の世話
5	図書館の使い方・貸出・返却のやり方などについて集会でアピールする。	○日誌記入 学年学級別・類別貸出統計 <集会でのアピール>白ボール全紙大の表紙にブックポケットを付けたものなどを使う。劇化した台本の例「本を図書室に置いて来ても返した事になりません。
7	○台本作り 単なる伝達でなく。劇化して ○物作り ブックカード・ブックポケットなど大きいものを作る。他の説明用具も	このカードがココに入った時、はじめて返したことになります。(下図参照)
(7 8)	夏休み中図書館開館日(貸出日)の手伝い ○自分も貸返をする委員児童は、先生の手伝いをする。	<感想文>は、コンクール参加とかみ合わせて行くと良い。放送委員会とタイアップして、昼の放送などで読む。
9	読書運動 P-I 委員会から ○読書感想文の募集・紹介	<読書運動> 委員会が、全児童に呼びかけるために行うものと、全児童にも作品などの形で参加を求めるものとを組み合わせるとよい。
12	○本の紹介 ・新刊書やぜひ読んで貰いたいと思う本の紹介をする。イラストを入れた掲示物	紹介は、画用紙一枚分、イラストを含めて紹介文を書き、掲示する。放送利用・集会での発表・図書館だよりなどで発表
1	読書運動 P-II 全校参加で ○読書ゆう便 読んだ本について友達に手	<評価>自分で一年をふり返って反省
2	を書く。それを「図書ゆうびん」として委員が宛名の児童に配達する。	
3	引きつぎ、反省と来年への要望、評価。	

○児童の傾向 本委員会に所属を希望する児童は本が好きで世話好き、事務的なことはきちんとやる者が多い。反面、皆の前に立ってアピールしたり、学級訪問で説明など苦手とする。持ち味を生かす指導と、欠けぎみな活発さを育てるような配慮も必要である。集会などでの発表の場面を作りたい。

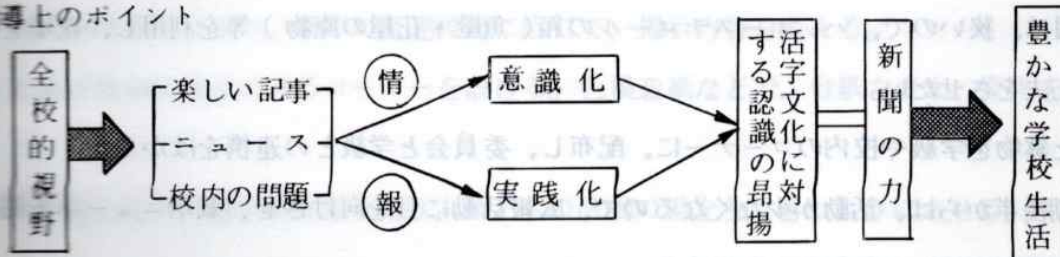
○統計は月とか週単位でまとめ、読書週間などにグラフ化したりして発表させる。学級指導の資料にもなる。



⑥ 新聞委員会 ▶ねらい……新聞発行の活動を通して、学校生活が、より楽しく、豊かなものになるようくふうさせる。

用	予想される活動内容	指導上の留意点
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○年間の計画を立てる。</li> <li>○発行までの手順</li> <li>○取材活動や記事の整理のしかた</li> </ul>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>(計画にあたって)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○新聞の種類(印刷新聞・壁新聞)</li> <li>○発行日と回数</li> <li>○各号のテーマ</li> <li>○紙面の構成</li> <li>○文の書き方</li> <li>○役割分担</li> <li>○反省のしかた</li> </ul> </div>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○仲間づくり</li> <li>○春の遠足</li> <li>○子どもの日(こいのぼり作り)</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○新しい先生へのインタビュー</li> <li>○学校行事の紹介</li> <li>○ユニセフ募金</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○目標に向かって泳ごう</li> <li>○夏休み特集</li> <li>○よい新聞にするためのアンケート</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○運動会を成功させよう</li> <li>○学校園の紹介</li> <li>○教頭先生に聞く</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○スポーツ集会</li> <li>○本を読もう</li> <li>○各委員会からの報告とお願い</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○本校〇〇周年記念特集号 (学校の歴史・よびかけ・式典の歌募集)</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校や学級の自慢</li> <li>○校内十大ニュース</li> <li>○専科の先生をたずねて</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○年賀状の紹介(ことしの抱負)</li> <li>○保健室・給食室・主事室から今日は</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○展覧会特集</li> <li>○学級訪問</li> <li>○クラブ活動訪問</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○6年生を送る旬間</li> <li>○さよなら号の発行</li> <li>○校長先生の言葉</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○記事内容が、学校生活から、はなれたものにならないようにする。</li> <li>○編集の基本的な知識や技能を指導する。</li> <li>○ファックスどりや印刷は、教師の指導のもとで行うのが望ましい。</li> <li>○個人の分担の量を少なくして、書きやすくする。</li> <li>○高学年向きの内容に片よらないようにする。</li> <li>○わら半紙などの年間必要量を確保する。</li> <li>○活動時間の計画をしっかりとておく。</li> <li>○文がまとめられない児童の場合は、グループで、組んで書かせる。</li> <li>○自分たちで記事の取材ができるようにする。</li> <li>○読みにくい場合は、各号毎に書く人を決め、統一した文字で書くのも良い。</li> </ul>

▶指導上のポイント



⑦ 栽培委員会 ▶ねらい……植物の栽培や紹介を通し、自然愛護の気持ちをひろめるとともに、校内美化に協力して学校生活を豊かにする。

	予 想 さ れ る 活 動	留 意 点
一 学 期	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 年間活動計画の立案</li> <li>○ 組織づくり、係分担、グループづくり</li> <li>○ 春まき草花・苗・球根の植つけ計画と実践</li> <li>○ 花壇や鉢への散水</li> <li>○ さし木(菊・ゼラニウム等)と世話</li> <li>○ 花壇の手入れと草取り</li> <li>○ 夏休みの散水計画</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 委員会のめあてを明瞭にし、自然の生命愛護を認識させ、継続して責任ある態度で臨むようにさせる。</li> <li>○ 花壇の植えつけ計画を工夫させ、楽しみながら活動できるようにさせる。</li> <li>○ 簡単なさし木をして、鉢物をふやし、二学期、各学級・校内を飾る。</li> </ul>
二 学 期	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 一学期の反省 (・係・グループの交代) (・計画の修正)</li> <li>栽培用具の整とん</li> <li>○ 校庭樹木の名札かけや修理</li> <li>○ 秋まき草花・苗・球根の植つけと世話</li> <li>○ 菊・ゼラニウム鉢の校内分配計画と実践</li> <li>○ 栽培ニュースの計画と実践</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 植え込みの草取りや夏休み中の散水は、委員会で、不十分なところは、代表委員会に提案し、協力を求める。</li> <li>○ 古くなった樹木の名札や針金の交換をする。</li> <li>○ 広報活動を通し、全校に草木を大切にすることを呼びかけたり、校庭の樹木や野草を紹介し、関心を深める活動をさせる。</li> </ul>
三 学 期	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 二学期の反省</li> <li>○ 栽培ニュースの計画と実践</li> <li>○ 栽培用具の整とん</li> <li>○ 六年生へ送る鉢(サクラ草)の世話</li> <li>○ 一年間の活動の反省</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 活動の中心を5年生に移し、卒業のお祝いに、6年生の教室を飾る鉢物の世話を</li> </ul>

<指導のポイント>

- 種や球根・さし木は、栽培のやさしいものを選択し、成功の喜びや成就感を味わわせるよう配慮する。
- 学校園は、狭いので、ハッポースチロールの箱(魚屋・花屋の廃物)等を利用し、花壇をふやす工夫をさせたい。
- 育てた鉢物を学級や校内のコーナーに、配布し、委員会と学級との連携をはかる。
- 2学期後半からは、活動が少なくなるので、広報活動に目を向けさせ、栽培ニュースを掲示や校内放送を通して行なうようにする。

⑧ 掲示委員会

▶こちら—校内の掲示板を利用し、校内掲示を計画的にすすめる。

校内の環境美化のための活動をする。

学期	予想される活動	指導上の留意点
	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦ 1年間の活動計画を立てる。</li> <li>◦ 組織作りをする。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">                     子どもたちが書いた生活目標展示                 </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>◦ 低・中・高学年の作品展示</li> <li>◦ ポスター展示</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦ 無理のない活動計画</li> <li>◦ 5、6年平均になるように組織</li> <li>◦ 子どもたちにまかせるコーナーを作らせる。担当者の名前を入れる。学年作品は各学年の先生のところへ借りに行かせる。班は輪番で1ヶ月ごとに交代させる。</li> <li>◦ 反省をさせ、二学期の資料にさせる</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">夏休みの作品展をする。</span></li> <li>◦ <u>運動会</u>のポスターを募集し、掲示する。</li> <li>◦ 地域に<u>運動会</u>のポスターを掲示する。</li> <li>◦ <u>学芸会</u>、<u>展覧会</u>なども同じようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦ 各学年から作品をもちよらせて、作品コーナーに展示させる。</li> <li>◦ ポスターを全校から募集させる。</li> <li>◦ 掲示場所を考え、撤去もしっかりさせる。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦ <u>クラブ発表会</u>のお知らせやポスターを掲示する。</li> <li>◦ 校内を回り、効果的な掲示法について話し合う。</li> <li>◦ 次年度の活動内容について話し合う。</li> <li>◦ 一年間の反省をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦ 代表委員会からの委託として、三年生のクラブ説明にもなるように、ていねいにくわしく書かせる。</li> <li>◦ 効果的な方法を話し合わせ、次年度の引き継ぎ事項にさせる。</li> <li>◦ 5年生が、運営の中心になっていくようにさせる。</li> </ul>

<指導上のポイント>

- 全校的な視野に立つ。学年の発達段階に応じて、掲示内容を考える。
- 児童が自由に掲示できるコーナーを設ける。色模造紙などで、台紙を変え、変化をもたせる。
- 各委員会などの掲示板を作ったり、子どもの活動の場を多くもつようにさせる。

⑨ 遊び委員会 ▶ねらい……遊びの紹介や遊びの実践を通して、より楽しい学校生活が送れるようにする。

	予想される活動内容	指導上の留意点
一 学 期	<ul style="list-style-type: none"> <li>○年間計画の立案（活動する時間、グループ作り、遊びの紹介の方法、放送日の割り当て、学期毎の発表会の検討）</li> <li>○校内の遊びの実態調査（校庭、室内、屋上）調査結果のまとめ、発表</li> <li>○1年生と遊ぶ（始業前、休み時間）</li> <li>○梅雨時の室内遊びのコンクールを企画</li> </ul>	<p>1.学校の規模により、人数・場所・遊具設備等の問題は、安全や児童の興味にも関わってくる大切な問題である。それらの問題を主体的に把え、条件の中で、より楽しい学校生活が送れるように、主として高学年の児童が、遊びを紹介したり実践していくものと考えた。</p>
二 ・ 三 学 期	<ul style="list-style-type: none"> <li>○紙飛行機の飛行くらべコンクールを企画</li> <li>○学期会の幕間指導</li> <li>○伝承遊びの紹介</li> <li>○委員会の児童が実際に作った遊具の紹介</li> <li>○たこ上げ大会の企画</li> <li>○年間の反省（活動時間、計画、方法）</li> <li>○年間に紹介した資料や、各クラスから出された貴重なデータをまとめる</li> </ul>	<p>2.（活動時間）放送は給食時・常時活動は、休み時間・放課後とする。</p> <p>（方法）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○年度当初に、遊び委員会主体の集会を数回設け、遊びを啓蒙する。</li> <li>○月2回ぐらい、遊びの紹介を給食時に放送あるいはTVで流す。</li> <li>○壁面に遊び方（模造紙に書いたもの、実物があれば）を掲示しておく。</li> </ul>
	<p>事例（人数・場所・季節を考慮する）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○三角陣とり ○手つなぎ鬼→あみ</li> <li>○ジャンケンどん ○人工衛星</li> <li>○サインでジャンケン ○Sケン</li> <li>○くっつき鬼</li> <li>○しっぽとり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○遊びコーナーを設け、自由に遊べる用具を用意しておく。</li> <li>○遊びバトロールを設け(曜日を決めて)教室居残り者を意図的に遊びに参加させて行く。</li> </ul>

▶指導上のポイント

- ・既成の遊びの紹介から入り、なるべく創造的な遊びを作り出せるように工夫する。
- ・委員会の児童だけの一方通行にならぬよう、どうしたら全校に普及して行くかを考えることが大切である。
- ・年間を通して、紹介した遊びや、各クラスから吸い上げた遊びを、貴重なデータとしてまとめて行くようにする。

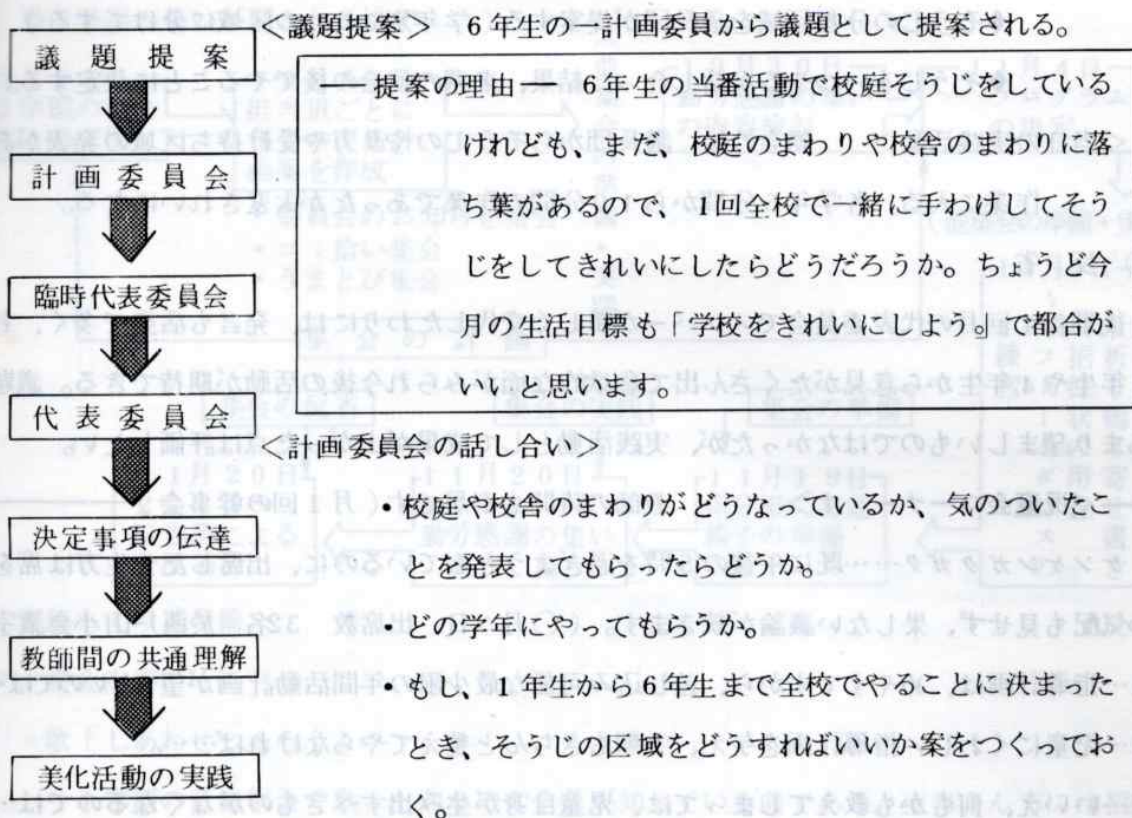
## 2. 授業研究

### 実践事例 (1) 代表委員会の呼びかけて全校児童が取り組んだ美化活動 S区N校

- ① 議題 ————— 「校舎のまわりをきれいにしよう」
- ② 議題提案者 ————— 「代表委員会の計画委員」
- ③ 議題提案に至る動機

本校では6年生全員による輪番制の当番活動が行われている。この当番活動の一つに校庭の清掃活動があるが、落ち葉の多い秋の朝清掃は、かなり大変な仕事で、短時間に少人数でやる当番活動だけでは十分ではなかった。そこで、計画委員の一人が一回全校の生徒で美化活動をやってみたらどうだろうということに気づいて、今回の議題提案に結びつけたものである。

#### ④ 議題提案から美化活動の実践まで



＜臨時代表委員会の話し合い＞ 後期、第1回目の代表委員会の話し合いが円滑に運ぶように顔合わせと議題の説明を兼ねて、臨時の代表委員会を短時間開いた。

＜後期第1回代表委員会＞ ※都特活の授業研究を兼ねて実施された。

出席児童は、3年生以上の各学級代表2名（男1女1）によって構成されている。委員会の委員長は、代表委員会と同じ時間帯に定例活動日を設定してあるので、特別

な場合をのぞいて出席していない。

議長団は、6年生の代表委員8名で構成し、計画委員会の構成員を兼任している。

<代表委員会の話し合い>(概略)

◆校庭や校舎のまわりがどうなっているか気づいたことを発表してもらおう。

・落ち葉が植込みの中や校庭のすみの方にまだあるようだ。

・仲よし花だんの中にも落ち葉がいっぱいある。

◆どの学年でやったらいいか意見を出してください。

・1年生は、無理だと思うので、2年生以上でやったら。

・1年生だけでなく2年生も無理だと思うので、3年生以上でやったら。

・1年生から6年生まで全校でやったら。

◎多数決の結果「全校でやることになる」(多数が賛成)

◆そうじの分担区域を議長団が提案する(学年別に6つの区域に分けてする)

◆そうじをいつやるか話し合った結果、来週の朝会の後でやることに決定する。

<当日の実践活動> 朝会の後、議長団からそうじのやり方や受け持ち区域の発表があり作業に入る。各学年5分間から10分間の作業であったが大変きれいになる。

⑤ 反省

後期第1回目の代表委員会でメンバーが新しく交代したわりには、発言も活発で多く、特に3年生や4年生から意見がたくさん出て意欲的な面がみられ今後の活動が期待できる。議題はあまり望ましいものではなかったが、実践活動として成果が上がった点は評価したい。

<児童会コーナー 1> 教師の時間も不足です(月1回の幹事会)

ケンケンガクガク……既に午後の5時を過ぎようとしているのに、出席した先生方は席を立つ気配も見せず、果しない議論が続きます。(○月△日 出席数 32名 於西戸山小会議室)

A…指導計画は、めやすですから、差し込み可能な最少限の年間活動計画が望ましいのでは…。

B…児童にクワイの指導計画を与え、手順もきちんと整えてやらなければ…。

C…いいえ、何もかも教えてしまっは、児童自身が生み出すべきものがなくなるのでは…。

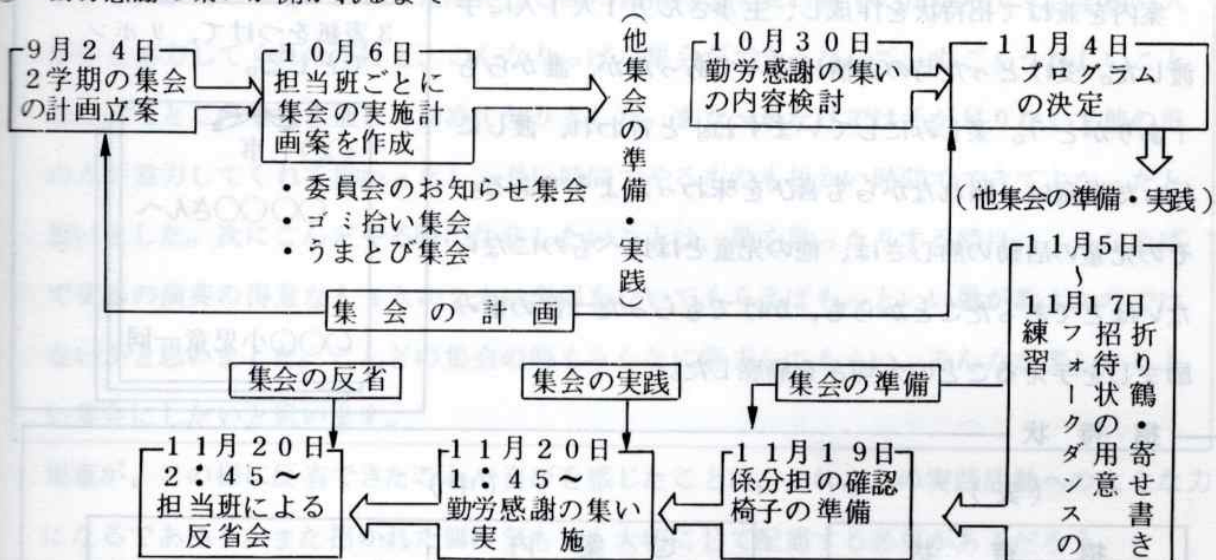
D…放任からは、何も生まれません。役割分担を細かくして、賞讃を惜しまないことが…。

さて、この情熱は、どこの学校のどの子どもに対して適切なのでしょうか。年間の見通しをきちんと立てて、ゆとりを持って実践したいのですが、地域差・学校差も考えますと、とてもとても、月1回の研究会では教師の時間も不足です。

実践事例 (2) ー豊かな児童を育てる集会の計画と実践<勤労感謝の集い>ー S区G校

本校のショート集会(集会委員会の計画・運営による集会)は、第2・4水曜日に位置づけられている。時間は8:35~8:45の10分間となっている。この10分間で全校児童(633名)が楽しく集うためには、やはりゲーム的な内容が主体になってしまう。しかし、児童の中にゲームのマナー化や勝敗を決定する時の条件の不ぞろいなどから、集会に対する不満や非難の声が聞かれる。また教師の中からも、新鮮な気分の朝からゲームで走り回ったり騒いだりしたのでは、その後の授業への集中に支障があるなどの批判の声が聞かれる。そこで本年度は集会の内容について再検討すべきであると考え、意図的な指導助言により、児童の手によって計画される集会の内容にゲーム以外のものを取り入れさせるよう試みた。その1つとして本年度初めて、主事さん方を対象とした「勤労感謝の集い」を行ったのである。

① 勤労感謝の集いが開かれるまで



② 実施までの諸準備

ア 集会内容

○歌「しあわせつくろう」

1学期の音楽朝会で歌った曲なので全員が知っている曲である。主事さん方には招待状と一緒に歌詞プリントを渡す。

○感謝のこたば

代表の児童が言うだけでは全校の集会とは言えないという児童の発言を生かして、全校児童による寄せ書きを作る。色画用紙24分の1の大きさを児童1人分として渡し一言ずつ書いてもらい、主事さん方1人ずつに分けて台紙に貼り、表紙をつけて、リ



ボンでとじた。これを学年代表が感謝のことばを述べた後1人ずつ手渡す。

○ プレゼント

全校児童が1羽ずつ鶴を折り、首かざりのようにつなげて1人1人に渡す。

○ フォークダンス「線路は続くよどこまでも」

当日初めて踊る主事さん方にもすぐ踊れるものとして選んだ。児童達の練習は、集会委員が中心となって11月8日～11日までの20分休みに校庭で行った。(レコードをかけて集会委員が踊り始めると自然に輪になり、踊っていた)

イ 招待状

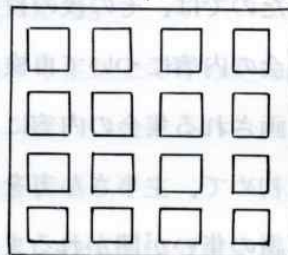
案内を兼ねて招待状を作成し、主事さん方1人1人に手渡した。受けとった時の表情は様々であったが、誰からも「ありがとう。楽しみにしていますね」と言われ、渡しに行った児童は、照れながらも喜びを味わったようである。その児童の活動の熱心さは、他の児童とは比べものにならないほどであったことから、かけてもらった一言の重み励ましを与えることの大切さを痛感した。

寄せ書きは

1.右のように1人ずつ書く  
(色画用紙1/24大)

○年  
○組  
○  
○  
○  
○  
(感謝のことば)

2.それを集めて1人分ずつ台紙にはる。



3.表紙をつけて、リボンでとじる。



招待状

(表)

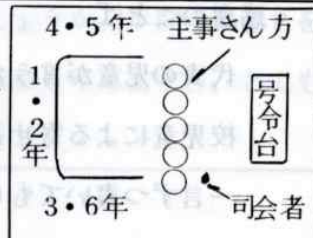
<p><u>招 待 状</u></p> <p>○○○○様</p> <p>勤労感謝の集い</p> <p>日時 11月20日(木) 1:45~2:05</p> <p>会場 校庭(雨天の場合 屋体)</p> <p>集会委員一同</p>
--

(中)

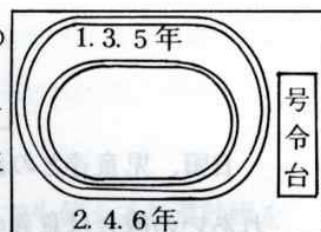
<p>ご 案 内</p> <p>私達集会委員会は日頃お世話になっているみなさんと楽しい時間をすごしたいと思い、感謝の気持ちこめて、集会を計画しました。いそがしい時間だと思いますがぜひご出席していただきたくご案内いたします。</p>	<p>1.開 会</p> <p>2.歌(しあわせつくろう)</p> <p>3.感謝のことば プレゼント</p> <p>4.フォークダンス (線路は続くよ どこまでも)</p> <p>5.閉 会</p> <p style="text-align: right;">以 上</p>
---	--

ウ 隊 形

この集会では二種類の隊形を用いた。プログラム1~3は、主事さん方の姿が全校児童に見えるように右図のようにならんだ。主事さん方と校長先生には椅子を用意したが、児童はその場に坐った。



フォークダンスの時は、右図のような二重円で行った。各学年の先頭に集会委員が立ち、円を作っていく。主事さん方を児童が迎えに行き、その児童と手をつないで円の中に入って一緒に踊る。先生方も中に入って一緒に踊る。



### ③ 活動を終えて

教師側から見ると、児童の参加態度や時間の取り方などで、改善しなければならない点もあったが、一番大事にしなければならないのは、児童の気もちであろう。以下、計画にあたった児童や主事さん方の感想を通して、その成果を考察してみたい。

#### 勤労感謝の集いを終えて 5年S子

私が一番よかったなと思ったのは、作文とプレゼントを渡す時でした。それは、各々の学年が感謝の気もちをこめて作文を書いたりプレゼントを作ったりしたことが、給食のおばさん、事務の人達に伝わったんだと顔の表情によく表われていたからです。全校の人が少し協力してくれただけで、こんなにっぱな集会ができるなんて、すごくうれしいことなんだとこの集会を通して初めて知りました。また一班だけでは手が足りなくて他の班の人が協力してくれて助かったし、長い時間でやるものも短かい時間でできてよかったと思いました。次にこんどやる時に注意したいことは、歌を歌ったりする時はマイクのそばで楽器の演奏の得意な人1人か2人に楽器をひいてもらえばもっといい歌が歌えたのではないかと思います。こんどの集会の時もみんなに協力してもらい、みんなが楽しめるよい集会にしたいと思います。

児童が、この様に反省できたことや喜びを感じたことは、これからの実践活動への大きな力になるであろう。また招かれた側の気もちも大切に配慮する必要があるだろう。

用務主事  
学童擁護主事

の感想

とても嬉しかった。照れくさかったが、プレゼントや寄せ書き大事にします。

事務主査  
事務主事

の感想

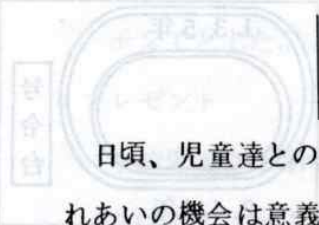
児童と踊る機会がなかったので、フォークダンスと一緒に手をつないで踊れたのが一番嬉しかった。また一緒に踊りたいですね。

給食主事の感想

とても楽しかったです。給食の後片づけで忙しい時間だったけど、一緒にやれて、とても楽しかったです。プレゼント大事にします。

警備主事の感想

ありがとうございます。寄せ書き大事にします。将来自分の生活をふり返った時、こういう仕事をしていたんだと誇りを持って自慢できます。ありがとうございます。児童達と直接ふれあうことが少ないので、機会があった



ら警備員室に来るよう伝えてください。私から一人ずつにお礼を言  
いたいから。ほんとうにありがとう。

日頃、児童達との直接的なふれあいが少ない主事さん方にとって、このような児童とのふれあいの機会は意義のあるものだったようである。時間的に一番忙しく都合をつけにくい給食主事さんが全員出席してくださったことから、その意義が大きかったことがうかがえる。また、この集会以後、登下校時にあいさつしてくれる児童が多くなったと報告にきてくださる主事さんもいる。集会のねらいなど、もう少しはっきりする必要もあったし、集会内容にも工夫の余地があったが、それなりに成果のあった集会だったと考える。

#### ④ 今後の課題

- ア. 勤労感謝の集いについては、招かれる側の範囲や内容のマナー化等の検討課題を抱えとりやめる学校が多くなってきているが、本校では前述のように成果があった集会なので改善点については、これから検討していき、来年度も行いたいと考えている。
- イ. 改善しなければならない内容として、フォークダンスの問題がある。高学年児童の中に男女手を取りあって踊ることに抵抗があるらしく「来年もやりたい」と答える児童が少ない。この点について、さらに原因を分析検討していき、改善を図っていく必要がある。
- ウ. 今回の集会でも、集会の流れにあわせて、児童がストップウォッチで計時し、記録をとっていたが、予定時間をオーバーしてしまった。児童の手による集会では、時間の予測が安易になりがちである。計画の段階からどう指導助言すれば、自発性を生かした集会の計画ができるか、今後の集会活動の計画を通して検討していきたいと考える。

#### ＜児童会コーナー 2＞ とんでもない先生

★昨年度のファイルをひろげて見ると、子どもの反省の声が聞こえて来ます。

- ① 先生に議題を教えてもらったのでとても良かった。今年自分で考えなさいなんて言われなかったから、楽しかった。
- ② マンガクラブの友だちに壁新聞のイラストを頼んだら、とてもきれいな新聞ができた。でも、すごく叱られた。クラブのA君は、喜んで描いてくれたのになあ。
- ③ 7月の七夕祭りは、みんな楽しみにしている集会なのに、今年は中止になった。集会の先生が移動教室の準備で忙しかったからだ。本当にかっかりした。
- ④ やっと入れた放送委員会。やりたかった新しい番組は作れなかった。毎週決まっているからだめだと言われた。先輩はラクでいいじゃないかといっていた。

★まるで の河原の石積みのように、子どもの願いは吹き散らされてしまうのでしょうか。

## Ⅳ 研究の成果と今後の課題

### 1. 成果と反省

「児童会活動でになり人間形成を見究める」「だれにでも、どこにでも使える指導計画を作成する」「研究した指導計画、仮説に基づいて実践授業を行なう」「人間性を養う児童会の基本を共有しあう」を目標に、40人以上の幹事が10数回の協議を行なった。

その結果、私たち授業研究者も発言したくなるような代表委員会、私たち参観者も踊りたくなるような集会のジェンカの輪などが、ほゞえましく行われた。

しかし、幹事の先生方から出された問題点や指導計画の資料を、じっくり分析し、ひとりひとりの先生方と、じっくり話し合う時間は不足した。このことは、会の運営のまずさにも原因はあるが、例年がない、多くの参加者と宿題の資料豊富という、うれしい悲鳴でもあるので、来年度は、ぜひ、生かせるように工夫したい。

集会の輪に、参加したかった！

#### (1) 子どものつぶやきを、たくさん集めた

担当教師のつぶやきも話し合った。しかし、好ましい活動を自校に行なうためには、子どもの願いを達成することに重点をおいた。そうすることによって、小規模の学校、都心の学校、特別活動に関心のうすい学校などによって、それぞれ、子どもの悩みが異なることがわかった。自分の学校がかかえている問題を大きくとらえて、一步前進する工夫を、子どもの立場で捕えることができた。

#### —〈児童会コーナー 3〉

集会への忠告よりも、見守りを！

児童会の活動や集会を学習とっていない先生方。集会の計画が出されると「授業が遅れる」「授業をつぶさないで」という声が聞かれる。なんとか子どもたちを動かして準備し、やっとこぎつけた集会。手を出さずに見守っていよう。自分たちでやりとげた成功感を味わわせてあげよう。外見はわるくても、長い目で見ていこう。しかし、児童が、バタバタすれば、みっともないという声が……。時には、がまんができなくなった先生が、マイクをとりあげて、全校児童をおこり出すという一幕も。せっかく大事に育ててきた児童のやる気は、そのとたんにベジャンコに。終了後、長びいた集会に忠告が。児童活動が大切にされる時が早く来ることを願い、一步一步、実践していかななくてはと思う。

## (2) 独自の指導計画をつくりあった

自校の指導計画を持ちよって検討し、独自の指導計画をだしあった。年間の活動内容を月別に並べてみたものがあつた。どうも、どこか、ぴりっとしない。一ページの中に、必ず工夫のある、使える視点をつくろうということになった。よいものをうみだすための厳しい討論もあつた。一ページ、一ページの生命が、きっと、読ませるのではと考える。

## (3) 望ましい人間形成を集会で共有しあつた

時間通りはじまって、時間通り終わる中に、教師の声は、お礼と励ましの声のみであつた。準備の時間と仕事の分担、協力に苦勞があつたようである。そのような勢いが、あまり、はでにならず、やわらかく発揮されていたので、紹待されていた主事さんたちのみならず、私たちも、参加したくなるような雰囲気をつくつた。

## 2 今後の課題

- (1) 委員会の指導計画のポイントが、指導のこつとなつてゐるか。
- (2) 人間性を豊かにするための留意点について勉強不足(理論的裏づけ不足)であつた。
- (3) 教科・領域・ゆとりなどとの関連を検討できなかった。
- (4) ビデオ・スライド・自作資料などの活用が不足した。
- (5) 問題点の洗い出しが、組織・運営面、特に、指導体制にいきがちであつた。

## 3 お礼

終りになってしまつたが、本間万亀尾校長先生・松野彰夫先生には講師として、源氏前小学校、西戸山小学校、開進第三小学校には会場校として、大変お世話になりましたことを、厚くお礼申し上げます。なお、資料を提供して下さつた先生方、遅くまで熱心に研究協議、資料づくりに参加して下さつた先生方にも感謝の念をささげて勞をねぎらい……。

— <児童会コーナー 4> 代表委員会 集会を育てるコツは? —

ベテランの医者は、顔色をみただけで、病名をあてると言う。また、名人の植木屋さんは、庭をみただけで、仕事の仕上がり、手順がわかると言う。

さて、代表委員会、集会の手順、仕上げるコツは? 診断は?

代表委員会 教室の空気、先生の顔、黒板を観るとわかります。

参加者の事前準備と計画者の予定に、無理のない、しかも、助け合いが

集 会 集会を見ている先生の配置? 見ている子どもの後姿でわかります。

大きい絵、動く動作、カラー化に、TV化にならないように静的なものも

### Ⅲ クラブ活動

#### テーマ 「個性の伸長と連帯感の育成を図る指導のあり方」

1. まえがき .....	5 5
(1) 研究テーマについて .....	5 5
(2) 研究への取り組み .....	5 5
2. クラブ活動で育成される能力 .....	5 6
3. クラブ活動運営上の工夫 .....	5 7
4. クラブ活動への参加意識 .....	6 0
5. 特色あるクラブと問題点 .....	6 9
(1) バトンクラブ .....	6 9
(2) 料理クラブ .....	7 0
(3) 郷土クラブ .....	7 1
(4) 鉄道クラブ .....	7 2
(5) 柔道クラブ .....	7 3
(6) 野外活動クラブ .....	7 4
(7) テニボンクラブ .....	7 5
7. 研究の反省と今後の課題 .....	7 6

○ 研究の経過

55. 6. 10(火) 定期総会、分科会、組織づくり
55. 7. 4(金) 研究テーマの検討、研究の方向づけ
55. 9. 4(木) クラブ活動運営上の工夫について資料検討  
 ○時間のとり方 ○クラブ設置の方法 ○入部指導の方法等
55. 10. 13(月) クラブ活動への参加意識について資料検討  
 ○満足度 ○満足・不満足の要因等
55. 11. 18(火) 活動内容について資料検討  
 ○バトン ○金管 ○料理 ○郷土 ○鉄道等のクラブ
55. 12. 9(火) 特色あるクラブと問題点について資料検討  
 ○野外活動クラブ ○テニボンクラブ等
56. 1. 13(火) 研究集録原稿の内容の検討
56. 2. 19(木) 研究発表準備 (役割分担確認、発表内容検討、資料準備等)
56. 3. 5(木) 研究発表会

研究・執筆者名簿

部長	大谷 徹夫	渋谷・神宮前小	伴 貞男	豊島・椎名町小
副部長 (司会)	小野 真澄	葛飾・金町小	野崎 仁	大田・東糞谷小
" (司会)	瀬崎 耕一	立川・南富士見小	吉田 了	千代田・西神田小
(発表者)	後藤 治司	江戸川・七葛西小	鈴木 修	江戸川・三松江小
(発表者)	関口 照治	墨田・菊川小	小林千恵子	北・王子小
(記録)	権田 滋子	世田谷・桜小	菅野 信夫	江戸川・南篠崎小
(記録)	樋口 恵子	港・竹芝小	網 保夫	世田谷・松原小
	武山 陽子	千代田・永田町小	野口 アヤ	新宿・淀橋六小
	湯田 耕司	三鷹・井口小	根岸 文美	東村山・秋津東小
	中嶋美沙子	墨田・一寺島小	井田 益彦	板橋・前野小
	大溝 進	文京・駕町小	平島真理子	小平・小平十二小
	土屋 徳松	町田・忠生五小	金田 茂雄	荒川・大門小
	佐久間恵子	稲城・稲城五小		
	神戸 のぶ	練馬・下石神井小		

## 1. まえがき

### (1) 研究テーマについて

都のテーマ「豊かな人間性を育てる特別活動」―新教育課程に即した指導計画とその実践―を受けて、クラブ活動研究部では「個性の伸長と連帯感の育成を図る指導のあり方」をテーマに設定した。新教育課程完全実施の今年、各校では改訂の趣旨をふまえた指導の展開を期し、指導計画の立案、実践に取り組んでいる。

最近、児童の会話に「関係ない」とか「誰かがやるよ」などの投げやりな言葉が多いことに気づく。これには社会全体の利己的な風潮が大きく影響しているものと考えられる。望ましい人間形成は学校教育全般で図っていくものであるが、自主・自発性を土台にした特別活動はなかでも大きな役割を果たすものと思う。「ともに生き、ともに働く」という連帯感や実践力の育成は今日の教育の課題であり、望ましい人間形成を図る上で重要である。クラブ活動こそ個性や連帯感を育て上げるのにふさわしい教育活動だと考えた。

クラブ活動は4年生以上の同好の児童によって組織され、集団活動を通して個性の伸長を図るものである。さらにひとりひとりの個性の伸長を図るとともに望ましい人間関係やリーダーシップ、メンバーシップの育成をめざさなくてはならない。児童が満足感・充実感を味わうことのできる活動を展開させたい、今年度は、このような願いをもって昨年度作成した指導計画を土台にしながら各校の実践に検討を加えてきた。

### (2) 研究への取り組み

まず、学校裁量時間の活用に伴うクラブ活動運営方法の工夫事例を収集した。各学校で工夫がなされていても、その情報交換をする機会は極めて少ない。私たち都特活の研究は研究内容の深さと同時に、指導の望ましいあり方を多くの学校・教師に浸透させることも必要なことだと思う。そこで、クラブ設置、活動時間、活動場所等の実践事例に検討を加え紹介することにした。

つぎに、活動が真に児童のものになっているかという追求である。児童の考えが受け入れられず教師主体の授業展開になっているとか、リーダーの力不足でメンバーがまとまらない等の声も多い。費用がかかりすぎたり、校外での活動が多く危険を伴うなど活動内容の検討も必要である。そこで児童は所属するクラブにどのような意識を持っているかをとらえ、その要因を分析し望ましい活動への手だてを検討してきた。

これらの資料を各学校で活用していただくとともに、多くの実践事例を私たちのメンバーにぜひ提供していただきたい。



## 2 クラブ活動で育成される能力

学年や学級のわくをとり除かれた児童たちが、同じクラブの一員として認め合い、理解し合いながら、クラブ活動に参加していくことによって、次に掲げる能力が、育成されるものとわたしたちは、考えた。

ア. 各クラブやクラブ活動全体の計画、運営に関する話し合いができる。

- ① 自発的、自治的に組織づくりができる。
- ② 全員の協力によって所属するクラブを楽しみやすい集団として運営していくための話し合いができる。
- ③ 創意、くふうをして計画がたてられる。
- ④ 円滑な運営のために、仕事を分担していくことができる。
- ⑤ 実施する計画がたてられる。
- ⑥ 集団の中での自分の役割、義務、責任が自覚できる。
- ⑦ 集団の中で、自己の希望を生かすことができる。
- ⑧ 実践の反省（評価）ができる。

イ. 共通の興味、関心を追求していくことができる。

- ① 自発的、自治的に共通の興味、関心が追求できる。
- ② 知識や技能を伸ばしていくことができる。
- ③ 他の成員と協力できる。
- ④ 自己の希望を生かしながら、集団として興味、関心の追求ができる。
- ⑤ 創意、くふうをして活動できる。
- ⑥ 集団の中で自分の役割、義務、責任を果たすことができる。
- ⑦ 根気よくやりとげることができる。
- ⑧ 反省をもとに、実践するという態度ができる。（自己評価ができる）

ウ. クラブの実践を発表したり、学校行事や児童活動の諸活動に協力参加できる。

- ① 自発的、自治的に、発表や協力参加の計画がたてられ活動できる。
- ② 他の成員と協力して発表できる。
- ③ 効果的に発表できる。
- ④ 他のクラブ、委員会などへの連絡のための話し合いができる。

### 3. クラブ活動運営上の工夫

#### (1) 参加学年

昭和54年7月の調査における4年生のクラブ活動への参加は、85%程度であったが、今回の指導要領の改訂により、現在は100%の参加となっている。特に、大規模校(児童数1000人以上)では、参加人数の増加によって、施設の不足、担当教員の負担増、十分な活動ができないこと等の理由で、4年生参加に消極的な学校も見受けられたが、次のような運営上の工夫により4年生からのクラブの参加を実現した。

- ① クラブ担当教員を1クラブ1人とし、クラブの数を増やした。
- ② 希望が特に集中する運動系のクラブでは、クラブ長会議を頻繁に開いて充実させることにより、各クラブの活動について話し合った。その結果、活動場所を可能なかぎりいろいろな場所(例えば、屋上・学校近くの公共施設・廊下・体育館の舞台の上等)に求め、それらの活動場所をローテーション(輪番)させることによって機会均等をはかった。
- ③ 道具や活動場所をあまりとらないクラブを、児童教師も考えて増やした。

#### (2) 時間のとり方

新指導要領の柱である「充実した学校生活」を児童におくらせるための1つの大切な活動と考えられるクラブ活動をより充実させるためには、クラブ活動の時間を考えなければならない。将来は、授業時間と同じように40分や45分が多かったが、これを、50分ないし60分に延長し、内容豊かで充実したクラブが実施できるようにしたい。

また、従来よりも、10~20分活動時間を長くした上に、月4回以上の実施となると、今までは十分とれなかった「みんなで十分話し合ったり、みんなで決めたりする」ための時間が確保されるようになり、クラブ活動における連帯感の育成に役立っていると思われる。

その他に、クラブ活動の時間のとり方について特色ある学校の中から1~2校紹介したい。

- ① 1週間に2回クラブを実施している学校。1回は正規のクラブの時間で、もう1回は、学校裁量の時間を使い、1回は文化系のクラブを実施し、もう1回は運動系のクラブに参加させ、どちらのクラブも経験させることにより、クラブ活動を充実させ、個性の伸長を図ることをねらっている。しかし、実施にあたっては、教職員の特別活動(クラブ活動)への深い理解と協力が不可欠であろう。

②週2回、例えば、火曜日と木曜日にクラブ活動を実施し、どちらかの曜日に参加させる。

特に活動場所に困っている学校とか、一つのクラブ、例えばソフトボールクラブに希望者が殺倒した場合、ソフトボールクラブを火曜日と木曜日の2つのグループにおける。運動系のクラブも二つの曜日にうまく割りふれるので、運動系のクラブも増やすことができる。そのような工夫によって、児童の希望が生かされ、従来のようにイヤイヤ他のクラブへまわされたというようなことも解消されるので、活動にも活気があふれ意欲的に参加でき、楽しいクラブを実施することができるようになった。

曜日別にみても、今までは、月曜日の6校時とか水曜日の5校時などに実施している学校もあったが、これらの曜日は問題点（月曜日は振り替え休日などでつぶれることが多かったり、水曜日は、後に職員会議などを持つ学校が多くクラブ活動の時間の延長ができなかった等）も多く、他の曜日に変更した学校が多くあった。

クラブ活動の時間をできる限り多く確保するという事は、多彩な活動や話し合いの時間が保証される。このことこそ、児童の個性の伸長や連帯感を育成する基礎の一つになるといえる。

### (3) クラブ発表会

クラブ活動において、児童・クラブのお互いの活動を認め合い、1年間のクラブ活動のまとめとして、クラブ員同志の協力や所属感を高め、強いては、連帯感を持たせるためにも欠かすことのできないものである。

クラブ発表会というと、もちろん、そのクラブ全体としての活動が中心となるので、みんなで一つのこれをやってみせたり、共同作品にしたりして発表することが多いが、個人の活動も十分発表できるように工夫することが大切である。例えば、個人の活動の足跡がわかるようなクラブノートや個人の活動カードも展示し発表したい。

逆に、個人を強調するあまり、個人プレーや技能を見せつける発表に陥らないように気をつけたい。

クラブの活動の発表は、必ずしも、発表会の時ならず、むしろ、日常の学校教育活動のあらゆる機会を通して行うことが大切である。例えば、お昼の放送（VTRテレビ）で、集会・音楽会・学芸会・展覧会などの学校行事の中で、常時展示やクラブ機関誌等。

また、父母にも、クラブ発表会を参観してもらったり、PTA広報紙にクラブに関する特集を組んでももらったりすることも、機会があれば行いたい。

#### (4) クラブ内のグループや班の作り方

クラブ活動のねらいの自治性・自発性を育成するということから、連帯感を育成するということから、同一学年・同クラスのグループはできるだけさけたいものである。

各々の班やグループに、4～6年が技能をのり越えて一つのグループをつくってこそ4～6年生が一諸に活動しているという一体感も生まれてこよう。

#### (5) 担当者の決め方

担当者を決める場合、児童の所属決定以上に難かしい問題は、職員の担当希望が片寄ることが多いためである。特に、運動系クラブに担当希望が少なかったり、逆に、手芸や料理クラブに担当希望が集中してしまうことがある。

そのため、これらのことを円滑に解決する方法として次のようなことで共通理解をはかっておくといよい。

- ①クラブの担当は、例えば、3年毎に全員交代するように決めておく。
- ②どの先生が担当してもよいように、前年度の年間計画や活動のノートをしっかりファイルし保管しておき、1時間の活動をパターン化しておき、児童によく理解させておく。
- ③クラブとしての伝統をつくり、そのクラブの活動に精通している児童を多く育て、児童が自発的な活動ができるようにしておく。
- ④消極的な方法であるが、特活部の先生方には、希望の少ないクラブを担当してもらえるように事前に話し、了解をとっておく。
- ⑤担当希望者一覧表を作成し、担当希望者の多いクラブや担当希望者のいないクラブ等を提示し、該当の先生方を中心に納得のいくように話し合ってもらい、クラブ主任は、仲介者として、それらを調整する立場になるように制度化する。

#### (6) 予算

クラブ活動において、児童の自治的活動は最も育てたい能力である。自治活動の「自治」の裏づけとして、予算の問題は切り離せない。クラブの活動予算は各学校まちまちであろうが、その都度、予算を請求するというのではなく、少額でもよいので、児童が自分たちの自由に使える予算を年度初めに計上し、保証してあげたい。それによって、児童自ら、話し合い、活動を考えていくようになるであろう。しかし、児童に任かせる予算とはいえ、必要に応じて、担当教員の適切な助言を忘れてはならないと思う。

#### 4. クラブ活動への参加意識 - S区K校の調査から -

##### (1) 調査の目的

この調査は、児童が入部しているクラブへどのような気持ちで参加してきたか。クラブ活動を始めてから半年近く立っている9月には、満足しているのかどうか。来年はどんなクラブに所属したいのかを調べ、今後の指導の一助としたいと考えて行った。

##### (2) 調査結果

調査数は、調査時点での欠席者や未提出者を除いたため在籍児童数より若干少なくなっている。

調査数	6年 97名	5年 96名	4年 93名
-----	--------	--------	--------

##### ア. どんな考えで今のクラブに入ったか。

児童がどんな考えで今のクラブに入ったかどうかということを、項目を決めないで自由に記入させた。それを①すき、②おもしろそう ③ためになる ④友達 ⑤教えられ ⑥その他に分類してみた。分類の項目のなかには、つぎのものが含まれる。

- ① すき(すき、得意、趣味、楽しかったので、やりたかった、前にやってきた)
- ② おもしろそう(楽しそう、興味がある、おもしろそうだ)
- ③ ためになる(体にいい、いろんなことがわかる、勉強してみたい、勉強以外にできる)
- ④ 友達(友だちとやりたい、友だちにすすめられて)
- ⑤ 教えられ(兄や姉が入っていた、中学生と約束、母が言った)
- ⑥ その他(なんとなく、別にない、まだ入ったことがないから、記入なし)

クラブに入った理由	6年(人)	5年(人)	4年(人)	6年%	5年%	4年%
①すき	40	46	47	41	48	51
②おもしろそう	31	35	22	32	36	24
③ためになる	5	9	14	5	9	15
④友達	4	0	1	4	0	1
⑤教えられ	2	2	4	2	2	4
⑥その他	15	5	5	16	5	5

※資料1

##### イ. 入ったクラブに満足しているか

4月にクラブに入ってから活動してきて、9月には満足しているのか、不満なのだろうか、調査項目は、満足、ふつう(満足のとき不満のときがある)、不満に分けた。この3項目について調べたものが、つぎの満足度調査である。

満 足 度

クラブ名	人数	6年	5年	4年	満足 %	普通 %	不満 %	来年同クラブ 希望 %
バトミントン	25	25	0	0	32	64	4	28
卓球	16	9	7	0	69	25	6	44
バスケット	13	7	6	0	77	23	0	46
フォークダンス	6	5	0	1	17	83	0	0
体育	13	2	7	4	46	54	0	15
いご・しょうぎ	15	10	2	3	66	27	7	33
まん画	25	7	10	8	60	32	4	16
やきもの	41	16	20	5	64	29	7	24
演劇	18	4	2	12	39	50	11	11
科学	24	3	9	12	79	21	0	50
郷土	9	3	1	5	56	44	0	33
音楽	14	3	4	7	57	43	0	21
造形	4	1	2	1	75	25	0	50
児童文化	38	2	13	23	53	47	0	29
料理	15	0	11	4	67	20	13	13
手芸	10	0	2	8	70	30	0	0

ウ. 入っているクラブの満足、不満の理由

児童が入っているクラブのどんなことに満足であり、不満であるか、その理由を自由に記入させたものが、つぎの表のとおりである。紙面の都合で全児童分の記入ができなので一部省略した。

入っているクラブの満足、不満の理由 ※資料3-1

手	満	5年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今までやったことのないようなものを作ったりするから</li> <li>・やりたいことをやるから</li> </ul>
	足	4年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・できなかったものができるようになったから</li> <li>・ぬいものを教えてもらえるから</li> <li>・すきで入ったから</li> <li>・ぬいぐるみをたくさん作るから</li> <li>・みんなとなかよく物をつくることができるから</li> </ul>
芸	普	4年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・やなときがあるから(3)</li> </ul>

		6年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4・5・6年みんなで実験するから</li> <li>・校内だけでなく博物館もみられる</li> <li>・おもしろい実験をいっぱいやるから</li> </ul>
科	満	5年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いろいろな物を作るから(2)</li> <li>・いろいろ道具を使うから</li> <li>・アイスクャンディーや電じしゃくを作るから</li> <li>・知らない実験ができたり、好きな実験がある</li> <li>・自分の好きなことができる</li> </ul>
学	足	4年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・やることがおもしろい(2)</li> <li>・実験したりするから</li> <li>・いろいろなものを作って楽しい</li> <li>・いろいろおもしろいことをしてくれる</li> <li>・自分がすきで入ったから</li> <li>・いろいろなことがあって楽しい</li> <li>・いろいろなことがおぼえられる</li> <li>・つぎつぎにじしゃくやせっけんを作るから</li> </ul>
	ふ	5年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・おもしろい時とおもしろくない時</li> <li>・担当の先生がほめたり、おこったりする</li> <li>・たまに先生がこなくて図書室で本を読むことがあるから</li> </ul>
	う	4年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・好きな実験、きれいな実験があるから(2)</li> </ul>
バ	満	6年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・たくさんできる</li> <li>・楽しい</li> <li>・おもしろい</li> <li>・いろいろルールがわかる</li> </ul>
ス	足	5年	<ul style="list-style-type: none"> <li>おもしろい(4)</li> <li>・楽しい</li> <li>・6年生と共同でやれるから</li> </ul>
ッ	普	6年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フォークダンスをやる時いや(2)</li> <li>・楽しいときとなんとなくいやなとき</li> </ul>
ト	通	年	
	満	6年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・おもしろい(2)</li> <li>・やり続けておもしろい</li> <li>・思いどおりやれる</li> <li>・楽しくやれる</li> </ul>
卓	足	5年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・試合ができるから(2)</li> <li>・いつもできるから</li> <li>・みんなの世話ができる</li> <li>・対抗試合、基本、自由練習ができる</li> <li>・試合に勝って負けたことがない</li> </ul>
	ふ	6年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先生がおもしろくない</li> <li>・自由にやらせないときがある</li> <li>・台を出すのに時間がかかりすぎてあまりできない</li> </ul>
球	う	5年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仕度をするのはいや、やるのはすき</li> </ul>
	不	6年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・だれかさんがむかつく</li> </ul>
	満	年	
児	満	5年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・楽しい、おもしろい(5)</li> <li>・いろいろな遊びができるから</li> </ul>
童	足	4年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・おもしろい(8)(ドッチボール、あかたんなど)</li> <li>・いろいろやるから</li> <li>・遊びをやるから(2)</li> <li>・発明したものがあるから</li> </ul>

文	ふ	6	・いいことをやったりやなことをやったりする ・記入なし
		5	・おもしろいときとおもしろくないとき(4) ・やりたくないものがあった
化	う	年	・遊びのルールがわからないとき ・やりたいものとやりたくないもの
		4	・きれいなものをやる(4)(めっちゃぶつけなど) ・しけいがあるから
造	足	5	・先生がやさしくて、やりたいことがちゃんとできる ・記入なし
		4	・ひこう機を自分で作ることができたから
形	普通	年	・作っているとき先生がここはこうした方がいいと教えてくれるとき
体	足	5	・マット運動をしてうまくなっている ・水泳ができた ・好きな運動がやれるから ・うまくマット運動ができるようになって楽しい
		4	・とても楽しい ・先生が悪いところいいところをアドバイスしてくれる
育	う	6	・プールは満足、マットばかりでいや ・思っていることなし
		5	・ポートボールは楽しいが走るの得意 ・マット運動のとき不満 ・他は楽しいがフォークダンスがつまらない
フ	足	年	・いい時と悪い時がある ・男子がうるさいが、6年生がやさしい
		6	・いろいろ教えてもらえる
ク	普通	年	・人数が少なくて出来ないものがある(3) ・楽しいときとつまらないとき
		4	・だんだんあきてきた
音	満	6	・指揮がやれなくても、好きな楽器ができるから ・部員がまじめにやってくれるから
		5	・部長がおもしろいし、みんな楽しい ・楽しくて満足 ・上の学年の人が親切にしてくれて楽しい
足	年	4	・好きなことをみんなで一生懸命やれるから ・おぼえたことをお母さんにきかせたい ・うまくいくから
		6	・校歌をひくとき、まちがえたり、わからなくなるから
楽	つ	5	・ぜんぜん楽器をひかないとき ・わからないとき ・時々同じ楽器になるから
		年	・校歌を運動会でやったり、いろいろな楽器が使えてよい



い ご ・ し よ つ う ぎ	満 年	6	・おもしろい(4) ・やったことのない人もやることができた ・きちん としていけるから
		5	・いろいろな人としょうぎができる ・いい人ばかりいるから
	足	4	・みんなが楽しいから ・しょうぎが強いから
		6	・やっている時じゃまする人がある ・やりたいときがあるから
ふ つ う	年	6	・やっても道具をとられるから
		4	・とちゅうで時間がきてしまうから
郷 土 う	満 年	6	・つまらない
		4	・いろんなところへ見学に行くから(3) ・楽しい ・わからない
料	足	6	・調べるときさわりだりする ・みんな静かにやってくれるときはいいが うるさくて何もきいてくれない ・4、5年がうるさくする
		5	・まだ友だちができない
		5	・だんだんじょうずになってきた(2) ・みんなで楽しく仲良くできた ・いろいろ教えてくれた ・みんなで言うことをきいているから ・クラブの人がいっぱいいて気やすく話せるから ・自分で作りたいもの が作れるから
理	普通	4	・いろいろな料理がわかる(2) ・作ったものを食べながらいろいろ話をす るとき
		5	・料理は好きだけど見学したい ・どうやっていいかわからない
		4	・材料を忘れそうだから
バ ト ミ ン ト ン	満 足	5	・おもしろくない ・時間がたってしまうこと
		6	・おもしろい ・いつも練習できるから ・楽しくうまくできるから ・なんでも平等だから ・自由にできる ・記入なし
	ふ つ う	6	・1時間しかない(2) ・羽根がなくてできないとき(2) ・体育着を忘れ るとやらしてくれない(2) ・講堂はいいが公園は風があ ・いっしょ にやる人がいないとき ・あまり試合もなく、場所もない <以下略>

エ. 来年はどんなクラブに入りたいか

9月現在で来年度のことを調べることに問題があるが、入っているクラブについて児童の考えを知るために必要なものとする。6年生は中学校での問題となるので、S校のクラブ名の他12もあげている。

児童が、来年度どんなクラブに入りたいかその理由を①すき、②おもしろそう、③ためになる、④友達、⑤教えられて、⑥その他にまとめてみた。その中につきのようなものを入れておいた。

- ① すき (得意、実験や作りたい、おもしろい、一番いい、やりたい、楽しかった)
- ② おもしろそう (興味がある、楽しそう、おもしろそう)
- ③ ためになる (うまくなりた、プロになりたい、運動健康のため、やせたい、勉強)
- ④ 友達 (友達と約束して、友達にすすめられて、友達が楽しそうだから)
- ⑤ 教えられて (父とやってよかったから、兄がやっている、中学生にすすめられ)
- ⑥ その他 (なんとなく、別がない、記入なし)

クラブに入りたい理由	6年 (人)	5年 (人)	4年 (人)	6年 %	5年 %	4年 %
① すき	37	45	51	38	47	55
② おもしろそう	16	23	21	17	24	23
③ ためになる	16	17	19	17	18	20
④ 友達	2	2	1	2	2	1
⑤ 教えられて	4	2	0	4	2	0
⑥ その他	22	7	1	23	7	1

※資料4

現在のクラブ員数と来年希望数 (6年の51名が他クラブ希望や記入がない)

クラブ名	現部員数	来年希望	クラブ名	現部員数	来年希望
バトミントン	25	39	演劇	18	2
卓球	16	11	科学	24	30
バスケット	13	19	郷土	9	8
フォークダンス	6	2	音楽	14	4
体操	13	10	造形	4	2
いご・しょうぎ	15	14	児童文化	38	25
まん画	25	10	料理	15	28
やきもの	41	17	手芸	10	0

※資料5

来年希望数は現部員数より65名少ない。

ア. 児童が入部するとき、6年生より入部希望を決めていくため、4年5年で希望どおり入れない部がある。それは、指導者の問題や場所の制約などでやむを得ない規制であろう。教師が入部指導をするとき、どんな方針をもってのぞんでいるかと言うと、つぎのとおり

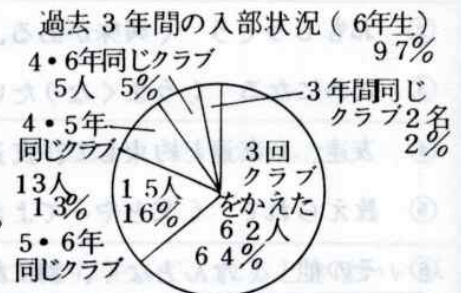
	6年	5年	4年
いろいろなクラブを経験した方がよい	1	1	0
子どもの自由意思にまかせる	2	2	3

である。  
資料1と4を見ても児童が教師に言われて入った者が

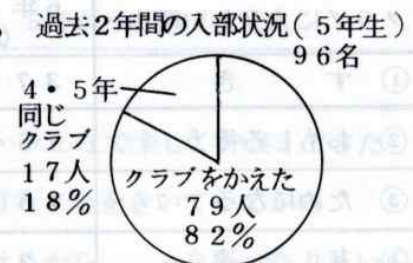
いないことは、指導に強制がなかったと言える。「すき」「おもしろそう」が理由の大半を占めている。その他、兄や姉が入っていた、友達にさそわれ、役に立つなどを理由にあげている。

このことから、今後も児童の自由意思で入部できるよう努力していかなければならないことを痛感した。

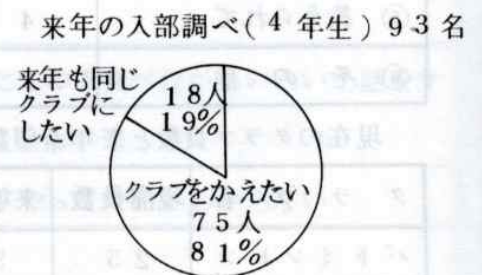
イ. 入部状況、6年生の児童で3回クラブをかえた者が64%で、2回同じクラブだった者は34%あった。3年間同じクラブだった者は、2名で大変少ない。



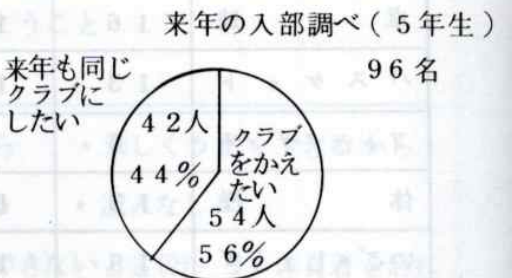
5年生では、クラブをかえた者は82%で、他は同じクラブであった。4年生ではすきなクラブを制限されてきたので、運動関係のクラブには、5、6年生が多いのである。



ウ. 来年の入部希望、資料2をみると、バトミントンは6年生のみ、卓球、バスケットでは、4年生の入部を認めていない。その他人数の多いクラブは、4年生の入部を制限してきた。そのため来年度の入

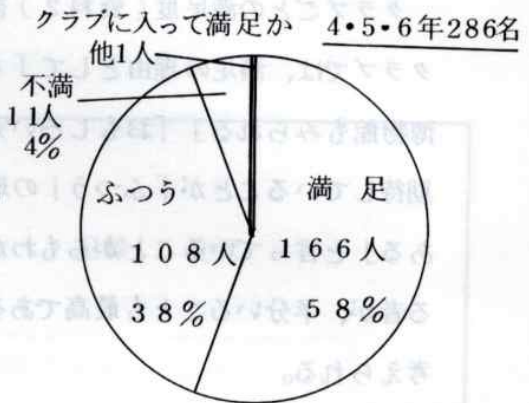


部希望者の集計では、現4年でクラブをかえたいとする者が81%あるが、現5年はクラブをかえたいとする者が56%と低い。このことから、4年生では入部に際して満足していない者が多くいたものとおもわれる。また、5年生では、現在のクラブに満足して来年も同じクラブにしたいと考えている者が多い。

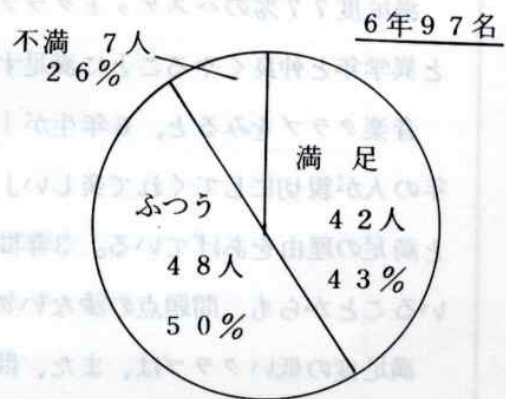


(資料4、5参照)

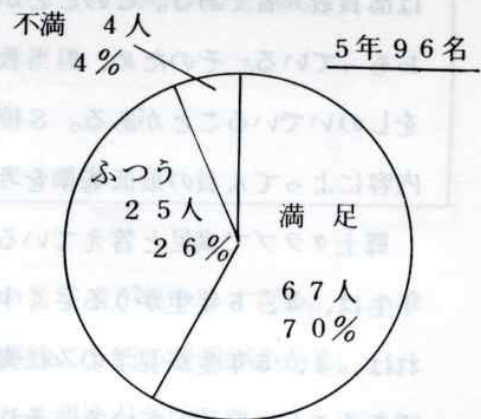
エ. 満足度 (資料2) 4年から6年までの児童286名に、入っているクラブについて「満足」「ふつう」「不満」のいずれかをきいてみた。全体では、満足58%、ふつう(満足のときと不満のときがある)38%、不満4%であった。



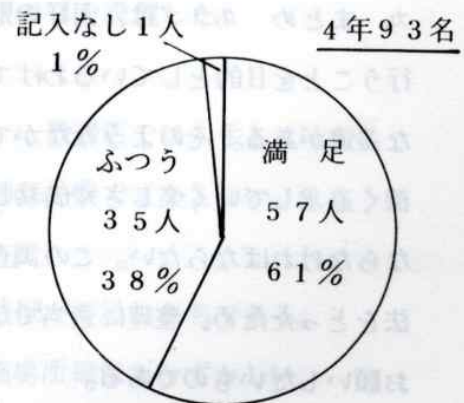
学年別では、満足度の最低は6年で43%、最高は5年の70%である。これは6年生になると、低学年が負担となって、自分の力を精一杯発揮できないことをあげていることが目立った。また、部長、副部长と責任ある立場にたたされて、自由に楽しむことがむずかしくなっていることも原因の一つだと考えられる。



一方、5年生では、4年生の時入れなかったクラブに入ることができ、上級生に言われるまま動いてきたことから開放され、自由に楽しみながらみんなとやれることが「とてもおもしろい」と表現している者が多い。



4年生では、初めてクラブに入って、いろいろと興味をひくことに満足している。そのため、希望どおりのクラブでなくても、入ったクラブの良さを十分味わって満足度も61%になっている。



不満の原因を調べてみると、1時間(45分)では短かすぎるとあげている者がかなりみられる。週1時間のほか、ゆとりの時間なども活用していく必要があると考えられる。また、友人関係がうまくいなくて「だれかさんがむかつく」と言っている者がいることは、仲良く助け合える状態に早くしてあげねばならない。その他、教師についても、指導に問題があることなどもみられる。一考を要する。

オ. クラスごとの満足度 (資料3の1~3の4)

クラブごとの満足度(資料2)を見ると17%~79%と幅がある。満足度最高の科学クラブでは、満足の理由として「4、5、6年みんなで実験するから」「校内だけでなく博物館もみられる」「おもしろい実験をいっぱいやる」などをあげている。また、実験を期待していることが「ふつう」の理由で「たまに先生がこなくて図書室で本を読むことがある」と言っていることからわかる。また、来年度も同じクラブでやりたいと考えている者が、半分いることも最高である。このことから、科学クラブが好ましい状態であると考えられる。

満足度77%のバスケットクラブでも「6年生と共同でやれるから楽しい、おもしろい」と異学年と仲良くやることに満足する要因があるようにおもわれる。

音楽クラブをみると、6年生が「部員がまじめにやってくれるから」5年生で「上の学年の人が親切にしてくれて楽しい」4年生は「好きなことをみんなで一生懸命やれるから」と満足の理由をあげている。3年間同じクラブと言っている2名は音楽クラブに所属していることから、問題点の少ないクラブと言っても過言ではないとおもう。

満足度の低いクラブは、また、問題の多いクラブとも言える。フォークダンスクラブでは部員数6名である。このことから人数が足りなくて出来ないダンスがあることを不満におもっている。そのため、担当教師は自分の担任する3年の児童をときには入れて、急場をしのいでいることがある。S校では、クラブの最低人員を5名としているが、クラブの内容によって人員の最低基準を考慮しないと問題が起きると考えられる。

郷土クラブで満足と答えている者は、4年全員であるが、5年生は友達が作れない。6年生は、4、5年生がうるさくするので満身に調査することができないと言っている。これは、4、5年生が見学のみに興味を示し、見学に必要な調査や見学後のまとめに無関心であることに原因している。それは、児童の能力差が大きく左右しているためである。

カ. まとめ クラブは、同好の児童をもって組織し、共通の興味や関心を追求する活動を行うことを目的としているわけであるが、諸条件に不備の面があり、興味や関心にも大きな差違がある。そのようななかで、児童の自発的、自治的な活動をとおして、ものごとを深く追求していく楽しさや成功したときの満足感を得られるよう教師としてよい助言者にならなければならない。この調査が児童の自主的、自発的な声をのせるため、自由記入方法をとったため、整理に適当でない面があると思われる。そのときは、ご指摘、ご批判をお願いしたいものである。

## 5. 特色あるクラブと問題点

### (1) バトンクラブ

#### ①実施計画

#### <バトン>クラブ 実施計画

1. 日 時 6月12日木曜6校時

2. 場 所 <屋 上>

3. 出 席 総員50名 欠席0名 出席50名

4. 指導者 (権田)(広瀬)(多家)先生

5. この時間の活動の流れ

- ・ 出欠をとりあいさつをする
- ・ マーチング練習 (正歩・ツーステップ・ホップ等)
- ・ 回しの復習をする (前面・8の字・逆8の字・水平・輪)
- ・ 指回しとストラット (身体表現) を先生から習う
- ・ 音楽に合わせて身体表現に回しを入れて32呼間か64呼間の作品を創る
- ・ 反省する

6. この次の活動予定

- ・ 回しの復習をして「三百六十五歩のマーチ」創作にかかる

#### ②問題点

- TVなどで華やかな活躍を見聞するので、児童の希望者が集中しすぎる。
- バトンを個人負担で購入し、個人持ちとしたいが約二千円の費用がかかる。
- 指導担当の希望者がなく、割当てられた人があたる場合が多い。
- 特殊な技術ではあるが、児童の希望を生かしてクラブを設置した。
- 指導者が講習を受けたが、時間や費用もかかる。
- バトントアラーに関する参考書がごくわずかで、一般書店では入手しにくい。
- VTR等が出ているが、高価で学校備品または消耗品費でまかえない。
- リーダー養成に2～3年を要する。
- 学校行事等に出演する機会が多くなり、クラブ時間が不足しがちである。
- 運動クラブが体育館・校庭を使用し、適当な実施場所確保がむずかしい。

(2) 料理クラブ

①実施計画

1. 日時 12月2日 火曜 6校時

2. 場所 家庭科室

3. 出席 40名

4. 指導者 2名

5. この時間の活動の流れ

<p>こん立 かわり卵焼きと紅茶</p> <p>身仕度をして、材料を出す。</p> <p>グループ毎に、準備室から、食器、調味料等を持ってくる。</p> <p>先生から、料理の手順と、注意を聞く。</p>	10分
<p>卵をわりかきまぜる。</p> <p>中に入れるぐをまぜる。(グリピースーユーン)</p> <p>自分の好みに合わせてぐを入れ、卵と調味料をまぜる。</p> <p>フライパンに油をひき、あたためる。</p> <p>一人一人、卵を焼き、皿にのせる。</p> <p>手のあいている者が、紅茶の湯をポットに入れ、カップを用意する。</p>	25分
<p>全員そろったら、身仕度はずし、紅茶を入れ、卵焼を試食する。</p>	15分
<p>身仕度をして、後かたづけをする。</p>	10分
<p>材料費 1人 約120円</p>	計 60分

6. この次の活動予定

反省をまとめ、次の料理のこん立、材料分担等を決める。

②問題点

- 材料費がかかる。(調味料は、学校負担)
- 料理に時間がかかるので、1単位時間45分では、できないことが多い。
- 危険がともなうので、担当が、最低2名は、いる。人数も制限する必要がある。
- 家庭科専科がいないところでは、用具の用意が大変。
- 大変なので、担当の希望者がいない。(家庭科専科もいやがる)
- 4年から6年まででは、能力差が大きい。
- 希望者が女子にかたよる。

(3) 郷土クラブ

①実施計画

郷土クラブ実施計画

記録 井上直子

1. 日時 11月13日 6校時～
2. 場所 皇居周辺
3. 出席 総員12名 欠席 1名 出席11名
4. 指導者 高橋公一 田中尚子
5. この時間の活動の流れ

活動の流れ	教師の助言
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 集合、出欠をとる。</li> <li>○ 本時の計画を確認する。</li> <li>○ 先生のお話を聞く。</li> <li>○ 学校出発(14:30)——菊川駅(地下鉄)——九段下駅——北の丸公園——千鳥ヶ淵——半蔵門——桜田門——二重橋——東京駅——錦糸町駅——学校着 (17:15)</li> <li>○ 下校の安全を確認し解散</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 安全と、見学のポイントを確認</li> <li>○ 北の丸公園の昔と今の様子の説明</li> <li>○ 皇居周辺の説明               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ イギリス大使館</li> <li>・ 国立劇場</li> <li>・ 国会議事堂</li> <li>・ 警視庁</li> <li>・ 桜田門</li> </ul> </li> <li>○ 計画により今後2時間を使って皇居や皇居周辺の様子を資料で調べる。</li> </ul>

②問題点

S区K校の郷土クラブの実践事例である。郷土クラブは多くの学校に設置されていて、校外で活動する機会が比較的多い。この場合、学校行事や教科の指導で校外に出る時と同様見学実施報告を区(市)指導室に提出し、許可を得るようにする。この他、実施する場合考慮する事項としてつぎの点が挙げられる。

- 児童の心身の負担が過重にならないようにする。
- 危険個所に十分注意する。
- 児童の金銭的負担が過重にならないようにする。
- 引卒者を2名以上つける。
- 勤務時間外の見学、日曜、休日の見学は好ましくないが、必要な場合には学校長と相談し無理のない計画を立案する。

校外での活動はなによりも安全への配慮が大切である。



#### (4) 鉄道クラブ

##### ①実施計画

11月7日 金曜 5校時	
1. 場所	3年1組 教室
2. 今日の係	司会(クラブ長) 記録(佐々木)
3. 指導者	広野先生
4. 出欠	出席 9名 欠席者 (なし)
5. この時間の活動	
○はじめのあいさつ (クラブ長の号令)	
○出欠をとる (記録係)	
○今日の活動の予定を発表する (班長)	
○班毎にレイアウト作りをする	
ひたち班	・高架橋のつき具合を点検する
はやぶさ班	・ダンボールで畑を作る
	・ポンドで農家・木をつける
	・ポンドで野原をつける
	・ポンドで道をつける
	・電車を走らせる
	・後片づけをする
	・後片づけをする
○反省する	
○活動をノートに記録する (記録係)	
○おわりのあいさつ (副クラブ長の号令)	

##### ②問題点

- 鉄道クラブは、費用のかかるのが最大の問題点である。電車はモーター付きは安いもので1900円するし、レールも購入しなくてはならない。児童が満足するだけのものを学校として準備するには、数年に分けて行う必要がある。このクラブの今後の存続との関連上からはそれだけの費用を支出するのも一考を要する問題である。
- レイアウト作りは、グループでの活動にふさわしいものであるが、これもレイアウト用の模型(家・駅舎・樹木等)やシーナリーパウダー(風景作り用の着色した粉)等が市販されているので、児童はこれを安易に使いたがる。手作りのレイアウトにするよう計画段階で十分に指導する必要がある。
- レイアウト作りの板(ベニヤ1枚大)の保管上からは、普通教室でなくできれば空き教室や保管できる場所に近い教室を使用するようにしたい。

(5) 柔道クラブ

①実施計画

1. 日 時 12月5日(金) 2. 場 所 屋 上  
 3. 出 席 総員14名 4. 指導者 大溝 進  
 5. 本時の流れ

全 体 の 活 動	リーダーの活動	教師の助言
1. 準 備 全員	昼休みに畳を敷かせる。	
2. あいさつ		練習前の心得を話す。
3. 準備運動	号令をかける。	補助をする。
4. 受け身 後ろ受け身 10回 横受け身 10回 前受け身 5回 前方回転 10回	号令をかける。	手の置き方や体の回転 など注意してまわる。
5. 寝技練習	時間を決めさせる。	固め技の助言
6. 立ち技練習 ・打ちこみ ・乱取り 2分間×3	時間を知らせる。	手の引きつけ 体さばきの助言
7. 試 合 3分間×6		審判と安全性の確認
8. 反省、あいさつ	今日の反省をさせる。	
9. 後片付け 全員		

②問題点

- 柔道は、他の運動クラブに比べると危険性が高いため児童がすべての面で中心になって活動することは大変難しいことである。そして、一つ一つの技を覚えるまでには、指導者の適切な助言が必要となってくることから、教師側からの指導がどうしても多くなりがちである。本校の柔道クラブは発足して今年で2年になるが、昨年に引き続き活動している児童が7名いる。その子たちは受け身や技などもかなり上達してきているので来年度は、現在よりも児童が中心に活動できるのではないかと期待している。
- 練習の場所においては、屋上で実施しているが下が固いため充分とはいえない。

(6) 野外活動クラブ

①実施計画

90分授業時と、夏季実習時における活動内容の比較と問題点

<p>(ア)通常のクラブ活動時における活動例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学校周辺におけるオリエンテーリング</li> </ul> <p>ねらい 5～6名のグループでの徒歩オリエンテーリングを通して、地図の読み、歩測、シルバーコンパスの使用法といった技能の向上を図るとともに、協力して活動することの大切さを知らせる。</p> <p>導入・地図の読み、歩測、シルバーコンパス(20分)の使用法を指導する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学年、男女を配慮したグループを編成する。</li> <li>・諸注意の確認とリーダーの選出。</li> </ul> <p>展開・2分間隔でスタートする。</p> <p>(35分)・ポイントは10ヶ所程度にして、15分で帰校できるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中間のポイントに指導者が立つ。</li> </ul> <p>終末・協力してできたかをグループ毎に評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・次回の課題を確かめる。</li> </ul> <p>問題点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の安全面を考慮すると2名の指導者で全体を把握することが困難である。</li> <li>・事前に諸準備をしておかないと時間が不足するおそれがある。</li> </ul> <p>(その他の活動内要)ソング・ダンス・ゲーム等を組み合わせ活動をしている。</p>	<p>(イ)夏季実習活動の時間</p> <p>ねらい 万人のスポーツといわれるオリエンテーリングに親しみ、楽しく体力づくりをするとともに、日頃の活動の成果を現地にて実習する。</p> <p>場所 高尾山パーマネントコース(徒歩OL)</p> <p>行程 8月9日(土)</p> <p>午前7時15分 校庭集合</p> <p>午後3時45分 校庭解散</p> <p>学校<sup>バス</sup>→調布<sup>電車</sup>→京王八王子<sup>バス</sup>→日影</p> <p>徒歩→高尾山頂(昼食)→日影→(逆行程)</p> <p>コース 約10km</p> <p>※8月7日(木)3時30分～4時まで学校にて説明会をする。</p> <p>費用 600円</p> <p>参加者 野外活動クラブ員 30名</p> <p>指導者 教諭 坂本邦一 公認指導者</p> <p>公認指導者</p> <p>保護者 6名(有志)</p> <p>以上の内容を保護者あてに通知し、申し込み書を添えて提出させる。</p> <p>問題点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市教委の許可がなかなか得られない。</li> <li>・安全の確保を図るため事前の調査がとくに大切だと考える。</li> <li>・学校や保護者の協力が得られるようにする。</li> <li>・天候に大いに左右される。</li> </ul>
--	---

(7) テニポン

① 実施計画

- ねらい
- ・ テニポンの基礎練習とゲームを通して、技能の向上をはかる。
  - ・ リーダーを中心としたチームワークを育てる。

日時 12月11日（木） 6校時

クラブ員 14名 場所 校庭

活動内容

- ・ 用具の準備

ネット2、ラケット8、ボール6

- ・ 準備体操

校庭ランニング、体操

- ・ 基礎練習

グループに分かれて、ネットを使わず打ち合う

- ・ ゲーム

男女・学年の混成グループ対抗で行う。

ゲームは卓球のルールに合わせて、得点は15点とし、サーブは5本ずつ行う。

- ・ 整理体操

次時予告

- ・ 期日、練習内容の連絡

② 問題点

- 校庭の狭い学校や広いフローアや空教室のある学校で設置されているクラブである。場所の広さにもよるが運動量が少ない事や動きが単純なことから、児童の興味は低い。
- 屋外で行う場合、運動量の関係からいっても、冬は寒く適さない。またネットやボールやボールが風でとばされたりする危険がある。
- 本校でも、2年前に入部希望者がいないことから一度廃部になったが、クラブ数を増やす関係で再び設置された。
- 屋内で、しかも広い場所を使用できれば、練習方法・ゲーム等にくふうができ、楽しいクラブになるであろう。

## 6. 研究の反省と今後の課題

今年度は「個性の伸長と連帯感の育成を図る指導のあり方」をテーマに研究に取り組んできた。昨年度私たちは新教育課程実施にむけてクラブ活動指導計画資料を作成したが、今年度はこの指導計画を活用し実践していく段階である。クラブ活動では児童の自主的な活動のなかで個性の伸長や連帯感の育成が図られなくてはならない。4年生参加が100%になり、学校裁量時間の活用方法に工夫がなされている今日、クラブ活動の運営や活動内容についての研究課題は多い。

今年度の研究内容をまとめるとつぎの通りである。

### (1) クラブ活動運営上の工夫

ここでは参加学年、活動時間、クラブ設置、入部指導等多くの研究課題があるが、今年度一番注目していきたいのは活動時間である。昨年の指導計画で週一単位時間の確保を強調したが、今年度は週一単位時間は当然のこととなり、さらに工夫が積み重ねられている。クラブ活動の時間延長を図っている学校、週2単位時間実施している学校、一単位時間を文化系、もう一単位時間を運動系のクラブに参加させる学校、週二単位時間実施し、一単位時間参加させ一単位時間を個人研究の時間に当てている学校等がその例である。この実践事例は前述の「クラブ活動運営上の工夫」を参考にしていきたい。

曜日別にみても、従来は水曜日5校時とか月曜日6校時が多かった。今年は水曜日以外の5校時を活用し6校時を学校裁量時間にあてている学校がめだつ。このように活動時間数を増やすことはできたが、多くなったことを理由にカットもされやすいという悩みも出された。

### (2) 児童の参加意識と活動内容

児童がクラブ活動にどのような意識を持っているのかをとらえ、喜んで参加するための要因、喜ばれない要因をさぐってきた。どの学年でも多くの児童が喜んで参加しているが、なかには「つまらない」と返答した児童もいる。その理由の中に「教師がきびしすぎる」とか「自分たちの考えを受け入れてくれない」等もみられ教師の指導姿勢が指摘されている。

また、重視すべきものとして6年生の意識の中に「力をフルに発揮したい」が強かった。4・5年生の程度に合わせて力を落して活動することが多いためであると考えられる。実施計画立案時に教師が配慮していかななくてはならない点であろう。連帯感や指導力の育成と同時に力を極限まで発揮させる指導法の研究は今後の課題である。

各学校においてはクラブ活動と教科指導のちがいをすべての教師が明確におさえて指導にあたれるよう工夫をしていかななくてはならないと思う。

## Ⅳ 学級指導

### テーマ「実践的態度を育てる学級指導の指導計画のあり方」

1. まえがき .....	79
(1) 研究主題について .....	79
(2) 研究への取り組み .....	79
2. 学級指導の指導計画 .....	80
(1) 学級指導の目標 .....	80
(2) 学級指導の指導内容 .....	80
(3) 学級指導の時間設定 .....	81
(4) 指導内容精選の観点 .....	81
3. 各学年の年間主題一覧表(例) .....	82
4. 適応に関する指導の指導計画…(一部) .....	86
(1) 第1学年 .....	86
(2) 第2学年 .....	88
(3) 第3学年 .....	90
(4) 第4学年 .....	92
(5) 第5学年 .....	94
(6) 第6学年 .....	96
5. 研究の反省と今後の課題 .....	98

#### 〈学級指導コーナー〉

1. 適応に関する指導の指導内容 .....	87
2. 学級指導は、教育課程に位置づけられた授業である .....	89
3. 基本的な指導の流れ・効果的な資料の活用例 .....	91
4. 学級指導と道徳の時間の指導との対比 .....	95
5. 適応指導とは .....	97

○ 研究の経過

- 5 5. 6. 1 0 (火) 定期総会、部会、組織づくり、研究の進め方
- 5 5. 7. 4 (金) 研究主題の検討、学級指導で育てる豊かな人間性について  
(講師 指導助言)
- 5 5. 9. 2 2 (月) 指導計画作成の基本的な考え方 (講師 指導助言)
- 5 5. 1 0. 3 1 (金) 指導内容の精選、時間設定の工夫
- 5 5. 1 1. 1 7 (月) 指導項目別に1年～6年の内容の検討
- 5 5. 1 2. 1 1 (木) 適応に関する指導の内容の検討、各学年の指導時間
- 5 6. 1. 1 9 (月) 各学年の年間主題一覧表の作成、研究集録の内容の検討
- 5 6. 1. 2 7 (火) 研究のまとめ、研究集録の原稿の検討
- 5 6. 2. 1 6 (月) 研究発表の準備、役割分担、発表内容の検討

研究・執筆者名簿

部長	安岡 正凱	練馬・光和小	橋本 肇	豊島・仰高小
副部長	水野 稔	立川・大山小	矢部 憲司	荒川・第二峡田小
(発表者)	鈴木 和子	港・白金小	小須田 修	荒川・尾久宮前小
(司会)	森山 裕夫	三鷹・井口小	吉野 信子	板橋・板橋八小
	中島 孝	千代田・神田小	田中 豊一	板橋・志村坂下小
	高梨 寿一	中央・月島一小	桜井 悦子	練馬・大泉南小
(発表者)	重松 誠	港・高輪台小	広瀬 信彦	足立・柳原小
	小池 宏	新宿・西戸山小	飯田 良一	葛飾・葛飾小
	富田 嘉子	新宿・東戸山小	(記録) 鈴木 恭子	江戸川・上小岩小
(司会)	増山 和子	文京・昭和 <small>小</small>	粕谷 義行	江戸川・三松江小
	嵯峨 悦子	墨田・錦糸 <small>小</small>	芦沢 智江	三鷹・高山小
	向後 啓一	墨田・中川 <small>小</small>	多田 斉子	調布・染地小
	菅野 靖江	江東・第二大島小	梅宮 フミ	小平・小平五小
	岡本 直和	目黒・油面小	(記録) 井上 芳子	小平・小平十一小
	鈴木 茂男	世田谷・深沢小	伊東トミエ	東村山・久米川小
	石川真理子	渋谷・猿楽小	笠井 久枝	狛江・狛江五小
	星野 典子	中野・中野昭和 <small>小</small>	佐久間英明	稲城・稲城八小

## 1. まえがき

### (1) 研究主題について

人間性豊かな児童の育成を目指す新教育課程の中で、特別活動の果たす役割は大きい。いわゆる「ゆとりの時間」の活用をめぐる論議とともに、教育課程に位置づけられた「特別活動」の実践が不十分であったことが改めて認識させられている。

特に、「学級指導」は、各学校で教育課程の編成における授業時数の配当や週的生活時程の作成とともに、関心が一段と高まった。しかし、学級指導が正規の授業として教育課程に登場してから10数年になるにもかかわらず未だに定着していない学校も見られる。学級指導の指導計画が作成されていない学校もある。このような学校では、いわゆる「ゆとりの時間」を活用して行われる学級担任の創意ある教育活動と特別活動との混乱が生じ、改めて学級指導のあり方やその指導計画の重要性が指摘されている。従来、ややもすると教科の指導時間でいっばいで、クラブ活動や学級指導にまで時間を配当することが困難であるとの声もあった。しかし、新しい教育課程の実施にともない比較的、時間が取り易くなったのは事実である。

本研究部では、この機会に昨年度からの「指導計画の改善」を更にもう1年続けて、より望ましい例を作成しようと考えた。昨年度は、都内の各区や各校の指導計画を持ち寄って、それらの計画に多く掲げられていた主題を選定し、発達段階や時間数を配慮して年間主題一覧表を作成した。これは、都内各校の実態により近い指導計画を作成しようとしたからである。

もとより、学級指導の指導計画は、それぞれの地域・学校及び児童の実態に応じて、その学校で独自に作成するものであるから、本研究部で作成する計画は、あくまで「指導計画作成のための資料」と考える。新しい教育課程の2年目を迎える時、各校では当然のことながら、各教科、道徳、特別活動の指導計画の改善に取り組むであろう。その際に参考となる一例を都内の各校に提供することは、本研究部の一つの責務であると考えたからである。

### (2) 研究への取り組み

学級指導は、「好ましい人間関係の育成」と「健全な生活態度を養う」ことを直接的に指導するものであり、学校に於ける全ての教育活動の成果を一層高めるように生きて働く指導が行われなければならない。特に、都特活の全体テーマである「豊かな人間性を育成する特別活動」の中で、学級指導が担う最も大きな部分は、「実践的態度の育成」であると考えた。

私たちは、昨年度の年間主題一覧表を、実践的態度を育てるという視点から検討し改善を図った。次に、昨年度は、主として各学年部会を中心に指導内容の選定を進めたので、1年から



6年までを各項目ごとに、縦の系統で再度見直し、精選、改善を加える必要があった。一例を上げると「虫歯の予防」の指導を2年で、全員に時間をかけ、資料も活用してしっかりとした授業で展開しておけば、中学年では、その時の資料なども再利用しての短時間の指導で足りると考え、一層の精選を図ることにした。

第三に、学級・学校生活への適応に関する指導を中心に、主題ごとの「ねらい」「指導内容」をまとめ、指導計画表を作成する。特に、本研究部では、52年度、53年度の2年間にわたって、「適応に関する指導」について研究を重ねてきた。適応とは何かということから、学級指導における適応に関する指導の基本的な考え方、その指導内容の分類、実践事例の研究及び授業研究などを通して、一応の成果を挙げたと思う。それらを本年度の研究にも生かしながら指導計画の改善を進めることにした。

## 2 学級指導の指導計画

### (1) 学級指導の目標

特別活動の特質は「集団活動を通して」ということによって、はじめて効果的に達成されるところにある。特別活動の一内容である学級指導も、「集団の一員としての自覚を深め、協力してよりよい生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる」という目標を目指すものである。従って、日常生活を営むために必要な行動の仕方の指導においても、何のためにそのように行動しなければならないか、望ましくない行動は、学級のみんなや周囲の友だちにどんな影響を与えるのか、ということをもふまえて指導することが大切である。

「集団の中で自己を正しく生かすことができるようにする」という指導書にある学級指導の目標は、適応に関する指導を中心に、特に、個と集団のかかわり合いを指導するものとする。更に、実践に結びつき、直接的に児童の生活を望ましい方向へ変容させることが学級指導の目標とする。

### (2) 学級指導の指導内容

このように考えるとき、学級指導の指導内容は、非常に広い範囲にわたる。学習指導要領・指導書に例示されている指導項目や、都内各学校の指導計画を比較検討して、本研究部では、一応、82ページの主題一覧表にあるように6つの項目によって指導内容を分類した。長期休業前後の指導、清掃美化に関する指導は「その他」に、日常生活の道徳性の指導は「適応」の項目に含めた。これらの項目は計画作成に際して指導内容精選の一つの視点であり、実際に展開される時は、明確なねらいに応じて指導過程や資料に工夫が図られることが肝要と考える。

### (3) 学級指導の時間設定

学校行事と同じように、指導計画によって年度当初の教育課程の編成時に明確に設定しておかなければならない。学校や児童の実態に応じて異なるであろうが、一般的には、学級指導の時間として配当できる時間は、年間20単位時間程度と考える。学年初めや学期初めは学級指導の時間は多く必要であり、行事によっても異なるので、最も必要な時期に特設じて指導することが望ましいと考える。他に、本研究部では、20分の指導の主題を15～23設定した。この時間は、朝や放課後の時間を活用することになるが、週の生活時程の上で、その時間が取り易いように配慮しておくことが大切と考える。

### (4) 指導内容精選の観点

学級指導が授業としてなかなか定着しなかった理由には、その内容が日常の学級経営や生活指導と深い関わり合いが多いこと、時間設定が困難であったことなどがあげられる。特に、「授業としての学級指導」と「日常の学級での指導」を区別して認識することが大切と考える。学級内で必要に応じて行う生活指導上の諸問題に対する数分間の諸注意などは、「学級指導」と考えるのは適切でない。一定のねらい、内容、指導過程（その形は一定ではないが）をもつ指導が計画的に行われたときにはじめて学級指導と位置づけられるといえる。

本研究部では、昨年度から次のことを精選の観点として指導計画の研究を進めてきた。

- ① 学級指導の目標に即し、授業として成立する内容
- ② 児童の実態、教育目標や学年の重点目標から特に必要と考えられる内容
- ③ 個別指導や日常のくり返しの指導よりも、全員を対象に時間をかけて指導した方が効果があがると考えられる内容
- ④ 児童の発達段階から、その学年やその時期に指導することが最も適切な内容
- ⑤ 実践に結びつき、直接的に児童の生活を変容させるねらいをもつもの
- ⑥ 教科、道徳及び児童活動や学校行事との関連を図り、それらの中で指導できるものは可能な限りその領域の中で指導する。

### (5) 指導計画の作成

学級指導の年間指導計画は、全教師の協力によって作成されることが望ましく、最低限、①主題 ②ねらい ③指導内容 ④指導時間 ⑤指導の時期を備えたものが必要である。更に、指導上の留意事項と資料が示されていると利用しやすい。各学校ごとに、児童の実態やその年度の重点によって内容を選定して指導計画を作成することが大切と考える。

各学年 年間主題一覧表(例)

○ …… 1 単位時間の主題 ・ …… 20分の主題

	学級・学校生活への適応に関する指導	保健に関する指導	安全に関する指導
第一学年	(入学当初の1週間の指導は、別に計画する) ○学校の一日の暮らし ・日直の仕事 ・校庭での遊び ○みんなで使う物 ・チャイムの合図 ・あいさつ ○3学期を迎えて ・内遊びの仕方 ・冬の遊び ○プールに入る時 ○もうすぐ2年生 出る時 ○2学期を迎えて	○健康診断の受け方 ・目を大切に ・寒さに負けない子 ○身のまわりの清潔	○避難の仕方 ○地震が起きた時 ・廊下の歩き方 ○学校へ通う道 ・横断の仕方 ・あぶない遊び ・雨の日の歩き方 ・知らない人(誘拐) ・ストーブの安全
第二学年	○2年生になって ・遊びのきまり ○学校や学級のきまり ・友だちのよいところ ・自分たちの教室 ○3学期を迎えて ・雨の日の遊び ・みんなで使うもの ・話の仕方 ・忘れ物 ・プールに入る時 ○もうすぐ3年生 出る時 ○2学期を迎えて	・健康診断の受け方 ○じょうぶな歯 ○規則正しい生活 ・耳を大切に	○登下校の安全 ・避難の仕方 ・地震の時の避難 ○自転車の乗り方
第三学年	○3年生になって ・落とし物 ○学校や学級のきまり ・忘れ物 ・新しい友だち ・あいさつと返事 ・日直の仕事 ○2学期の反省 ・けんか ○3学期を迎えて ・プールのきまり ・あだな ○1学期の反省 ・クラブ活動の見学 ○2学期を迎えて ・もうすぐ4年生 ・ことばづかい	・つゆどきの衛生 ○目を大切に ○冬の健康生活	○避難の仕方 (火災・地震) ○自転車の乗り方 ・あぶない遊び ・廊下の歩き方

学校図書館の 利用指導	学校給食に 関する指導	行事の事前 事後の指導	その 他	時 間	(参考) 左の他に、 一部の学校の指導計画 に見られた主な主題。
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 図書館の 使い方 (学級文庫)</li> <li>・ 本の扱い方</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 給食の配膳と あとしまつ</li> <li>・ よい食事の し方</li> <li>・ すききらい</li> <li>・ 楽しい給食の 工夫</li> </ul>	(遠足・運動会・学芸会等、行事計画に 一応単位で、各 時間：各 ：学年 ：2年 主題も  ・ 一 ○分 ：3 主題 程度 設定 する)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 夏休み</li> <li>○ 冬休み</li> <li>○ 春休み</li> <li>(各、長期休 業前の指導)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○</li> <li>∴</li> <li>17</li> </ul>	(低学年) 休み時間の過ごし方 遊びとけんか ことばづかい いじめっ子 机、ロッカーの整とん 予防注射 手の洗い方 信号の見方 運転手から見えない ところ おもしろかった本 学校の誕生日 テレビの正しい見方 学校に見えたお客様 あぶない火遊び など
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本の借り方 返し方</li> <li>・ 図鑑の使い方</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 給食の仕方</li> <li>・ 残さずに 食べる</li> <li>・ 給食 ありがとう</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 清掃の仕方</li> <li>・ おこづかい</li> <li>・ ありがとう</li> <li>教室</li> <li>○ 夏休み</li> <li>○ 冬休み</li> <li>○ 春休み</li> <li>(事前の指導)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○</li> <li>∴</li> <li>17</li> <li>20</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学校図書館の きまり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 給食時の約束</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 清掃の仕方</li> <li>○ 夏休み</li> <li>○ 冬休み</li> <li>○ 春休み</li> <li>(各、事前の 指導)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○</li> <li>∴</li> <li>17</li> <li>18</li> </ul>	

	学級・学校生活への適応に関する指導	保健に関する指導	安全に関する指導	
第四学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○4年生になって</li> <li>○クラブ活動の選び方</li> <li>・係や当番の活動</li> <li>・雨の日の遊び方</li> <li>○1学期の反省</li> <li>○2学期の目標</li> <li>・男の子と女の子</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○心のこもった挨拶</li> <li>・学習と準備</li> <li>○2学期の反省</li> <li>○3学期の目標</li> <li>○友だちと仲よく</li> <li>・もうすぐ5年生</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○運動と休養</li> <li>○視力と姿勢</li> <li>・教室の換気</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・正しい登下校</li> <li>・避難の心がまえ</li> <li>・危険な遊びと事故防止</li> </ul>
第五学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○5年生になって</li> <li>・専科の先生の授業</li> <li>○委員会活動への参加</li> <li>・グループの協力</li> <li>・1学期の反省</li> <li>○2学期の目標</li> <li>○自主勉強</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・下級生の世話</li> <li>○友だちの長所</li> <li>○2学期の反省</li> <li>○3学期の目標</li> <li>・余暇の活用</li> <li>○もうすぐ6年生</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○じょうぶな体づくり</li> <li>○初潮指導</li> <li>・スポーツテストと体力づくり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地震の時の安全</li> <li>○自転車の乗り方と交通標識</li> </ul>
第六学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○最高学年になって</li> <li>○児童会活動と学校生活</li> <li>・下級生の世話</li> <li>○友だちから学ぶ</li> <li>○1学期の反省</li> <li>○2学期の目標</li> <li>・私の困っていること</li> <li>・自分の趣味、特技</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○男女の協力</li> <li>○リーダーの役割</li> <li>○2学期の反省</li> <li>○3学期の目標</li> <li>○進学心がまえ</li> <li>・在校生に残すもの</li> <li>○惜しまれて去る卒業生に</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の体と成長</li> <li>○男女の体</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○災害時に対する平常の心がまえ</li> <li>・校内の安全生活</li> <li>・車の交通法規</li> </ul>

<注> 1. 上表は、1年から6年までを見通し、最低必要と考えられる主題を列举した。

2. この主題以外に、低・中・高別に一部の学校の指導計画に見られた主題を右表に掲げた。これらが、各学校の指導計画作成や改善の参考になれば幸いである。

3. 指導計画は、何年間も固定的に考えずに児童の実態や指導の反省及びその年度の重点を十分検討して年々改善を加えていくことが大切と考える。

学校図書館の 利用指導	学校給食に 関する指導	行事の事前 事後の指導	その他	時 間	(84ページの続き) とび出し注意
○本の見つけ方 (書架の配列 と分類) ・読書生活	・給食事の 過ごし方	(卒業式・運動会等 行事単 位時間 に応じて 各学年 とも 10分 3主題 程度 設定 する)	○清掃の仕方 ・大そうじ ○夏休み ○冬休み ○春休み (各長期休 業前の指導)	○ : 17 ・ : 15	道路のしるし わたしの読書ノート 研究と参考資料 読書感想文の発表 食べ物と栄養 金銭のじょうずな 使い方 など
・図書鑑の利用 の仕方 (公共図書館 も含む) ○辞典、事典、 年鑑の活用	・明るい話と 楽しい会食		・手早い清掃 の工夫 ・出張当番 ・お年玉 ○夏休み ○冬休み ○春休み	○ : 17 ・ : 15	(高学年) 学級の組織 遊びの工夫 規則正しい生活 正しい姿勢 けがや急病の 簡単な手当て
・請求記号 ・ファイル資料 の作り方	・健康と偏食		・校舎内の 美化 ○夏休み ○冬休み (事前指導) ・卒業後、進 学までの生 活	○ : 17 ・ : 15	誘かひの危険 自分でできる製本 書目づくり 調べ読み ○○小学校の校風 公害と環境 たてわり清掃 1年間の生活の反省 移動教室

<指導計画作成上の留意点>

- ① その学校の「安全指導の全体計画」及び「行事の指導計」・「給食指導計画」・「図書館の利用指導計画」から、学級指導に位置づける指導内容を選定する。
- ② 指導計画外に必要な問題が発生した場合は、学年内で十分話し合い主題を特設する。
- ③ 即時性・即事性・即効性に基づき、指導の時期に弾力性をもたせる。

第1学年 適応に関する指導・指導計画例

主 題	ね ら い	指 導 内 容
○一日の暮らし	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校や学級の生活には、きまりや約束が必要なことをわからせ、すすんで守るようにさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校での一日の暮らし</li> <li>○その中のきまりや約束ごと                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・廊下や階段の歩き方</li> <li>・靴の区別</li> <li>・チャイムの合図</li> <li>・便所の使い方</li> <li>・給食のとき</li> <li>・勉強のとき 等</li> </ul> </li> <li>○きまりを知らなかったり、守らなかったりして困った経験</li> <li>○いくつかを動作化・練習</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・校庭での遊び</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○校庭での遊び場所、遊び方、固定施設の正しい使い方などがわかり、安全に利用することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○校庭での遊び方                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・どこで・どんなことを・どのように</li> </ul> </li> <li>○遊具・固定施設のおぶない使い方、正しい使い方。                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・現場での指導・実際に遊ぶ。</li> </ul> </li> <li>○順番に仲よく、楽しく。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・チャイムの合図</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○いろいろなチャイムの合図を守って、きまりよい生活ができるようにする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○いろいろなチャイムの合図。                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・守れなかったときのこと</li> <li>・守れたときの気持ち</li> </ul> </li> <li>○チャイムを守ることの大切さ</li> <li>○みんなが守るための方法</li> </ul>
○2学期をむかえて	<ul style="list-style-type: none"> <li>○2学期の学校生活に期待と意欲を持たせ、めあてを決めてがんばらせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○2学期の学校行事や学級生活のあらましについて</li> <li>○したいこと・がんばりたいこと</li> <li>○めあてを書いて発表</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・日直のしごと</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○日直の仕事の内容を知りすすんで学級のために意欲的に活動させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学級の中で毎日やる仕事</li> <li>○その中の日直の仕事                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・朝の会・帰りの会の挨拶と司会</li> <li>・窓あけ、黒板ふき、給食のとき</li> </ul> </li> <li>○仕事の仕方、意欲づけ</li> </ul>

○みんなで使う物	○みんなで使う物は大切に扱わなければならないことがわかり、よい使い方ができるようにさせる。	○みんなで使う物がこわれたり、足りなかったりして困った経験 ○みんなで使う物調べ ・掃除道具 ・ボール ・本 等 ○みんなで使う物の正しい扱い方とその練習 ・ていねいに、もとの場所へ、整とん
・冬の遊び	○冬の遊びにはどんなものがあるか考え、できるだけ外で元気よく遊ぶようにさせる。	○この頃の遊びの様子 ・室内の遊び ・外での遊び ○知っている冬の遊びの紹介 ○外で元気よく遊ぶ一実践化の方法
○もうすぐ2年生	○どんな2年生になりたいか、抱負と希望を話し合い、進級の喜びと期待を持たせる。 ○新1年生を迎える喜びと上級生としての自覚を持たせる。	○1年間の学校生活の反省 ・楽しかったこと、・がんばったこと ○どんな2年生になりたいか ○2年生になってやりたいこと ○新1年生にしてあげられること ・教室の清掃・かざりつけ ・贈り物作り ・入学式にすること

＜学級指導コーナー＞

都特活研究集録 第15集より

＜適応に関する指導の内容＞

各区や各学校の指導計画にある指導内容は次のように内容が含まれていた。

- ①学校のきまりや校内生活の行動様式に関するもの
- ②学級の約束ごとに関するもの
- ③教師と児童、児童の相互理解に関するもの
- ④遊びに関するもの
- ⑤施設・用具の正しい利用に関するもの
- ⑥学習生活に関するもの
- ⑦学級・個人の生活のめあて、生活設計や生活の反省に関するもの
- ⑧児童活動に関するもの
- ⑨整理整頓、環境美化に関するもの

以上のほかに、入学当初や進級当初の指導、卒業前の指導及び特別の場合として、心身に障害をもつ児童に関する学級全員に対する指導などがあげられる。



第2学年 適応に関する指導・指導計画例

主 題	ね ら い	指 導 内 容
○ 2年生になって	○ 進級の喜びを節に、2年生としての自覚を持ち、進んで学習や、学級の活動に参加できるようにする。	○ 2年生としての自覚 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1年生のお手本になる2年生</li> </ul> ○ 進んで学習する態度 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新しい教科書</li> <li>・ 学習の計画と準備</li> </ul> ○ がんばりのめあて ○ 学級のグループ作り <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 当番活動への協力と参加の仕方</li> </ul>
○ 学校や学級のきまり	○ きまりよく、楽しい集団生活をするために、学校や学級のきまりを知り、協力して守られるようにする。	○ 学校のきまり <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 登下校</li> <li>・ 休憩時間の遊び方</li> <li>・ 集会時の約束 給食、清掃の仕方</li> <li>・ 月のめあて・週のめあて</li> </ul> ○ 学年のめあて ○ 学級のめあて
・ 雨の日の遊び	○ 雨の日の遊びについて、みんなが楽しく過ごすための遊び方を工夫させる。	○ 雨の日のよい遊び方 ○ 安全で仲よく遊ぶための工夫 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ みんなで遊びを考える</li> <li>・ 楽しい遊びの紹介</li> </ul>
・ 自分たちの教室	○ 自分たちの教室が、気持ちよく能率のよい学習の場とするためのあり方を考え、工夫させる。	○ 学習の場としての教室の環境 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 用具の置き場所と整理(自分の物 みんなの物)</li> <li>・ 黒板、壁面の使い方(掲示物、係別にコーナーを分ける)</li> <li>・ 花・生き物の飼育</li> </ul>
・ 話の仕方、聞き方。	○ 話の仕方、聞き方の大切さがわかり、場に合った話し方、聞き方ができるようにする。	○ 話し方 ・ 声の大きさ(教室のみんなに、グループの人に、ふたりで) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 末尾をはっきり</li> </ul> ○ 聞き方(要点をまとめながらきく)

<ul style="list-style-type: none"> <li>• 遊びのきまり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦ 遊ぶ場所、安全な遊び方を知らせ、友達と仲よくすごせるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦ 遊ぶ場所</li> <li>◦ 安全な遊び方 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 校庭の遊具の使い方</li> <li>• 固定施設の使い方</li> </ul> </li> <li>◦ 楽しく遊ぶためのやくそく</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 忘れ物</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦ 忘れ物をする原因を考え、忘れ物をなくすようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦ どんな忘れ物が多いか</li> <li>◦ 忘れものをする原因は何か</li> <li>◦ 忘れものをなくす工夫 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 忘れもの調べ(個人カード)</li> </ul> </li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 友達のよいところ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦ 自分の欠点に気づかせ友達の良さに気づき、認め、友達と仲よく助け合えるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦ 自分の欠点に気づかせる</li> <li>◦ 好かれる友達はどんな人か <ul style="list-style-type: none"> <li>• 仲まはずれをしない</li> <li>• やさしい</li> </ul> </li> <li>◦ 相手のよいところを認める。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 友達のよいところをさがす。</li> </ul> </li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 3学期を迎えて</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦ 新しい年を迎え、気分も新たに登校する子はやる気も充分である。</li> <li>◦ 冬休みの生活を知ると同時に、3学期は1年間のまとめとして大事な期間であることを知らせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦ 冬休みの生活の反省 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 生活面</li> <li>• <sup>こづつ</sup>お小使いの使いみち</li> </ul> </li> <li>◦ 新年への抱負</li> <li>◦ 1年間のまとめの期間 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 2年生としての学習</li> <li>• 生活面</li> <li>• もうすぐ3年生</li> </ul> </li> </ul>

— <学級指導コーナー> —

研究集録 第15集より

<学級指導は、教育課程に位置づけられた授業である>

授業として備えていなければならない条件……①指導計画による意図的・計画的な指導であること。②全員を対象にした指導であること。③明確なねらいと独自の指導内容があること。④指導過程が設定されていること。⑤予め指導時間が設定されていること。

「学級指導」と日常の「学級での指導」とは関連は多いが区別して考えることが大切

第3学年 適応に関する指導計画例

主 題	ね ら い	指 導 内 容
○学校や学級の きまり	○学校や学級のきまりを守る必要性をわからせ、進んできまりを守るようにさせる。	○きまりを破って、失敗した体験発表 ○学校のきまりの再認識 ・学校のきまりのそれぞれの必要なわけの話合い ○「今月のめあて」の実践意欲の高揚 ・努力表の記録の仕方
・新しい友だち	○学級編成替による新しい友だちを互いに紹介し合い、楽しい学級を築くようにさせる。	○新しい友だちの紹介 ○友だちと仲よくできた体験、友だちの良さを発見した喜びの体験の発表 ○相手の良いところを認める気持ち ○グループの名や係の分担を決める。
・日直の仕事	○日直の仕事のあらましをわからせ、進んで実践させる。	○2年生までの日直の仕事の発表 ○日直の仕事の内容の決定 ・毎日の仕事 ・臨時の仕事 ○日直の順番、学級日記の記録の仕方 ○学級を中心としての自覚
・けんか	○学級内の争いごとを感情的、暴力的にならずに解決することの大切さを理解させ、学級としての約束を決めさせる。	○学級のけんかの実態 ○けんかの原因についての話合い ・がまんした事例や上手に解決した事例の発表 ○自分の行動、性格に対する反省 ・自分の過ちは、すなおに謝る ○学級内の争いを解決する基本的な方法 ・帰りの会、学級ポストの活用など
・プールのきまり	○水泳のねらいを理解させきまりを守って安全な水泳をさせる。	○学校のプールのきまり ○事前の健康調査、水泳カード ○プールに入るまでの行動、水から上がったからの行動の順序、約束の確認

○ 2学期を迎えて	○ 2学期の学校生活のあらましを知らせ、楽しい生活をさせる。	○ 始業式の校長先生の話の想起 ○ 2学期の学校生活のあらましの理解 ○ 具体的に日常生活の場面で留意することの話合い ○ 学級のめあて、自分のめあて
○ ことばづかい	○ 悪いことばは、他人の心を傷つけることに気づかせ、進んで正しいことばを使うようにさせる。	○ 悪いことばの録音を聞き、どんなことばが悪いことばか考えさせる。 ○ それらのことばを使っていけない理由 ○ 日常生活でどんな注意が大切か ○ 約束カード、チェックカードの使い方
・ クラブ活動の見学	○ クラブ活動のねらいを聞き、参加希望のクラブを重点的に見学するなど、見学のねらいを持たせる。	○ クラブ活動のねらい ○ クラブの種類と活動のあらまし ○ クラブ見学の計画 ○ 見学のときの注意

— 学 級 指 導 コ ー ナ ー —

< 基本的な指導の流れ・効果的な資料の活用例 >

**導入段階**

— 問題の意識づけ 「自分にもそんなことがあった」 ・ 問題場面の絵や写真  
課題の共通化 「みんなはどうなんだろう」 ・ 問題内容の録音  
「何とかしなければ」 ・ 調査結果のグラフ

**展開の前段**

— 原因の追求 「どうしてこうなるのだろう」 ・ 原因や理由を示唆する資料  
「なるほどそういうわけだったのか」 (実態の分析表・作文・読み物など)

**展開の後段**

— 対処の仕方 「では、どうすればよいか」 ・ 具体的な行動を示す資料(絵・写真など)  
解決の方法 「こんな方法もあるよ」  
「みんなで練習してみよう」 ・ 対処の仕方を理解させる資料

**終末段階**

— 実践への意欲化 「あしたからこうしよう」 ・ 実践記録のカード  
「みんなでやってみよう」 ・ 決意の作文

○ 主題、ねらいによって、どの段階に重点をおいて展開するかが極めて大切なことである。

第4学年 適応に関する指導 指導計画例

主 題	ね ら い	指 導 内 容
○4年生になって	○進級の喜び、4年生という自覚をもって、これからの学校・学級生活に意欲的に取り組ませる。	○4年生としての抱負 <ul style="list-style-type: none"> <li>・上級生としての責任</li> <li>・協力</li> <li>・下級生への思いやり</li> <li>・自分の決意</li> </ul> ○楽しい学校、学級生活 ○学年、学級のめあて
○クラブ活動の選び方	○クラブ活動の意義を知り、自分の長所を生かすことのできるクラブを選ばせる。	○クラブ活動のねらいや内容(教科学習との違い) ○クラブの種類、内容 ○クラブ活動でやりたいこと、疑問 ○自分の長所と入りたいクラブ(選択)
・係や当番の活動	○係や当番の仕事を明確にし、取り組む方法を工夫し、意欲的に実践させる。	○係や当番の仕事の内容 ○係活動と当番の仕事とのちがい <ul style="list-style-type: none"> <li>・係活動=工夫</li> <li>・当番の仕事=責任</li> </ul> ○今までのやり方についての反省 ○よりよくやるための活動計画 <ul style="list-style-type: none"> <li>・方法</li> <li>・工夫</li> <li>・分担</li> <li>・評価表</li> </ul>
・雨の日の遊び方	○狭い教室や廊下などで走り回ったりすることの危険や他の人々への迷惑に気付かせ、楽しい遊び方を工夫させる。	○雨の日の遊び方の実際の様子(録音、スライド、写真、絵等で) <ul style="list-style-type: none"> <li>・よい遊び方</li> <li>・悪い遊び方</li> </ul> ○遊び方についての反省や意見 <ul style="list-style-type: none"> <li>・けがをした</li> <li>・迷惑をかけた</li> </ul> ○安全でみんなで楽しくできる遊びの工夫、アイディア
・学習と準備	○学習用具の忘れ物は、自分ばかりか他の人にも迷惑をかけることを自覚させ、用具の準備をきちんとさせる。	○忘れ物の記録(特定期間を限って) <ul style="list-style-type: none"> <li>・忘れた物</li> <li>・忘れた回数</li> <li>・理由</li> </ul> ○忘れ物についての経験 <ul style="list-style-type: none"> <li>・困ったこと</li> <li>・迷惑をかけたこと</li> </ul> ○忘れ物をしない人の工夫と自分の工夫

<ul style="list-style-type: none"> <li>・男の子と女の子</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○男子と女子が互いに相手のよさを認め合い、力を合わせて楽しい学級をつくるようにさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○男女の対立で困った事例とその原因</li> <li>○対立と関心との関係</li> <li>○男女の体力の違いと仕事の違いとの関係</li> <li>○男女それぞれの反省と決意</li> <li>○これから仲良くしていくための方策</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>○心のこもったあいさつ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○心のこもったあいさつをすることにより、学校・家庭生活を楽しくできることを知り、正しいあいさつができるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○あいさつのしかたのいろいろ（事例） <ul style="list-style-type: none"> <li>・よいあいさつ</li> <li>・悪いあいさつ</li> </ul> </li> <li>○心のこもっていないあいさつへの反省</li> <li>○あいさつの大切さ（説話・経験）</li> <li>○時と場に応じた、正しいあいさつの仕方</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>○2学期の反省</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○2学期にたてた目標について反省し、3学期の計画に生かさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○2学期の生活をふり返って <ul style="list-style-type: none"> <li>・楽しかったこと</li> <li>・失敗したこと</li> </ul> </li> <li>○目標についての反省（個人・学級） <ul style="list-style-type: none"> <li>・守れたこと</li> <li>・守れなかったこと</li> </ul> </li> <li>○守れなかった原因</li> <li>○3学期に心がけねばならないこと</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>○友だちと仲よく</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○たがいに非難し合わず、忠告し合うことによって、さらに楽しい学級にするようにさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○けんかの事例とその原因</li> <li>○友だちがいてよかったと思った事例</li> <li>○非難と忠告の違い</li> <li>○互いに教え合い、励まし合う態度・注意を素直に聞き入れる態度の大切さ</li> <li>○信頼し合える友だちになる約束</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・もうすぐ5年生</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○1年間の生活をふり返ると共に、新しい学年に進む喜びをもたせ、高学年としての心構えや行動を考えさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○1年間の学習・生活の反省</li> <li>○1年間の成長点 <ul style="list-style-type: none"> <li>・できるようになったこと</li> </ul> </li> <li>○高学年になるという内容</li> <li>○新学年への抱負・実践計画</li> </ul>

第5学年 適応に関する指導 指導計画例

主 題	ね ら い	指 導 内 容
○委員会活動への参加	○委員会活動の種類や内容を理解させ、一人一人が適切な委員会に所属できるようにする。	○どんな委員会があるか。5年・6年生のしていた仕事はどんなことか ○委員会の種類や活動と希望調査の方法 ○希望と参加の抱負を出し合う
○1学期の反省	○1学期にたてた目標を反省して、実行できなかった原因を考え整理し、2学期の計画や実施に生かすようにさせる。	○1学期で一番心に残ったこと ・けんか ・うれしかったこと ○目標で守れたことと守れなかったこと ・守れなかった原因 ○反省のまとめ、2学期への準備
・下級生の世話	○高学年になった自覚をもたせ、すすんで、下級生の世話をさせる。	○5年生として下級生の世話をする機会が多くなった ・委員会活動で ・集団登校 ・出張当番 ・休み時間 ○どんな世話ができるか ○各自の実践計画、発表とまとめ
・専科の先生の授業	○専科の先生の授業のときどんなことに注意するか理解させ、担任の授業と同じような気持ちで参加させる。	○専科の先生のときの授業態度 ・音楽 ・図工 ・家庭 ○専科の先生の授業での注意 ・先生への連絡 ・持ち物等の準備 ・移動のときの整列など ○注意することのまとめ
○2学期の目標	○学校行事の多い2学期を迎え、今までよりも、より充実した学校生活を送れるようにさせる。	○1学期の反省メモをもとにした話合い ・1学期の学級や個人の目標 ・守れなかった原因 ○2学期の生活を充実させる具体的方法 ○2学期の目標……(個人・学級) ○画用紙に各自目標を記入 ○互いに励まし合う実践への意欲づけ

<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループの協力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○友だちの長所や短所を認めあって協力し、班長を中心にして楽しいグループ活動ができるようにさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○グループ内での問題点についてグループ日記をもとにした話し合い。</li> <li>○グループ活動を阻害する要因</li> <li>○リーダーの役目、男女の協力</li> <li>○今後のグループの計画、注意すること</li> <li>○まとめと発表</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>○もうすぐ6年生</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○6年生になる時期を目前に控え、高学年としての自覚を高め、6年生になる心構えをもたせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○6年生を送る会の話し合いをもとに高学年としての自覚を高める</li> <li>・6年生になる気持ち</li> <li>・5年生のやっていたこと</li> <li>○下級生の世話</li> <li>○6年生を送る会の計画への参加</li> <li>○発表</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>○友だちの長所</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○友だちの長所や短所について理解し、友だちへの尊敬の念をもたせ、お互いに学び合う態度を育成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○友だちの中で、よいところに気づいたこと</li> <li>○友だちのよい点・悪い点</li> <li>○友だちのよい点の発表</li> <li>○自分の短所の反省となおす方法</li> <li>○今後、互いに認め合い励まし合う場面や方法のまとめ</li> </ul>

— <学級指導コーナー> — 指導資料集、日本文化科学社、青木孝頼氏の文より—

<学級指導と道徳の時間の指導との対比>

学級指導の特質……「現在起こっているか、近い将来に起こることが予想されるところの児童の生活現象面の個々の問題を取り上げ、それを解決する仕方やそれに対処するための方法なり技術なりを指導すること」

主題ごとのねらい……「児童の生活現象面のこの問題を取り上げ、このように実践させる」というように明確に焦点づけることが望ましい。

道徳の時間との対比……「指導の即効性」が直接に期待される。実際に指導される前後との児童の行動には明らかに差が見られなければならない、一般的な態度育成ということではなく、特定の行動が実現することが期待される。



第6学年 適応に関する指導 指導計画例

主 題	ね ら い	指 導 内 容
○最高学年になっ て	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新しい学年を迎えた好機をとらえ、最高学年としての自覚を高め、学校での望ましい生活のあり方や活動の仕方を知って、積極的に実践できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○最高学年になった感想</li> <li>○先生方や下級生の願いや期待</li> <li>○最高学年としての学校生活               <ul style="list-style-type: none"> <li>・役割や責任についての理解</li> <li>・学校生活のあり方と心がまえ</li> <li>・具体的な行動のとり方</li> <li>・各自の実践目標</li> </ul> </li> </ul>
○リーダーの役割	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最上級生としての役割を理解し、良きリーダーとなるよう自覚を持って積極的に活動させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○リーダーとしての場と行動               <ul style="list-style-type: none"> <li>・経験しているリーダーの場</li> <li>・リーダーとして困った経験と、その原因の追求</li> <li>・良いリーダーとしての行動</li> </ul> </li> <li>○今後のリーダーとしてのめあて</li> </ul>
○男女の協力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・男女お互いに相手の立場や良さを理解し認め合い協力して、仲の良い楽しい学級づくりができるようにさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○男女の協力についての学級の実態               <ul style="list-style-type: none"> <li>・協力し合えなかった事例</li> <li>・その原因の考察</li> <li>・協力し合えた事例</li> </ul> </li> <li>○相互の良さを理解と仲良くする方策</li> <li>○今後への各自努力点のカード化</li> </ul>
○2学期の反省	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2学期の学級を中心とした学校生活を反省し、卒業期としての3学期の生活を向上させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○2学期の個人目標や学級目標の反省               <ul style="list-style-type: none"> <li>・良くなった点の相互賞揚</li> <li>・達成困難だった目標とその原因追求</li> </ul> </li> <li>○3学期の生活向上の意欲づけ</li> </ul>
・わたしの困っていること	<ul style="list-style-type: none"> <li>○多くの友達がなやみを持っていることを知り、解決に向かって努力目標を立て実践できるようにさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学級生活で困っていることからの傾向               <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の能力や態度にかかわること</li> <li>・友達や下級生との関係(アンケート)</li> </ul> </li> <li>○なやみ・なやみを乗り越えた経験</li> <li>○解決のための自分の努力目標</li> </ul>

<p>・自分の趣味・特技</p>	<p>○自分にあった趣味や特技を持ち、余暇を効果的に使えるようにさせる。</p>	<p>○自分の趣味や特技と楽しさ</p> <p>○最近の1週間の放課後の時間の使い方</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・趣味や特技のために使った時間</li> <li>・友達の時間の使い方との対比</li> </ul> <p>○よい趣味や特技と、伸ばし方</p> <p>○余暇の過ごし方の計画</p>
<p>○進学心がまえ</p>	<p>○中学校生活への期待と抱負を持たせ、入学までの生活設計を立てさせる。</p>	<p>○昨年の6年生の中学入学時の感想</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・期待通りになったこと</li> <li>・困ったこと、失敗したこと</li> </ul> <p>○中学生になってやりたいこと</p> <p>○卒業までに身につけておきたいこととそのやり方</p>
<p>・在校生に残すもの</p>	<p>・学校のよい伝統を明らかにし、母校に対する感謝の気持ちとそれを表す方法を話し、意欲的に実践させる。</p>	<p>○〇〇校のよい伝統と、印象深かった学校生活</p> <p>○成長のあとと、感謝の気持ち</p> <p>○感謝の気持ちを表す方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校舎の清掃</li> <li>・在校生に残す言葉</li> </ul> <p>○グループでの実践計画</p>
<p>○借しまれて去る卒業生に</p>	<p>○心から祝福されて卒業するため、残った日々に出来ることを考え、有意義に過ごすことができるようにさせる。</p>	<p>○3学期はじめのめあてと近頃の様子</p> <p>○「借しまれて去る」ことの内容</p> <p>○「飛ぶ鳥あとをにごさず」に向かった取り組み方</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・改善したいこと</li> <li>・積極的にやること</li> </ul> <p>○自分の決意と実行したいこと</p>

＜学級指導コーナー＞

都特活研究集録15集より

＜適応指導とは＞

自分と他人との関わり合いの中で、自己決定させていく問題である。しかも、与えられた諸条件に不満を抱かずにうまく暮していくような「適応」であってはならない。風や波にさかわらずにただよっている船ではなく、強力なエンジンを回転させ、波や風の力も利用しながら目的に向かって進む——その進み方を指導してやるのが適応指導である。

## 研究の反省と今後の課題

各区や各学校の指導計画を参考にして、本研究部としての試案ともいふべき「年間主題一覧表」をまとめた。その作業の中で、問題になった点の第一は、時間設定のことである。教育課程編成の上から、学級指導に配当できる時間が何時間とれるかということと、児童の実態から心要と考えられる指導内容との関連において、指導計画が作成されるということは当然のことであるが、保健、安全、図書館利用など、それぞれの項目について十分に指導しようとするれば更に多くの時間が必要になる。その学校の教育課程を全教師の共通理解と協力によって編成するという大きな問題と関わり合うことであり、この点一層の研究が大切と考える。

第二の問題は、20分単位の指導についてである。指導計画の作成に際し指導内容を検討して、1単位時間のものと20分のもの进行分类したが、これらは、朝の1校時前の時間や、その日の放課後の時間に20分の時間を設けて指導できる。したがって、その主題は、必要に応じてもっと多く計画することが可能であろう。交通安全指導、保健指導などのようにくり返し指導した方が効果的な項目に20分の主題をもっと多く設定することが大切と考える。

しかし、「授業としての学級指導」を考えると、20分では授業のねらいの十分な達成が困難であり、指導過程も組みにくいとの声がある。今後、本研究部でも授業研究を通して、この点を追求していかなければならないと考える。

第三の問題は、授業展開に当たっての資料の活用に関することである。学級指導が単に教師のお説教の時間ではなく、授業としての定着を図るには、適切な資料の研究が不可欠である。児童に何か気づかせ、どのように具体的な行動そのものを変容させるか、導入をはじめ展開や終末の段階で活用される資料が極めて大切な役割を果たすと考えるからである。

学級指導は、教師と児童、児童相互の好ましい人間関係を基盤としてはじめて成り立つといっても過言ではないであろう。日常の教師の学級経営や生活指導の働きと深い関連があり、教師が児童とともに生活し、その中から問題をとらえて好ましい方向への変容を意図する担任教師の願いによって支えられる指導と言えよう。今後、ともに一層の研究を続けていきたい。

### おわりに

学級指導部の幹事の先生方は、それぞれの区や学校の多忙な日程を差し繰って研究会に参加された。深く感謝の意を表したい。本年度は、千代田区立永田町小学校を会場を提供して戴いた。また、同校校長中田英義先生には、その都度、適切にご指導と格段のご配慮を賜わった。同校及び中田先生に厚くお礼を申し上げる。

## 青木孝頼先生 講演要旨 「ゆとりと特別活動」

昭 55. 11. 25

於 立川第一小学校

教育課程審議会の示した教育課程の基準改善のねらいには、豊かな人間形成、ゆとりと充実、基礎・基本の内容重視の三点があげられているが、ゆとりと充実がとりあげられたのは今次の改訂が初めてである。この方針によって教科時数が削減されたが、これも今までになかったことである。学力低下が懸念される中で、あえて教科時数を減らしたのは、学校生活にゆとりをもたせるためであり、今までのような忙しい学校生活の中からは「自ら考え正しく判断できる力をもった児童の育成」は期待し難いとの考えがあったからである。

今年度から新しい教育課程が実施された。だが、これで、今までのあわただしい学校からゆとりある学校に変わったかといえ現場からの反応は消極的であり、中には前よりも忙しくなったとの声さえある。現在は実施して間もないことでもありやむを得ないにしても、2、3年後にはゆとりのある学校生活が実現されなければならない。

そこで、その原因が何かといえればゆとりの活用を誤っているからだと考えられる。

まず、余裕のでた時間を休憩時間にまわすことが必要である。具体的には業間は最低10分間、時には15～20分間とること、昼休みを長くすることなどが考えられる。また、週に1回ぐらい昼休みを思い切って長くとること、日によって午前を3時限授業にしてみることも考えてみたい。学校によっては業間に活動をさせている例が見られるが、ゆとりを持たせる立場からは問題があろう。これらの実施に当たっては、児童の在校時間が従来どおりであること、上級学校への進学準備に使わないことなどが条件である。

このようなゆとり活用の考え方に対して、それでは児童をただ遊ばせるだけになってしまうのではないかと懸念する意見がある。しかし、ゆとりは多忙な学校生活への反省から生まれたものであり、学校生活の中に児童が何をやってもよいとする時間があってもよいのではないか。あるときは遊び、あるときは委員会活動や係の準備の活動をするなど、児童が自分で考え、実践する時間を設けてやる必要がある。そして、この中から子どもたちの主体性が伸びてくることが期待される。

他方、教師もゆとりの時間を活用して、例えば、児童と遊んでやる、委員会活動の指導にあたる、あるいは児童と雑談するなどの活動が増加してよいであろう。つまり、児童の前で何かを教えなくてもよい時間があってもよいのではないかということである。遊びや雑談を通して教師が自分自身を語るときに、児童は教師の人間性を感じとり、それによって教師と児童との人間関係が深められるのではないか。

次に時間のとり方であるが、今まで高学年では週3.3単位時間であったものが現在では2.9単位時間となり4時間の減となった。多くの学校では、このうち、2単位時間をゆとりの時間にあて、週3.1単位時間で運用している。

この2時間のうち1時間は学級の時間とし、他の1時間は学校、学年の時間として使ってみてはどうか。内容としては、学級の時間では月に1回学級指導にあて、他は学級担任が自由に使う。例えば、自由研究をやらせるとか、前述の教師の話などが考えられる。つまり、教育課程外に位置づけた学級の活動に使ってみたい。

また、学校、学年の時間については、規模の大きい集会活動を学期1～2回予定する、委員会活動の時間に使う。あるいは地域の特色ある活動を行うことなどが考えられる。教育課程審議会の答申では「ゆとりの時間を特別活動にあてるなどして……」とあり、ゆとりの時間と特別活動との関連を示している。

新しい特別活動には年間7.0時間の時数配当がされているが、これは最高時数を示したものではない。7.0+アルファという考え方である。学級指導で1単位時間を必要とする主題については年間1.0～2.0単位時間程度と示されているが、これはゆとりの時間を使うのがよい。1/2単位時間の学級指導は、ある曜日に2.0分程度の時間をとって実施していく。

地域の特色に応じた行事については教育課程外の活動として実施する。ゆとりの時間に学校行事を行う例が見られるが、原則的には学校行事にあてないようにしたい。従来から大部分の学校では学校行事が多すぎており、この上、更にふやすのは好ましくないからである。ゆとりの指導計画を作成する際には特別活動のわかる人に加わって貰うことが必要であろう。

3年生以下の学年では、今回の改訂で教科時数が削減されておらず、したがってゆとりの時間はないが、学校、学年の時間には参加させていく方がよい。なお、時数が減ったことから午前中だけの授業で児童を下校させている例が散見されるが好ましくない。

ゆとりの時間の活用についてはいろいろと関心を集め研究もされているが、学校教育ではまず三領域の指導を確実に実施していくことが重要である。教科の指導に比べて道徳や特別活動の指導が不十分で、まだ平均の水準に及ばない学校もあるようだが、これらの充実を差しおいてはゆとりの活動どころではない。また、特別活動の中では児童活動が落ちこんでいる。児童活動は自発的、自治的活動を特質としており、教師の意図的指導である他の教育活動とは異なる。そこに指導上の課題があるわけであるが、児童の活動の範囲を決めて取り組めばよいのであるから、それ程難しい活動ではない。今後、更に研究と実践を重ね、一層充実した活動の実現することを期待している。

(文責 古橋 宏)

## 新春座談 世界に目を向けた特活のあり方を語る。

出席 久納六郎 外村 近 北村康富 佐藤 弘 岩園徹明 岩下紀夫  
松野彰夫 高見沢豊栄 渡辺 寿 安岡正凱 小川国壽

新春の1日、都特活の当面の課題や、世界に目を向けた特活のあり方を語り合った。

### 1. 都特活の研究の方向性

- 本年度の主題には「新教育課程に即した指導計画とその実践」という副題がつけてある。都特活が各部の研究成果を集約して作成している研究集録は貴重な宝物であり、これをフルに活用することによって、都全体の平均的レベルアップが期待される。
- 都特活の研究が ① 学校現場ですぐ役立つこと ② 研究団体ゆえに高いレベルの方向性をもつこと、この2つをどのように調整するかが、当面の課題である。

### 2. 21世紀の世界に生きる人間

- これからは国際的に通用する人間を育てることが大切。ところで「第三の波」を読んだが21世紀に生きる人間に本当の自主・自律があるか、考えさせられた。
- 1月9日の某朝刊によれば、日本人は集団でなければ個々には動けないという。戦後30年間、自主性育成に努めたが、それが実らないのは残念だ。とにかく、日本人は周りの意見や見方を気にしすぎる傾向がある。
- 豊かな人間性とは、一人で自立できる、人間としてどこへ出してもはずかしくない生き方ができることだと考える。海外での日本人の行動・態度が次第によくなってきたそうであるが、こうしたいい面の変化を見逃さず、指導に生かしていきたい。
- とかく日本人は日本人でかたまり、外国人となかなかなじまない。それが何に起因するか。1つは言語のちがいであり、他は地理的条件、そして同一民族の集まりでもあるためだろう。しかしそればかりでもなさそうだ。
- だれに対しても、自分の立場や気持ちや意志を正しく主張することが大事だ。

### 3. 集団と個とのかかわり

- 集団の中で目をどう生かすかも大事な問題。教師どうしでよく口論するが、その底には、平等感と集団依存性が見られる。戦前の国家主義がその例。
- 特活が集団の中での自分の生かし方を真剣に考えて指導しないと是正されない。

- 集団の中では強いが一人一人となると弱いのが日本人。人間性にかかわる特活は、集団と個の望ましいあり方を追求し、確かな自己主張のできる人間を育成しなければならない。
  - わが校では、縦割り集団の育成に力を入れ、掃除・給食・校外奉任活動などをいろいろと実践している。とにかく集団そのものをえぐってみる必要がある。
  - 大きな集団を手がけて個を育てる。特活が強調しているのは集団活動である。
  - 横社会と縦社会の両方を経験させ、日本人の欠陥をえぐってみることが大事であろう。6年生が1年生をかばう姿は実に美しい。
  - 特活も個としての生き方をねらっている。今までは縦割り集団が少なかったため、平等意識が強く出ている。学ぶ場を与えないで議論しても空論の域を出ない。
  - 人間としての生き方を学ばせるには、どういう集団がいいのか。最近では若者が目的をもって一人旅する姿も見えてきた。国際化はどんどん進んでいる。
  - 英国紳士は謙虚でスマート、服装も整っている。日本人は島国で生きてきたため国際性に欠ける。服装や態度はやはり集団の中でしっかり指導しなければならない。
  - 縦割り集団だけではなく、多様な実践を積極的に取り入れ、ダイナミックに活動させたい。
4. 豊かな人間性に迫る手だて
- 最近では、核家族のデメリットを解消させるため、地域性が強調されてきた。特活もそういう感覚で取り組む必要がある。例えば欠席の報告は「となりの〇〇さんはかぜで休みます」といえる子になりなさい。周りの子に気を使う子になりなさい、と指導している。
  - 豊かな人間性は好ましい人間関係の中で育つ。縦割り集団の中でも尊敬の念は必要である。縦割りがよくてもへたをすると低学年の自主性を奪いかねない。心の豊かさを育てたい。
  - 中国では、学校参観で授業のほか、クラブ活動をたっぷり時間をかけて公開してくれたし、少年宮の課外活動(クラブ活動とほぼ同じ)にもつぶさにふれ、国家としてクラブ的な活動に力を入れていることがよくわかった。自信をもって特活の推進に努めたい。
  - 日本では、まだ本当の特活が育っていないように思う。自主性を育てるからということで手をこまねいて放任するから、マイナス面が出てくる。自主性を育てるために、集団規範を見直し洗い直す必要がある。
  - 今次の改訂で、学校の創意工夫が強調されている。豊かな人間性育成のために学校や地域の実態に合った真に望ましい教育活動はどうあったらよいか、学校として真剣に考えよう。「まねはされてもまねするな」個性豊かな特活の推進をみんなの力で実現したい。

昭和 55 年度

東京都小学校特別活動研究会 役員・本部幹事・理事名簿

職名	氏名	住所	職名	氏名	住所
顧問	久野六郎	谷野六郎	墨江品目	田東川黒田	区早岡山廣安大星伊伴松佐笠沼堀前小奈水高佐土藤家三弦大佐藤吹毛井屋上沢内中国藤田山林久新倉
会長	小島中	谷野六郎	大世	田谷野並島	区早岡山廣安大星伊伴松佐笠沼堀前小奈水高佐土藤家三弦大佐藤吹毛井屋上沢内中国藤田山林久新倉
副会長	佐藤石大	谷野六郎	中杉	川橋馬立飾	区早岡山廣安大星伊伴松佐笠沼堀前小奈水高佐土藤家三弦大佐藤吹毛井屋上沢内中国藤田山林久新倉
庶務部長	佐藤石大	谷野六郎	豊北	戸川王子	区早岡山廣安大星伊伴松佐笠沼堀前小奈水高佐土藤家三弦大佐藤吹毛井屋上沢内中国藤田山林久新倉
同 副部長	竹北岩	谷野六郎	荒板	蔵鷹梅中島布田	区早岡山廣安大星伊伴松佐笠沼堀前小奈水高佐土藤家三弦大佐藤吹毛井屋上沢内中国藤田山林久新倉
会計部長	竹北岩	谷野六郎	葛江	金井野村分立無谷江瀬久蔵村摩城	区早岡山廣安大星伊伴松佐笠沼堀前小奈水高佐土藤家三弦大佐藤吹毛井屋上沢内中国藤田山林久新倉
同 副部長	高見渡大	谷野六郎	八立	武蔵府昭調町	区早岡山廣安大星伊伴松佐笠沼堀前小奈水高佐土藤家三弦大佐藤吹毛井屋上沢内中国藤田山林久新倉
学級会部長	高見渡大	谷野六郎	三青	昭調町	区早岡山廣安大星伊伴松佐笠沼堀前小奈水高佐土藤家三弦大佐藤吹毛井屋上沢内中国藤田山林久新倉
児童会部長	高見渡大	谷野六郎	昭調	町	区早岡山廣安大星伊伴松佐笠沼堀前小奈水高佐土藤家三弦大佐藤吹毛井屋上沢内中国藤田山林久新倉
クラブ部長	高見渡大	谷野六郎	町		区早岡山廣安大星伊伴松佐笠沼堀前小奈水高佐土藤家三弦大佐藤吹毛井屋上沢内中国藤田山林久新倉
学級指導部長	高見渡大	谷野六郎			区早岡山廣安大星伊伴松佐笠沼堀前小奈水高佐土藤家三弦大佐藤吹毛井屋上沢内中国藤田山林久新倉
事業部長	高見渡大	谷野六郎			区早岡山廣安大星伊伴松佐笠沼堀前小奈水高佐土藤家三弦大佐藤吹毛井屋上沢内中国藤田山林久新倉
同 副部長	高見渡大	谷野六郎			区早岡山廣安大星伊伴松佐笠沼堀前小奈水高佐土藤家三弦大佐藤吹毛井屋上沢内中国藤田山林久新倉
編集部長	高見渡大	谷野六郎			区早岡山廣安大星伊伴松佐笠沼堀前小奈水高佐土藤家三弦大佐藤吹毛井屋上沢内中国藤田山林久新倉
同 副部長	高見渡大	谷野六郎			区早岡山廣安大星伊伴松佐笠沼堀前小奈水高佐土藤家三弦大佐藤吹毛井屋上沢内中国藤田山林久新倉
会計監査	高見渡大	谷野六郎			区早岡山廣安大星伊伴松佐笠沼堀前小奈水高佐土藤家三弦大佐藤吹毛井屋上沢内中国藤田山林久新倉
庶務	池田武吉嶋佐高橋木小嶋	谷野六郎			区早岡山廣安大星伊伴松佐笠沼堀前小奈水高佐土藤家三弦大佐藤吹毛井屋上沢内中国藤田山林久新倉
本部幹事	田井仲根藤倉本場林井	谷野六郎			区早岡山廣安大星伊伴松佐笠沼堀前小奈水高佐土藤家三弦大佐藤吹毛井屋上沢内中国藤田山林久新倉
理事	昭武男芳林小頭	谷野六郎			区早岡山廣安大星伊伴松佐笠沼堀前小奈水高佐土藤家三弦大佐藤吹毛井屋上沢内中国藤田山林久新倉



## 編 集 後 記

本年度は新教育課程実施の第一年次である。本研究会では、特別活動の人間形成にかかわる大きな期待を受けて、特に、指導計画の作成と、その実践を通して、特別活動の本質にせまる研究ととりくんできた。

研究にあたっては、会長はじめ役員の方々のご懇切なるご指導と、研究各部の部長・副部長を中心にした幹事の先生方の熱意あるご努力により、いま、ここに、その成果としての、「都特活研究集録、第17集」を発刊することができたことを喜ぶたい。

年々、積みあげられていくこの成果が、都内各校の実践に、いささかでも役に立てばと期待するとともに、ここまでの積みあげに努力された各先生方に心から敬意を表したい。

本年度、学級会活動研究部は学年段階をふまえた年間指導計画の検討を、児童会活動研究部では指導計画作成の基本的立場を明らかにし、クラブ活動研究部では昨年度作成した指導計画の実践を通しての研究に、学級指導研究部では指導内容の精選を中心に、研究を深めてきた。

集録の編集にあたっては、紙数の都合で、「わくぐみ」としての指導計画しかのせることはできなかったが、研究の過程では、内容的深まりを追求しつつ指導計画が作成されることを付記したい。尚、ここに掲載する指導計画は、各学校が地域や学校の実態に応じて作成する指導計画の参考としてご活用いただければと願う。

本年度、各研究部が、その活動の特質をふまえ、その立場から、人間形成に如何にせまるかについての研究を深めるべく努力したが、その研究のまとめをする時間的な余裕もなく、年度が終わることになった。しかし、特別活動の目標をより深く追求していくことがとりもなおさず豊かな人間形成につながることを再確認することができた。来年度は研究のスタートを早くして時間的余裕をもちたいと話し合った。

ともあれ、各研究部とも、すぐれたリーダーのもと極めて充実した研究誌ができたことは、都特活専門部の誇りであり、喜びである。ご多忙をおして参加された先生方、集録の原稿執筆者、ご指導をいただいた諸先生方に心から厚くお礼を申しあげる次第である。

専門部副部長 岩 園 敏 明

研究集録 第 17 号

豊かな人間性を育てる特別活動

印刷 昭和56年2月28日  
発行 昭和56年3月5日  
編集 東京都小学校特別活動研究会  
発行 会長 久納 六郎  
練馬区富士見台4-16-10  
富士見台小学校内

印刷所 株式会社 三誠社  
代表取締役 茂呂 弥兵衛  
文京区本郷 2-22-4  
TEL 812-0241-811-2062